

# 平成23年度研究報告書

## 「親子心中」に関する研究(2)

### 2000年代に新聞報道された事例の分析

研究代表者 川崎二三彦 (子どもの虹情報研修センター)  
共同研究者 松本 俊彦 (国立精神・神経医療研究センター)  
高橋 温 (新横浜法律事務所)  
上野 昌江 (大阪府立大学)  
長尾真理子 (子どもの虹情報研修センター)

社会福祉法人 横浜博萌会

**子どもの虹情報研修センター**

(日本虐待・思春期問題情報研修センター)

平成23年度研究報告書

「親子心中」に関する研究（2）

2000年代に新聞報道された事例の分析

子どもの虹情報研修センター

# 目 次

はじめに .....	1
I 問題と目的 .....	2
II 方法 .....	2
III 結果と考察 .....	6
IV 総括 .....	18
引用文献 .....	19
資料1. 2000年代に新聞報道された「親子心中」事例の一覧 .....	20
資料2. 海外における「親子心中」事例の一覧 .....	62
資料3. 講義録『我が国における自殺の現状と課題』（平成23年4月4日） —国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所 松本俊彦 .....	65
資料4. 「親子心中」事例の検挙状況 .....	85

## はじめに

本研究を始めるに当たり、私たちが問題意識として持っていたことは、先の第1報の冒頭で次のように述べたとおりである。

いわゆる「親子心中」によって子どもが死亡する事例は、児童虐待の一つの形態として、現在も「社会保障審議会児童部会児童虐待等要保護事例の検証に関する専門委員会」が実施している「子ども虐待による死亡事例等の検証」の対象となっており、その数は、他の虐待死亡事例件数と比較しても決して少なくない。したがって、虐待死の最たるものとさえ言い得るこのような死亡事例をなくしていくことは、私たちの社会に課せられた大きな責務であると言えよう。

ところが、「親子心中」に関する分析、検証には大きな困難が伴う。というのも、現在も「親子心中」に関する公式統計がないため、わが国における実態の正確な把握が事実上不可能である上、具体的な事例に即した検証を行おうとしても、加害者が死亡している場合には追跡調査の手がかりを失い、原因の追及等が壁に突き当たってしまうため、防止策を検討することも簡単ではないからである。

そこで、本研究では、あらためて「親子心中」の実情に迫り、今後の防止に寄与することを目的とする。

研究の初年度には、これまでの先行研究を概観することを中心に据えて各種文献をあたったが、ここで明らかとなったのは、「『親子心中』に関しては、まだ十分解明されていないことも多く、さらなる検討、研究が必要ではないかと考えられる」こと、今後の課題として、「今日における『親子心中』の実態を把握するとともに、『母子心中』や『父子心中』、さらには『一家心中』などの類型別に、個々の事例のより詳細で深い分析、検証を行うこと」、その上で、「今後の防止策を探ること」であった。

\*

こうした点をふまえ、今年度は、「今日における『親子心中』の実態を把握すること」を目的として、新聞報道によって2000年代の事件を可能な限り収集し、分析することとした。新聞報道によったのは、すでに述べたとおり、「現在も『親子心中』に関する公式統計がない」と思われたこと\*1、および先行研究の多くが新聞報道を利用していることから、それらとの比較を行いやすいと考えたからである。

ところで、先行研究を検討した際、「親子心中」が日本独自のものか否かといった議論がなされていたことがわかったので、本報告書には、おもには現代アメリカを中心として、「親子心中」が疑われる海外の事件を収集して掲載した。なお、これらの事例収集とその整理は、当センターの山邊沙欧里研究員の協力を得て行った。

また、事例の収集・分析にあたり、「自殺」についても検討しておくことが必要と考え、本年度第1回の研究会において、本研究の共同研究者であり、自殺対策に造詣の深い国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所の松本俊彦氏（自殺予防総合対策センター副センター長）からレクチャーを受けた。本報告書には、その概要も掲載していることを付け加えておきたい。

---

\*1 その後、警察庁生活安全局少年課（2012）が、児童虐待事件の検挙件数についての報告の中で、「保護者が、児童と共に死ぬことを企図し、児童を殺害（未遂を含む）して自殺（未遂を含む）を図った場合（いわゆる無理心中）」を計上していることがわかった。本報告では、そのデータについての詳細な検討は行っていないが、資料4に平成15年から平成23年までのデータを掲載した。

## I 問題と目的

本研究は平成22年度からの継続研究であり、平成22年度は、「親子心中」に関する先行研究について概観・分析を行った（川崎他,2012）が、今年度は、前年度の研究から得られた知見を踏まえ、現代における「親子心中」の実態を把握することを目的とした。

なお、「親子心中」という呼称については、前年度に引き続き括弧つきで使用することとする。

## II 方法

2000年代（2000～2009年）の10年間において、朝日新聞および読売新聞で報道された18歳未満の子どもが被害者となって死亡した「親子心中」事例を分析対象とした。なお、新聞記事の収集には、朝日新聞社による記事データベース「聞蔵」、読売新聞社による記事データベース「ヨミダス」を用いた。

### （1）収集の手順

収集の手順は以下の通りである。

- ① 「心中」をキーワードに検索。
- ② 保護者（実父母・祖父母・養父母・叔父叔母・伯父伯母等）に「心中」の言動があった事例<sup>\*2</sup>を抽出した。なお、心中が疑われると記事に記してあるものは全て拾い、後の記事で心中が否定されたものは除いた。
- ③ 被害者が児童（18歳未満の子ども）である事例を抽出した。高3で年齢が17歳か18歳か確認できなかったものは除いた<sup>\*3</sup>。
- ④ 以上の方法で抽出した各事例については、改めて地名や名前などをキーワードに再検索を行い、できる限り全ての記事を収集した。

なお、本研究では、幅広く記事を収集するため、「心中」の真意が不明確な事例も含まれている。（事例No.21・32）

- |         |   |
|---------|---|
| 事例No.21 | 公園の駐車場で乗用車が炎上。中から成人女性と男の幼児2人の焼死体が発見された。警察は、事故と無理心中の両面から捜査している。                          |
| 事例No.32 | 実母（29）と長男（8）・長女（生後4か月）が乗った車が漁港に転落。長男は通報者の男性に助けられて無事だったが、実母と長女は死亡。警察は、心中の可能性もあるとして調べている。 |

\*2 加害者に具体的な自殺行為がなくても、心中の意図があったと報道された事例も分析対象としている。

\*3 被害者である子どもに、18歳未満の子どもと18歳以上の子どもの両方が含まれている場合は、18歳未満の子どものみをカウントしている。

## (2) 分類

### ① 既遂・未遂

本研究では、少なくとも1人以上の児童が死亡した「親子心中」事例を対象としているが、「加害者である親（保護者）と被害児童が、共に死亡したもの」を「既遂」、「加害者である親（保護者）は生存し、被害児童のみが死亡したもの」を「未遂」として区別した。加害者が複数人いる場合、1人でも生存している場合は「未遂」としてカウントした。

### ② 心中の形態

心中の形態は、表1のように定義して分類した。複数の保護者が関わっている事例については、加害者としてではなく被害者として関わっている事例も含まれている。

表1. 心中の形態ごとの定義

母子心中	実母と児童のみが事件にかかわったもの。
父子心中	実父と児童のみが事件にかかわったもの。
父母死心中	実父母と児童のみが事件にかかわったもの。
その他の心中	上記以外の事例全て。例えば、祖母と児童、祖父母と実母と児童、等。

### ③ 加害者

- ・加害者の特定は、複数の研究者で話し合っ決定した。基本的に児童を実際に殺害した者を加害者としたが、直接殺害していなくても警察や裁判によって殺害に同意しているとみなされた者も加害者とした。
- ・溺水や焼死等により加害者が分からない場合は「不明」として分類した。
- ・一酸化炭素中毒等で実父母共に亡くなっていた場合、および実父母共に縊死の場合は「実父+実母」として統一した。
- ・「実父」と特定する情報は得られなかったものの、事件の状況から実父の可能性が高いと判断したものは、「実父の可能性が高い」として分類した（事例No.48・58）。

事例No.48 実父（36）と実母（29）、長女（2）の遺体が自宅で発見される。実父は正座し、うつむいた格好で腹から血を流しており、実母は首から、長女は腹部と背中から血を出していた。遺書などは見つからないが、玄関は施錠されており、争った可能性がないこと等から、警察は無理心中の可能性が高いとみて調べている。

事例No.58 乗用車が海に飛び込み、車内から実父（28）、実母（28）、長男（1）の水死体を発見。実父のポケットから借金を苦しめた内容のメモ帳が見つかり、警察は心中とみている。

- ・遺書などで他の保護者が心中に同意していたとしても、警察が殺人容疑で逮捕・書類送検していない場合は加害者としてカウントしていない。
- ・実父が長女（16歳）とその子ども（孫にあたる：0歳）を殺害した事例（事例No.338）は、「実父（兼祖父）」として分類した。

事例No.338 実父（63）と実母（40）、次男（14）、三男（7）、次女（5）、里帰りしていた長女（16）とその子ども（女兒・生後6か月）の計7人が、車ごと海に転落。次男は自力で脱出したが、残る6人は全員死亡。警察は、実父のポケットから見つかった遺書の内容等から、無理心中と断定した。

#### ④ 児童の殺害の手段

児童の殺害手段は、表2のように定義して分類した。

表2. 児童の殺害手段の分類

分類名	定義
絞首	手、ヒモなどを使って首を絞めて殺害。
窒息	口、鼻などを、手やハンカチ、布団などで塞いで窒息させて殺害。
刃物	刃物で刺す、切るなどして殺害。
鈍器	バットや石などの鈍器で殴るなどして殺害。
投身	高所から一緒に飛び降りる、もしくは投げ落とすなどして殺害。場所（ビル、崖など）は問わないが、自動車を利用して転落した場合は含まない。
放火	自宅、車などに放火して殺害。
電車	電車への飛び込み、線路と一緒に入るなどして殺害。
自動車	自動車を利用し、海・池などへの飛び込み、高所から転落などにより殺害。
薬物	睡眠薬、頭痛薬、風邪薬、農薬などの毒物、アルコールなどを服用させて殺害。
拳銃	拳銃で殺害。
ガス（自宅）	自宅において、練炭、木炭、硫化水素、ガス栓を開けるなどして殺害。
ガス（車内）	車内において、練炭、木炭、排ガスなどにより殺害。
ガス（自宅外）	テントなど自宅外において、練炭、硫化水素発生などにより殺害。
入水（自宅）	自宅内（風呂場など）で、溺れさせるなどして殺害。
入水（自宅外）	川、海、湖など自宅外で、入水、溺れさせるなどして殺害。車を用いての入水は除く。
入水（不明）	水死させたが、場所が特定できなかったもの。
その他	床に叩きつけて殺害（事例No.64）、首吊りさせて殺害（事例No.191）など。
不明	殺害手段が不明なもの。

事例No.64 実母（33）が長女（生後52日）を台所の床に叩きつけるなどして殺害。実母は妊娠中、切迫流産の危険から投薬治療を受けた。生後の診察で長女に異常は認められなかったにも関わらず、実母は「薬の影響で視聴覚に障害をもって生まれた」「長女に障害があるため夫が自分たちを残して去ってしまう」と思い込み犯行に及んだという。

事例No.191 実母（40）と長女（9）が木に首を吊って死亡しているのが見つかった。死後4～5日たっており、警察は無理心中の可能性もあるとして調べている。

#### ⑤ 加害者の自殺手段

加害者の自殺手段については、表3のように定義して分類した。

表3. 加害者の自殺手段の分類

分類名	定義
縊死	首を吊り自殺。
刃物	包丁やナイフなど、刃物を用いた自殺（フォークも含む）。
投身	高所から飛び降り自殺。飛び降りた場所（ビル、崖など）は問わないが、自動車を利用して転落した場合は含まない。
放火	自宅、車、身体などに放火、出火による自殺。
電車	電車への飛び込み、線路に入っでの自殺。
自動車	自動車を用いて、海・池などへの転落・飛び込み、衝突などによる自殺。
薬物	睡眠薬、頭痛薬、風邪薬、農薬などの毒物の服用。
拳銃	拳銃自殺。
ガス（自宅）	自宅において、練炭、木炭、硫化水素、ガス栓を開けるなどの自殺。
ガス（車内）	車内において、練炭、木炭、排ガスなどによる自殺。
ガス（自宅外）	テントなど自宅外において、練炭、木炭、硫化水素発生などによる自殺。
ガス（不明）	ガス自殺を図るも、場所が特定できなかったもの。
入水（自宅）	風呂場など自宅での水死、溺死など。
入水（自宅外）	川、海、湖など自宅外での、水死、溺死など。車を用いての入水は除く。
その他	自絞殺（No.380）など。
同意の上殺害される	複数加害者の事例において、他の加害者に、同意した上で殺害されることによる自殺。主に、生存した他の加害者が「嘱託殺人罪」もしくは「承諾殺人罪」に問われたものなどを計上。なお、こうした場合も児童の殺害には同意していることから、加害者としている。
意思のみ	自殺の意思はあったが、実際に何の行動も起こしていないもの。
不明	自殺手段が不明なもの。

事例No.380 実母（34）・長女（7）・長男（5）が死亡しているのが見つかった。3人の首には絞められた跡があり、警察は実母が子どもらの首を絞めた後、自身の首を絞めて無理心中を図ったとみて調べている。

### （3）心中の動機について

先行研究では、新聞記事をデータとした調査でも「動機」について調べたものが多々ある。しかし本研究では、動機について特定できるだけの情報量を新聞記事から得られない事例が多かったこと、その後実際に公判で傍聴をしたところ新聞記事で得られた動機と異なる動機が語られることが多かったこと等を踏まえて、「動機」についての考察は行わなかった。この点については、裁判記録を基に事例分析を行う次報告において検討する予定である。



### Ⅲ 結果と考察

#### (1) 全体の傾向

##### ① 事件数・被害児童数、経年変化

2000年1月1日から2009年12月31日までの10年間における、「親子心中」件数は395件（年間平均39.5件）、被害児童数は552人（年間平均55.2人）であった。

既遂・未遂の割合をみると、既遂の方が65.3%と多かった（表4）。なお、「不明」に分類した1件は、加害者の生死が不明の事例である（事例No.335）。

表4. 既遂・未遂の割合

	件数	割合
既遂	258件	65.3%
未遂	136件	34.4%
不明	1件	0.3%

事例No.335 次男（1）が湖にて水死体で発見された。近くの橋に実母（37）の乗用車が放置しており、湖からは実母の免許証等が入ったバッグが発見されたが、実母は行方不明。警察は、無理心中の可能性もあるとみて、実母の行方を調べている。

各年の件数及び被害児童数の推移は図1のとおりである。年によって差が見られるが、新聞報道された事例をデータとしているため、他に注目される事件があれば紙面の都合によって報道されない可能性も否定できず、そのために数値が変動していることも考えられよう。しかし、毎年少なくとも30件以上の「親子心中」事件が起こり、40人以上の児童が死亡していることが分かった。

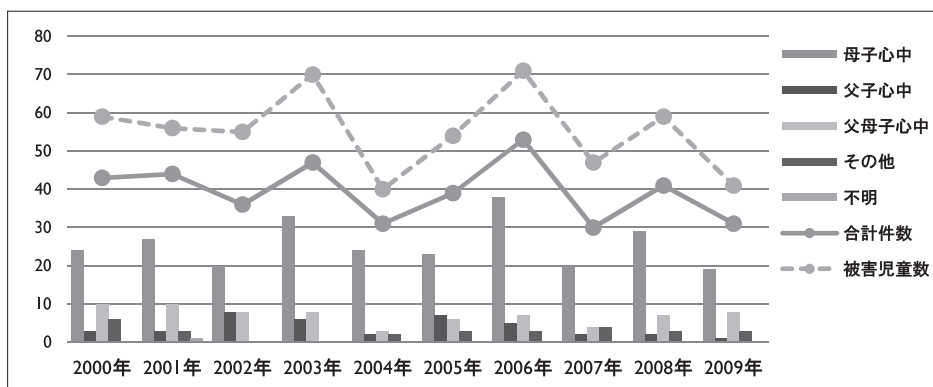


図1. 「親子心中」件数と被害児童数の経年変化

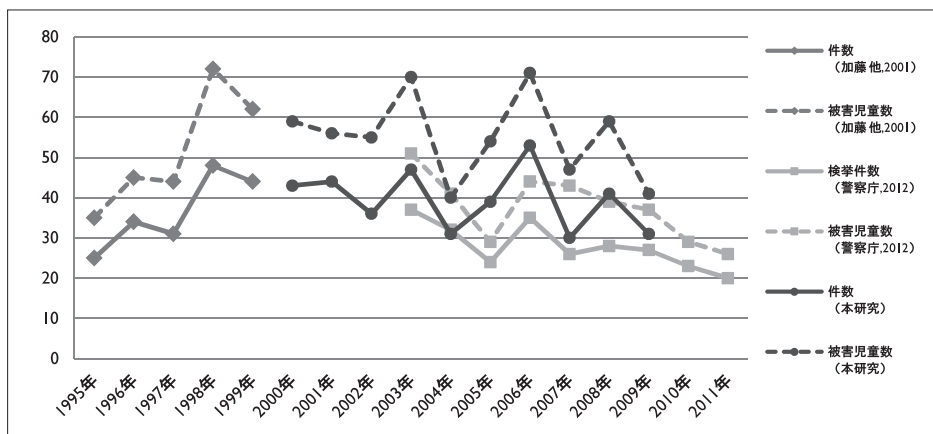


図2. 経年変化の比較

図2は、「親子心中」件数と被害児童数について、加藤他（2001）の研究結果および警察庁生活安全局少年課（2012）の検挙状況報告の結果\*4とを比較したものである。

本研究と同様に新聞記事をデータとした調査をしている加藤他によると、1995年から1999年までの5年間における「親子心中」件数は182件（年間平均36.4件）、被害児童数258人（年間平均51.6人）であった。社会保障審議会児童部会・児童虐待等要保護事例の検証に関する専門委員会（以下、専門委員会とする）が2004年以降に行っている調査の「親子心中」件数および被害児童数を見ると、「第4次報告（対象期間：2006年の1年間）」（2008）では48件（65人）、「第5次報告（対象期間：2007年の1年間）」（2009）では33件（52人）、「第6次報告（対象期間：2008年度の1年間）」（2010）では43件（61人）、「第7次報告（対象期間：2009年度の1年間）」（2011）では30件（39人）、「第8次報告（対象期間：2010年度の1年間）」（2012）では37件（47人）となっている\*5。年間平均件数は39.5件、年間平均被害児童数は53人であり、本研究と大きな差はなかった。また、警察庁生活安全局少年課によると、2003年から2011年までの9年間における「親子心中」の検挙件数は252件（年間平均28.0件）、被害児童数339人（年間平均37.7件）であった。

このように研究によって数値が異なるが、これは研究方法や「親子心中」の定義の違いによると考えられる。

## ② 心中の形態

心中の形態別に分類した結果を、図3に示した。なお、「不明」の1件は、母子心中か父母子心中か判断できなかった事例である（事例No.51）。

事例No.51 2001年3月、実母（27）が実父（27）の首を包丁で刺して殺害。「お世話になりました」というメモを残して、長女（6）と次女（5）を連れて、行方がわからなくなった。翌年6月、海底に沈んでいた軽乗用車から、実母と長女・次女の白骨化した遺体が見つかった。実母は、実父および子ども2人を殺害した容疑で、被疑者死亡のまま書類送検された。

\*4 警察庁生活安全局少年課（2012）は、児童虐待事件の検挙件数の報告に、外数として「保護者が、児童と共に死ぬことを企図し、児童を殺害（未遂を含む）して自殺（未遂を含む）を図った場合（いわゆる無理心中）」を計上している。ここでは、その中でも被害児童が死亡した事件の検挙件数および児童数を挙げた。詳細は、資料4を参照のこと。

\*5 専門委員会による調査では、「親子心中」による虐待死が調査対象として明確に含まれ始めたのが第4次報告以降であるため、ここでは第4次報告以降の数値を取り上げている。また、第5次報告の対象期間は2007年1月～2008年3月までの1年3か月間であるが、死亡事例数及び人数については2007年1～12月と2008年1～3月の各集計結果が記載されており、ここでは2007年1～12月の1年間のみを取り上げた。

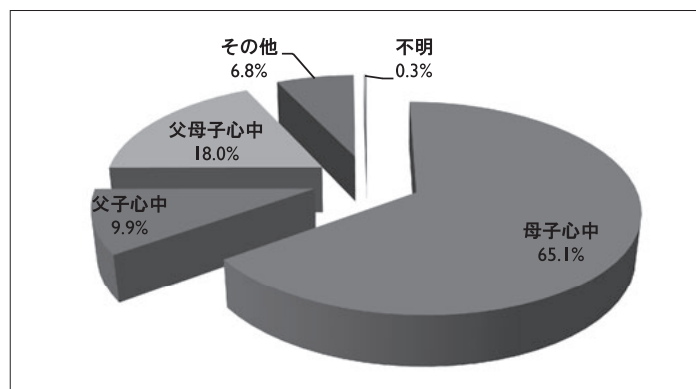


図3. 親子心中の形態別割合

形態別にみると、「母子心中」が65.1%と半数以上を占めていた。親子心中の中でも「母子心中」の占める割合が最も高いという傾向は、調査方法等は異なるものの、これまでの研究と同様の結果であった（須賀井他,1957；越永他,1975；石川,1984；高橋,1987；阿部,2010）。

形態別の既遂率をみると、父母子心中の既遂率が最も高かった（表5）。父母子心中71件のうち、実父母がともに加害者となった事例は30件あるが、その既遂率は73.3%（22/30件）であった。未遂の8件をみたところ、実父母ともに生存している事例は2件のみであり、他の6件は実父母のいずれかが死亡していた\*6。

表5. 形態別の件数および被害児童数

	全件数	内、既遂（率）	被害児童数
母子心中	257	158 (61.5%)	346
父子心中	39	29 (74.4%)	58
父母子心中	71	54 (76.1%)	107
その他の心中	27	16 (59.3%)	39
不明	1	1 (100.0%)	2
計	395	258 (65.3%)	552

次いで、父子心中、母子心中の順に既遂率が高かった。母子心中よりも父子心中の方が、既遂率が高い結果であった。

既遂率が最も低かったのは、「その他の心中」であった。ただし、ここには母子・父子・父母子心中以外の

のすべての類型が含まれており、複数の加害者全員が死亡した事例や、複数加害者のうち1人は死亡している事例も含まれているため、死亡者数はむしろ多くなっていた。

先行研究では、親子いずれかが未遂になったケースを「一部未遂」としてカウントしているものが多く（例えば、須賀井,1975；越永他,1975；石川,1984）、比較することは難しかった。

## （2）被害児童について

### ① 年齢

被害児童の年齢分布は、図4のとおりである。最も多かったのは0歳（13.6%）で、年齢が上がるに従って減少傾向にあり、5歳以下で半数以上（55.8%）を占めている一方、10歳以上の被害児童も20.1%（111人）を占めており、各年齢に幅広く分散していることが特徴的であった。このような傾向は、

\*6 6件のうち5件は実母死亡・実父生存であり、1件が実父死亡・実母生存であった。

加藤他（2001）や阿部（2010）、専門委員会（2012）\*7と同様であった。専門委員会（2012）の心中以外の虐待死の被害児童の年齢分布（図5）と比較すると、「親子心中」の被害児童の年齢は各年齢に分散しており、高年齢児であっても被害を受けていることが分かる。

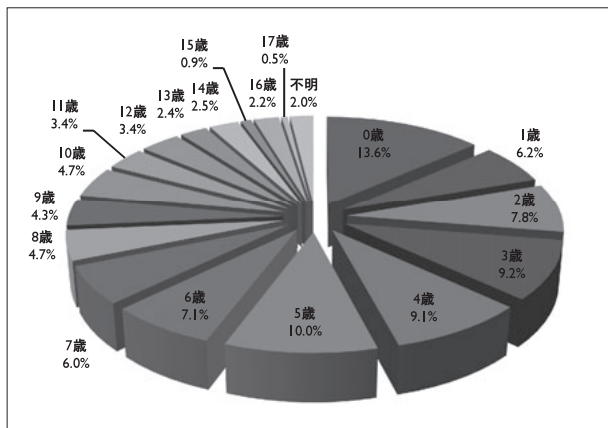


図4. 被害児童の年齢

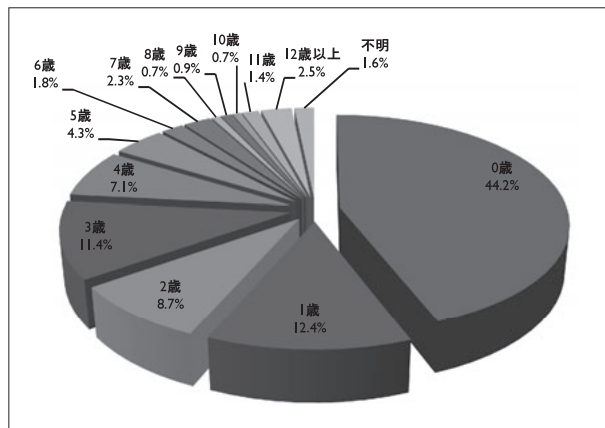


図5. 心中以外の虐待死の被害児童の年齢 (専門委員会,2012)

次に、母子心中と父子心中について、被害児童の年齢を示した（図6・7）。母子心中では、0歳（17.1%）が最も多く、次いで3歳・5歳（各9.2%）が多くなっていた。先行研究においても、母子心中の被害児童は0歳が最も多く、5歳以下で半数以上を占めており（須賀井他,1957；越永他,1975；石川,1984；高橋,1987）、現代においても同様の傾向を示すことが分かった。

他方、父子心中では、3歳（15.5%）が最も多く、次いで4歳・5歳・12歳（各10.3%）となっており、母子心中に比べて、被害児童の年齢が高くなっていることが特徴的であった。また、母子心中の被害児童の年齢と比較して、父子心中の被害児童の年齢は幅広く分散している傾向があり、これは先行研究と同様の結果であった（須賀井他,1957；越永他,1975；石川,1984；高橋,1987）。

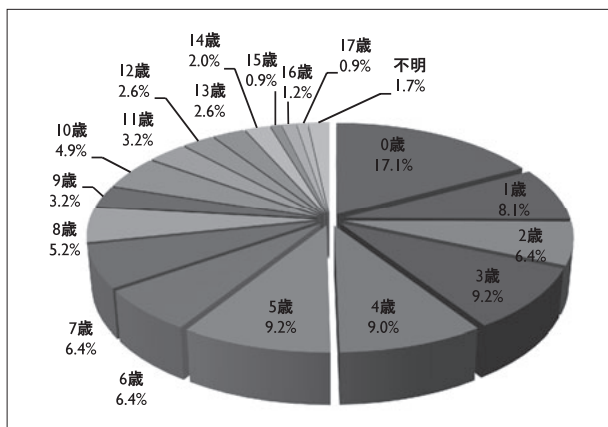


図6. 被害児童の年齢 (母子心中)

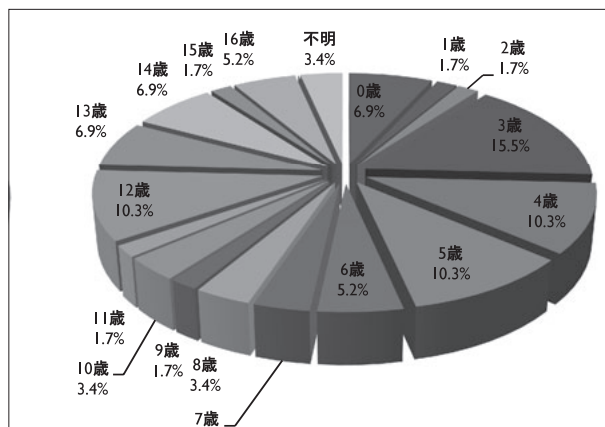


図7. 被害児童の年齢 (父子心中)

## ② 一事件における被害児童数

図8に、一事件における被害児童数（死亡児のみ）を示した。一事件で複数児童が被害にあって死

\*7 ここでは、専門委員会（2012）に記載されている、第1次報告から第8次報告の集計結果を元データとしている。

亡した事例は137件（34.7%）を占めていた。また、全件数のうち、死亡した児童に加えて、被害を受けたが生存した児童がいた事例は28件（7.1%）あった。一事件における死亡児童及び生存児童を加えた被害児童数は図9のとおりである。被害を受けた生存児童を含むと、ひとつの事例で複数の児童が被害を受けた事例数は、4割を占めていた。

父子心中では「1人」24件（61.5%）、「2人」11件（28.2%）、「3人」4件（10.3%）、一方の母子心中では「1人」175件（68.1%）、「2人」75件（29.2%）、「3人」7件（2.7%）であり、共に「1人」が最も多かった。これは、先行研究と同様の結果であった（須賀井他,1957；越永他,1975；石川,1984）。また、母子心中よりも父子心中の方が、一事件における被害児童数が多い傾向があることも、先行研究と同様であった（須賀井他,1957；越永他,1975；石川,1984）。

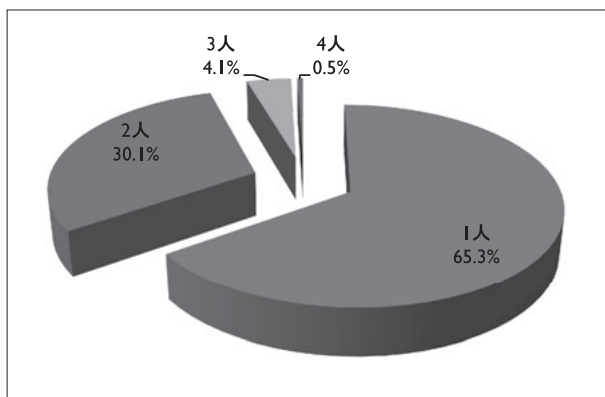


図8. 一事件における被害児童数（死亡児童のみ）  
(n=395)

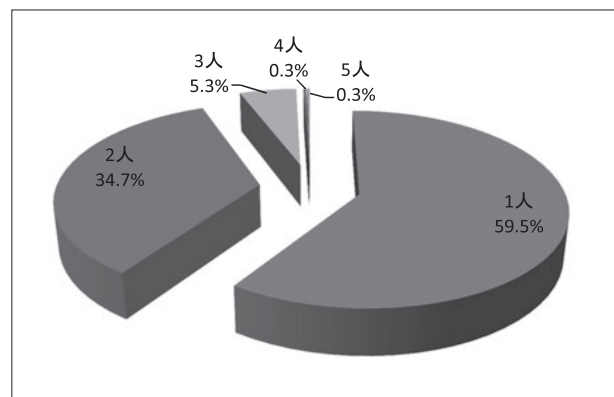


図9. 一事件における被害児童数（生存児童含む）  
(n=395)

### ③ 児童の殺害手段

児童の殺害手段についての結果は、表6のとおりである。「絞首」30.3%、「ガス」18.5%、「刃物」14.3%の順で多かった。また、複数の手段を用いて殺害した事例も32件（5.8%）あった（表7）。

表6. 児童の殺害手段（重複あり）(n=552)

殺害手段	件数	割合	殺害手段	件数	割合
絞首	167	30.3%	放火	46	8.3%
窒息	19	3.4%	薬物	12	2.2%
刃物	79	14.3%	拳銃	1	0.2%
鈍器	8	1.4%	ガス	102	18.5%
電車	8	1.4%	入水	29	5.3%
自動車	51	9.2%	その他	4	0.7%
投身	34	6.2%	不明	25	4.5%

表7. 児童の殺害手段「複数手段」の内訳

殺害手段	件数	殺害手段	件数	殺害手段	件数
絞首+刃物	12	鈍器+絞首	1	薬物+絞首	3
刃物+放火	1	鈍器+窒息	1	薬物+窒息	1
刃物+薬物	3	鈍器+放火	2	ガス+刃物	2
刃物+薬物+窒息	1	投身+絞首	2	ガス+窒息	1
刃物+その他	1	投身+窒息	1	計	32

形態別にみると、母子心中では「絞首」30.6%、「ガス」15.0%、「刃物」12.7%の順で多く、父子心中では「ガス」34.5%、「絞首」32.8%、「刃物」12.1%の順、父母子心中では「ガス」26.2%、「絞首」25.2%、「刃物」19.6%の順が多かった。母子心中では、他の手段に比べて「絞首」が相対的に多いことが特徴的であった。

また、越永他（1985）および高橋（1987）の研究では、母子心中における児童の殺害手段では「ガス中毒」が最も多かったが、本研究では「絞首」が最も多くなっていた。時代の変化によって殺害手段が変わったのか、サンプルや分析方法の違いによるものなのか、これについてはさらなる検討が必要である。

### （3）加害者について

#### ① 加害者の内訳

加害者の内訳を、形態別に一覧にしたものが表8である。

表8. 加害者の形態別内訳 (件数)

	母子心中	父子心中	父母子心中	その他の心中	不明	計
実父	-	39	30	2	-	71
実父の可能性が高い	-	-	2	-	-	2
実父（兼祖父）	-	-	-	1	-	1
実母	257	-	3	1	1	262
実父+実母	-	-	30	1	-	31
祖父	-	-	-	3	-	3
祖母	-	-	-	9	-	9
養父	-	-	-	1	-	1
養母	-	-	-	1	-	1
実父+叔父	-	-	-	1	-	1
実父+知人男性	-	-	-	1	-	1
実母+祖母	-	-	-	4	-	4
実母+叔父	-	-	-	1	-	1
実母+祖父+祖母	-	-	-	1	-	1
不明	-	-	6	-	-	6
計	257	39	71	27	1	395

加害者不明の6件を除く389件の加害者429人<sup>\*8</sup>の内訳を図10に示した。実母が<sup>6</sup>69.7%、実父<sup>9</sup>が24.9%を占めていた。専門委員会（2012）の報告においても、心中事例の「主たる加害者」は実母が70%、実父が24%であり、本研究も同様の結果であった。

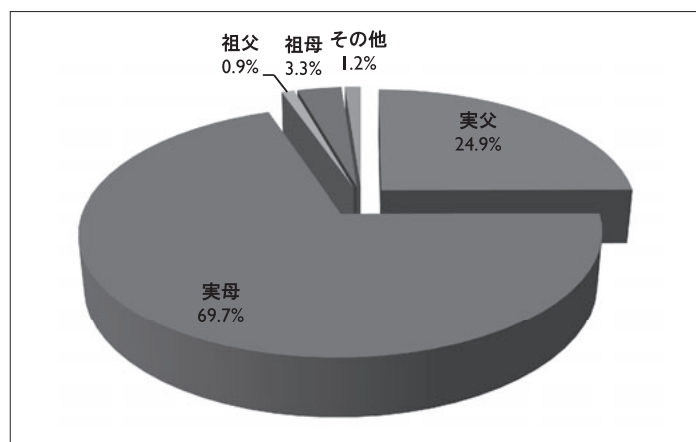


図10. 加害者の内訳 (n=429)

また、血縁関係が確認できない事例は3件のみで、そのうち養子縁組をした児童を殺害した事例が2件（事例No.39・63）、実父の知人男性が共に心中した事例が1件（事例No.262）であった。これらの事例の加害者と被害児童の詳細な関係は分からないものの、養子縁組などは血縁のある者による場合もあり、いずれにしても先行研究（川崎他,2012）と同様、本研究においても非血縁の関係の親子による心中事例は稀であることが示された。

- 事例No.39 ホテルで、養父（56）が養母（44）と養女（16）を絞殺。その後、カッターで手首を切って自殺を図るも死に切れず、ホテルの前で別の車と衝突して病院に運ばれた。養父は経済的理由から「2人を殺して自分も死のうと思った」と供述し、殺人容疑で逮捕された。
- 事例No.63 養母（54）が養女（12）を絞殺。自身も睡眠薬を飲んで自殺を図るも死に切れなかった。養母は、養父が交通事故で死亡した後、精神的に不安定で通院していた。養母は殺人容疑で逮捕・送検されるが、精神鑑定の結果、不起訴処分となった。
- 事例No.262 実父（40）・長女（9）・実父の知人男性（59）が車内で死亡しているのが見つかった。車内には七輪があったことから、警察は無理心中とみている。長女は児童養護施設に預けられていたが、数日前に実父が連れ出して外泊中だった。

次に、父母子心中をみると、加害者が確定できず不明のものも含めて71件あったが、そのうち、実父が単独で加害者となっている事例は、「実父の可能性が高い」事例を含めると32件（45.1%）となって最も多かった。また、実父母が同意の上で心中に至っているものも30件（42.3%）と多かった（図11）。他方、実母が単独で加害者となっているものは3件（4.2%）と少なかった。

\*8 一事件で複数の加害者が存在する場合があるため、事件数よりも加害者総数が多い。

\*9 ここでは、「実父の可能性が高い」2人および「実父（兼祖父）」1人を、「実父」に含んでいる。

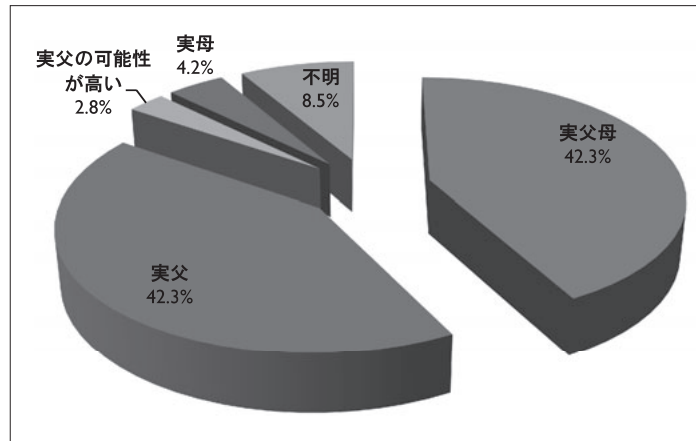


図11. 「父子」における加害者の内訳

その他の心中では、「祖母」9件（33.3%）が最も多く、次いで「実母+祖母」4件（14.8%）が続いていた。祖母が関わっている事例が多く、「実母+祖父+祖母」1件を加えると、祖母が加害者として関わった事例は14件（51.9%）と半数以上を占めていた。

## ② 自殺手段

加害者総数429人の自殺手段を示したものが表9である。加害者の自殺手段では、「ガス」19.8%、「刃物」18.4%、「縊死」12.6%の順に多かった。しかし、その自殺既遂率をみると「刃物」は30.4%と低く、「ガス」83.5%と「縊死」98.1%は高くなっていった。それ以外では、「投身」「電車」「自動車」も自殺既遂率が8割を超えていた。

また、「同意の上殺害される」は7件あった。そのうちの5件が父子心中であり、全て、実母が同意の上で実父に殺害されている事例であった。他方、心中の意図があったとされていながら実際には自殺行為に至らなかった加害者は23人で、5.4%を占めていた。

父子心中と母子心中の加害者の自殺手段を比較すると、父子心中では「ガス」の30.8%（12/39件）が最も多かったのに対して、母子心中では「刃物」の20.6%（53/257件）が最も多くなっていた。しかし、母子心中において「刃物」による自殺既遂は少なく（53人中15人が自殺既遂：自殺既遂率28.3%）、母子心中の自殺手段の中で最も自殺既遂の件数が高かったのは「投身」（39人中32人が自殺既遂：自殺既遂率82.1%）であった。

父子心中と母子心中の自殺既遂率を比較すると、母子心中では61.9%、父子心中では74.4%であり、父子心中の既遂率の方が高い傾向があった。

父子心中をみると、実父のみが加害者の事例32件の自殺既遂率は71.9%（23件）、実母のみが加害者の事例3件の自殺既遂率は100.0%であった。

父子心中のうち加害者が実父母の事例30件では、2人が同じ手段で自殺した事例が23件を占めており、中でも「ガス」15件が最も多かった。また、実母が同意の上殺害された事例5件のうち、その後実父が自殺既遂した事例は1件のみであった。30件のうち、実父の自殺既遂は23人（76.7%）、実母の自殺既遂は27人（90.0%）であり、実母の方が多くなっていた。



表9. 加害者の自殺手段

自殺手段	件数	構成割合	既遂率	自殺手段	件数	構成割合	既遂率
縊死	54	12.6%	98.1%	複数手段	9	2.1%	55.6%
刃物	79	18.4%	30.4%	(縊死+刃物)	(1)	(0.2%)	100.0%
投身	45	10.5%	84.4%	(刃物+投身)	(1)	(0.2%)	(100.0%)
放火	35	8.2%	85.7%	(刃物+放火)	(1)	(0.2%)	(0.0%)
電車	8	1.9%	87.5%	(刃物+薬物)	(1)	(0.2%)	(0.0%)
自動車	34	7.9%	82.4%	(刃物+ガス)	(1)	(0.2%)	(0.0%)
薬物	12	2.8%	8.3%	(刃物+入水)	(1)	(0.2%)	(100.0%)
拳銃	1	0.2%	100.0%	(刃物+同意の上殺害される)	(1)	(0.2%)	(100.0%)
ガス	85	19.8%	83.5%	(放火+入水)	(1)	(0.2%)	(100.0%)
(内、自宅)	(22)	(5.1%)	(54.5%)	(薬物+ガス)	(1)	(0.2%)	(0.0%)
(内、車内)	(61)	(14.2%)	(91.8%)	その他	1	0.2%	100.0%
(内、自宅外)	(3)	(0.7%)	(100.0%)	同意の上殺害される	7	1.6%	100.0%
(内、場所不明)	(1)	(0.2%)	(0.0%)	意思のみ	23	5.4%	0.0%
入水	20	4.7%	70.0%	不明	16	3.7%	68.8%
(内、自宅)	(1)	(0.2%)	(100.0%)	計	429	100.0%	—
(内、自宅外)	(19)	(4.4%)	(68.4%)				

### ③ 加害者の年齢

次に、実父・実母が加害者として関わった事例について、加害者の年齢を図12に示した。

加害者「実母」の年齢は、「25～29歳」で増加し「30～34歳」でピークを迎え、「35～39歳」も比較的多く、その後減少していた。従来の研究をみると、母子心中では「25～29歳」が最も多いという報告（須賀井他,1957；越永他,1975；高橋,1987）と、「30～34歳」が最も多いという報告（石川,1984）があるが、図に表すといずれも25歳から44歳にかけて山ができていた（川崎他,2012）。本研究では「30～34歳」にピークがあるものの、同様の山をえがいていた。しかし、本研究では「30～34歳」に次いで「35～39歳」の割合も高く、従来の研究に比べると山がやや右寄りとなっていた。

他方、加害者「実父」の年齢は、「30～34歳」から「45～49歳」までは横並びで多くなっていた。

従来の研究では、父子心中では「35～39歳」が最も多いという報告が多いが、30歳から増え始めて49歳までほぼ横ばいという報告もある（須賀井他,1957；高橋,1987）。父子心中は件数が少ないため必ずしも明確な特徴と言えるかどうかは分からないが、研究によってピークには違いはあっても、30歳から49歳まで横並びに多く見られる傾向があり、本研究においても同様であった。

実母と実父の年齢を比較すると、実父の方が実母よりも総じて年齢が高かったが、この傾向は従来の研究と共通していた。

なお、本研究において母子心中と父子心中で加害者の年齢を比較した場合も、同様の傾向が得られた。

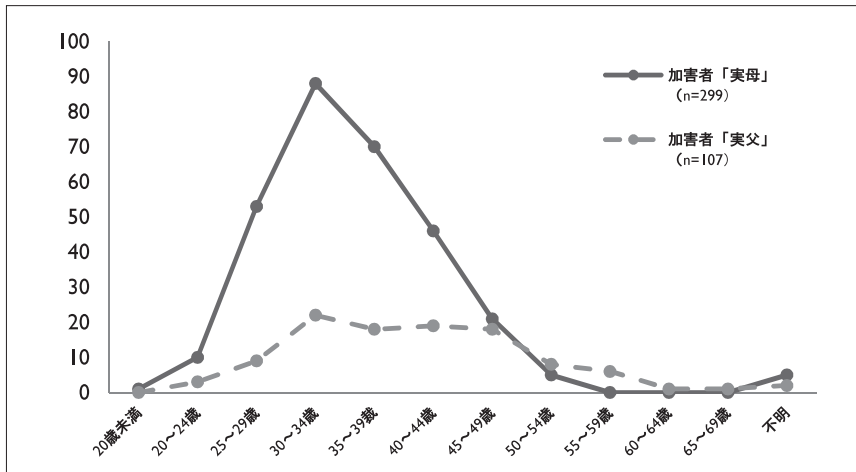


図12. 加害者の年齢

#### ④ 単独加害者「実母」と「実父」の比較

加害者別の特徴を捉えるために、実母が単独加害者の事例と実父が単独加害者の事例について、形態別に比較検討する。以下、実母単独加害者の事例を「実母単独」の事例、実父単独加害者の事例を「実父単独」の事例とする。

それぞれについて形態別の割合をみると、「実母単独」の事例では「母子心中」が9割以上を占めていた（図13）。「実母単独」の事例では「母子心中」に至ることが多い傾向があった。一方、「実父単独」の事例では「父子心中」は約5割であり、「父母子心中」が4割を占めていた（図14）。「実父単独」の事例では、「実母」の事例と比較して「父母子心中」の占める割合が高かった。

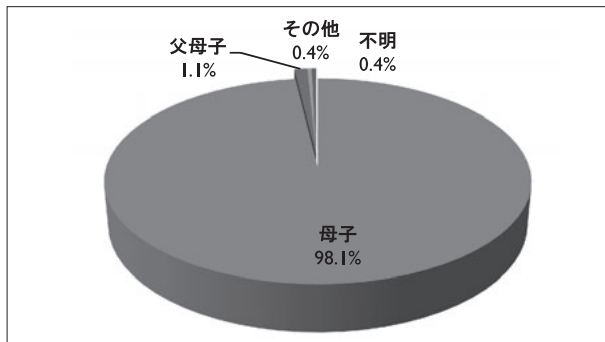


図13. 「実母」単独加害者 (n=262)

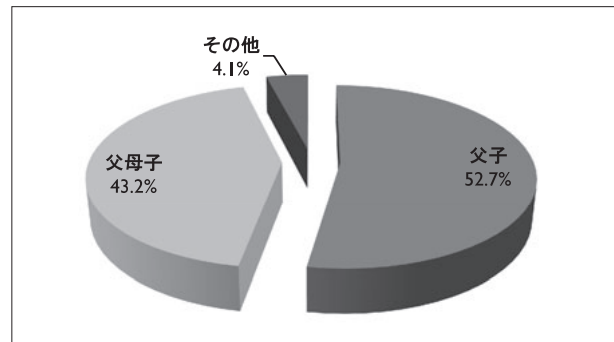


図14. 「実父」単独加害者 (n=74)

次に、「母子心中」及び「父子心中」における配偶者の状況についてみると、「母子心中」257件のうち配偶者の状況が分かったのは183件であり、その中で事件時に配偶者と同居していたのは約70%（129件）であった。一方「父子心中」39件のうち配偶者の状況が分かったのは35件で、その中で事件時に配偶者と同居していたのは約54%（19件）であった。配偶者と同居している中で、配偶者を残して「母子心中」あるいは「父子心中」に至った事例が少なくないことが分かったが、その割合は母子心中の方が高かった。

また、「父子心中」における「実父単独」の事例の配偶者の状況についてみると、離婚していたり別居中で配偶者と同居していなかったにも関わらず実母も殺害して父子心中に至った事例が4件(12.5%)含まれていたことが特徴的であった(事例No.11・13・53・358)。さらに、実母に離婚を切り出されて無理心中に至った事例も2件(事例No.257・393)あり、夫婦間のトラブルにより実父が「父子心中」に至る事例が見られた。

- 事例No.11 実父(30)が、実母(28)と長女(7)を包丁やナイフで数か所刺して殺害後、自身の手首を切って自殺を図った。実父は借金返済に困り、実母・長女とは別居状態だった。実父は「どうしたら妻子と一緒に暮らせるか考え、天国で一緒になろうと思った」等と供述した。
- 事例No.13 実父(31)が、離婚した実母(31)・長女(8)・長男(5)を乗せた車ごと池に飛び込んだ。子ども2人は後部座席で水死、実父母は脱出したが、実母は泳げず水死した。生き残った実父は「復縁を迫ったが断られたため無理心中を図った」と供述した。
- 事例No.53 実父(21)が、実母(21)・長男(2)・次男(生後7か月)を包丁で刺して殺害後、マンション屋上から投身自殺した。遺書はなかったが、事件数日前に夫婦は離婚しており、子ども達は実母が引き取り予定だった。実父は「別の男と一緒になくても、別れたらまた一緒になる」と周りに未練を打ち明けていた。
- 事例No.358 車が出火し、実父(34)・長女(4)は死亡、実母(37)は全身火傷で意識不明の重体。実母が搬送前に「元夫が灯油のようなものをかぶって火をつけた」と話したことから、警察は無理心中の可能性があるとみている。

- 事例No.257 実父(30)が、実母(29)と長男(3)を、包丁で首や胸などをそれぞれ40回以上刺して殺害。その後、実父自身も自殺を図るも死に切れなかった。実父は「(妻の)離婚の意志が固かったことから2人を殺して自分も死のうと考えた」と供述。長男の顔には、実父が殴ったと思われる痣が度々あったことが目撃されていた。実母と長男は1か月近く実家に帰省し、4・5日前に家に戻ったばかりだったという。
- 事例No.393 実父(49)が「妻子の首を絞めて心中しようとしたが死に切れなかった」と自首。公判では、実父は実母に対して承諾殺人罪を主張したが認められず、実父は仕事をせず実母に離婚を迫られ、妻子と離れたくないとの思いから2人を殺害したとして、殺人罪で懲役25年の判決を受けた。

表10は、それぞれの特徴について示したものである。

「実母単独」の事例では、「精神科等に通院・入院歴あり、もしくは通院中・入院中」が13.0%となっていた。さらに、事件前に精神科通院・入院歴がない場合でも、心神喪失により不起訴になる場合や、裁判で心神耗弱が

表10. 「実母単独」「実父単独」の事例の特徴

	「実母」(n=262)		「実父」(n=74)	
	人数	割合	人数	割合
精神科等に通院・入院歴あり、もしくは通院中・入院中	34	13.0%	2	2.7%
心中未遂歴あり	4	1.5%	0	-
借金あり・借金の保証人	16	6.1%	13	17.6%
失業中・無職	-	-	10	13.5%
生活保護受給中	4	1.5%	-	-
外国籍	3	1.1%	2	2.7%

認められる事例も多々見受けられた。その点も考慮すると、実数は分からないものの、精神疾患を持つ実母が加害者になっていることが珍しくないことが推定された。従来の研究でも、母子心中の動機・原因として実母の精神疾患が挙げられることは多く<sup>\*11</sup>、その傾向は現在でも続いていると考えられよう。

一方、「実父単独」の事例では「精神科等に通院・入院歴あり、もしくは通院・入院中」の数は2.7%で、裁判で心神耗弱が問題になる事例もほぼなかった。「実父単独」の事例では、「借金あり・借金の保証人」及び「失業中・無職中」が共に1割を超えており、借金や仕事に関する問題が多い傾向があった。

また、「実母単独」の事例に「心中未遂歴あり」の事例が4件（事例No.6・35・123・278）あったことは注目すべきであろう。このうち3件は、本事件の前に、児童の殺害にはいたらなかったものの同様の心中未遂事件を起こしており、周囲が注意して見ていた中で起こっている。もう1件は、過去に実子を心中目的で殺害し有罪判決（執行猶予付き）を受けた実母が、再び別の実子を心中目的で殺害している。数としては少ないが、心中行為が繰り返されることも留意しておくべきであろう。

- |          |   |
|----------|---|
| 事例No.6   | 実母（21）が長男（生後8か月）の首をネクタイで絞めて殺害後、自殺を図るも死に切れず自首した。実母は、実父の借金等に思い悩み、犯行前日にも子ども2人とガス自殺を図っていた。実父が帰宅して未遂に終わったが、実父の態度が変わらないため、本事件を起こした。                             |
| 事例No.35  | 実母（34）が次女（4）を洗面台に張った水に押し付けて水死させ、三女（2）の首を絞めて殺害しようとした。実母は、借金を抱えるなどの夫婦生活への絶望感から心中を図ったという。実母は約6年前にも、借金苦を原因に長女（当時3）を絞殺した後、自殺を図るも死に切れず、殺人罪で懲役3年執行猶予5年の判決を受けていた。 |
| 事例No.123 | 実母（39）が長女（7）の首を電気コードで絞めて殺害した。本事件の2か月程前、実父の浮気が原因で、実母は子どもとの無理心中を計画し、子ども2人に睡眠薬を飲ませていた。   |
| 事例No.278 | 実母（34）が長男（5）と次男（3）の首を絞めて殺害後、自殺を図るも死に切れず自首した。事件1週間前に実母が「次男の首を絞めた」と相談したため、実父は児童相談所に相談し、母子だけにならないように指導を受けていたところだった。  |

外国籍の親が「親子心中」の加害者となった事例も5件あった（事例No.30・96・236・332・384）。前報告書（川崎他,2012）では、「親子心中」が日本独自なものであるという説が広く浸透しているが、必ずしも正しくはなく、稲村（1977）が「広く世界に見られる現象である」と主張したことに触れたが、本研究においても、外国の文化をもつ親が日本国内において「親子心中」に至る事例があることが確認できた。

- |                    |   |
|--------------------|---|
| 事例No.30<br>(父母子心中) | イラン国籍の実父（41）が、刃物で日本人の実母（32）と長女（1）を切りつけた後、自分の首などを切って自殺した。長女は出血多量で死亡、実母は生存。実父は1か月程前までは会社勤務していたが、事件当時は無職だった。 |
| 事例No.96<br>(母子心中)  | ホテルの一室で韓国籍の実母（38）と長女（4）の遺体が発見された。実母は縊死、長女には薬物を飲ませた形跡があった。実母の遺書もあり、警察は無理心中とみている。                           |

\*11 前報告書（川崎他,2012）を参照のこと。

- 事例No.236 (母子心中) フィリピン国籍の実母(35)・長男(13)・次男(8)・長女(生後10か月)が死んでいるのを同国籍の実父(義父:43)が見つかり、通報。実母が、子ども3人の首を包丁で刺すなどして殺害した後、自分も喉を切って自殺したとみられる。タガログ語で「許してください」などと書かれたメモが見つかった。長男と次男は実母の前夫との間の子で、長女はフィリピン国籍の実父(現在の夫)との間の子だった。
- 事例No.332 (母子心中) 実母(33)が、次男(3)の首を包丁で切って殺害、長男(5)を絞殺しようとしたが、「生きたい」と泣いて懇願したため手を止めた。実母は数年前に中国から来日し、日本人の実父(53)と結婚し、家族4人で暮らしていた。しかし、生活習慣の違いなどで精神的に不安定になり、入院を繰り返していた。
- 事例No.384 (父子心中) 実父(38)が、実母(38)・長男(15)を包丁で刺して殺害、自らも腹などを刺して自殺。実父らは母方祖父(中国残留孤児)を頼って11年前に来日、夫婦ともに日本語が話せなかった。警察は、遺書などはなかったが実父が無理心中を図ったとみて調べている。

## IV 総括

本研究では、今日における「親子心中」の実態を捉えるため、新聞記事をデータとして分析・検討を行った。従来の研究では子どもの年齢が18歳未満に限られていないものが多かったため、先行研究と比較するには注意を要した。その点を踏まえ、明らかになった点を以下に記す。

1. 2000年代(2000～2009年)の10年間における「親子心中」の件数は、395件、被害児童数は552人であった。
2. 「親子心中」のうち、「母子心中」が半数以上を占めており、最も多かった。この傾向は、従来の研究と同様の結果であった。
3. 被害児童の年齢は0歳が最も多く、5歳以下で半数以上を占めている一方、各年齢に幅広く分散していた。また、「母子心中」では0歳が多く、5歳以下が半数以上を占める一方、「父子心中」では3歳が最も多く、「母子心中」の被害児童の年齢よりも高い傾向があった。この傾向は、従来の研究と同様の結果であった。
4. 一事件で複数の児童が被害にあった事例は、4割以上を占めていた(被害にあったが生存した児童も含む)。また、「母子心中」よりも「父子心中」の方が一事件における被害児童数が多かった。
5. 児童の殺害手段は、「絞首」が最も多く、次いで「ガス」、「刃物」が多かった。
6. 加害者の自殺手段は、「ガス」、「刃物」、「縊死」の順に多かった。
7. 加害者の年齢は、実父・実母共に「30～34歳」が最も多かったが、実父では30歳から49歳までは横並びに多くなっていた。一方、実母の年齢は、25歳から増え始め「30～34歳」をピークにして39歳までが圧倒的に多くなっていた。
8. 実母が単独加害者の事例では9割以上が「母子心中」の形態であったが、実父が単独加害者の事

例での「父子心中」は約半数で、「父母子心中」の占める割合が約4割と多くなっていた。

9. 配偶者の状況について把握できた事例をみると、「母子心中」「父子心中」共に半数以上が配偶者と同居しており、同居している配偶者を残して「母子心中」あるいは「父子心中」に至っている事例が少なくなかった。一方、実父が単独加害者である「父母子心中」の中には、離婚や別居等で同居していない実母を殺害して心中に至った事例もあった点が特徴的であった。
10. 実母が単独加害者となった事例では、精神科等に通院・入院歴があった事例が13%となっており、その他にも心神喪失で不起訴になった事例や、裁判で心神耗弱が認定された事例も多々みられた。一方、実父が単独加害者の場合は、精神科等に通院・入院歴のあった事例はほとんどなかったが、借金等があった事例、事件当時に無職もしくは失業中だった事例がそれぞれ1割以上を占めていた。
11. 「親子心中」に至った動機・背景については、裁判記録を基に事例分析を行う次年度の研究において検討する予定である。

#### <引用文献>

- 阿部千春（2010）「母による親子自他殺の動機とその背景要因に関する研究」民族衛生 76（3）
- 石川英夫（1984）「最近の親子心中の実態」東京経済大学 人文自然科学論集 66
- 加藤悦子 他（2001）「過去5年間に新聞報道された子ども虐待死事件の傾向と課題」子どもの虐待とネグレクト 3（1）
- 川崎二三彦 他（2012）『「親子心中」に関する研究（1）：先行研究の検討』子どもの虹情報研修センター平成22年度研究報告書
- 警察庁生活安全局少年課（2012）「児童虐待及び福祉犯の検挙状況（平成24年上半年）」([http://www.npa.go.jp/safetylife/syonen/jidouguyakutai\\_fukushihan\\_kenkyo2409.pdf](http://www.npa.go.jp/safetylife/syonen/jidouguyakutai_fukushihan_kenkyo2409.pdf))
- 越永重四郎 他（1975）「戦後における親子心中の実態」厚生の指標 22（13）
- 社会保障審議会児童部会・児童虐待等要保護事例の検証に関する専門委員会（2005-2012）「児童虐待による死亡事例の検証結果等について（「児童虐待等要保護事例の検証に関する専門委員会」第1-8次報告）」
- 須賀井正謙 他（1957）「監察医務より見たる情死と親子心中」科学と捜査 10
- 高橋重宏（1987）『母子心中の実態と家族関係の健康化』川島書店

資料1

2000年代に新聞報道された「親子心中」事例の一覧

事例No.	事件発覚年	心中の形態	心中の未遂/既遂	加害者				子の殺害手段	死亡した被害児童数	生存した被害児童の有無
				加害者	自殺手段	自殺の未遂/既遂	刑など			
1	2000	母子	未遂	実母	刃物	未遂	不明	絞首	1	無
2	2000	母子	既遂	実母	投身	既遂	—	窒息×2	2	無
3	2000	その他	既遂	母方祖母	縊死	既遂	—	刃物×3	3	無
4	2000	父母子	既遂	実父 実母	ガス(車内) ガス(車内)	既遂 既遂	— —	ガス(車内)	1	無
5	2000	その他	未遂	実父 実母	刃物 同意	未遂 既遂	懲役13年 —	絞首×2	2	無
6	2000	母子	未遂	実母	刃物	未遂	懲役3年 執行猶予4年	絞首	1	無
7	2000	母子	未遂	実母	投身	未遂	不明	投身	1	無
8	2000	母子	未遂	実母	投身	未遂	懲役4年6か月 (心神耗弱)	刃物	1	有
9	2000	父母子	既遂	実父	縊死	既遂	—	絞首×2	2	無
10	2000	父子	未遂	実父	薬物	未遂	不明	薬物	1	無
11	2000	父母子	未遂	実父	刃物	未遂	懲役12年	刃物	1	無
12	2000	父母子	既遂	不明	(不明)	不明	—	不明×2	2	無
13	2000	父母子	未遂	実父	自動車(入水)	未遂	懲役12年	自動車(入水)×2	2	無
14	2000	父母子	既遂	実父	投身	既遂	—	刃物	1	無
15	2000	母子	未遂	実母	刃物	未遂	懲役2年8か月 (承諾殺人罪)	刃物	1	無
16	2000	父母子	既遂	実父 実母	縊死 縊死	既遂 既遂	— —	絞首×2	2	無
17	2000	父子	既遂	実父	縊死	既遂	—	刃物	1	無
18	2000	母子	未遂	実母	入水(自宅外)	未遂	懲役3年 執行猶予4年 (心神耗弱)	入水(自宅外)	1	無
19	2000	母子	未遂	実母	投身	未遂	懲役3年 執行猶予4年 (心神耗弱)	投身	1	有

事例の概要
<p>実母(49)が、長男(10)の首を絞めて殺害した後、自身の胸や首などを包丁で刺した。病院に運ばれたが重傷。実母は「夫(51)の病気がつらく、子どもを殺し、自分も死のうと思った」と話しており、警察は、実母が無理心中を図ったとみて、回復を待って殺人容疑で調べる。</p>
<p>実母(32)が、長男(1)と次男(生後5か月)を窒息死させた後、3階建てマンションから投身自殺。子ども2人の司法解剖の結果、外傷はなく、実母が口をふさぐなどした可能性もあると見ている。実父母と子ども2人の4人家族だった。</p>
<p>母方祖母(71)が、母方祖父(70)と長女(9)、次女(7)、三女(5)を刃物で切りつけて殺害した後、首をつって自殺。母方祖父と実父母、子ども3人の7人家族だった。警察は、祖母が無理心中を図って4人を殺害したとして、被疑者死亡のまま書類送検した。動機は、祖父の看病疲れと、子ども3人の養育疲れとした。祖母は、糖尿病で寝たきりになった祖父の看病と、実父らが働きにでている間の子ども3人の養育をしていたが、祖母も病気がちで「疲れた」などと話していたという。</p>
<p>実父(59)と実母(42)が、長女(8)とともに、車内に排ガスを引き込み死亡。死因はいずれも一酸化炭素中毒。実父は会社に休暇届けを出し、一週間ほど前に、一家で自宅を出たらしい。警察は、一家心中したとして、動機などを調べている。</p>
<p>実父(52)が、父方祖母(80)、実母(38)、長男(6)、長女(4)の首を絞めて殺害し、自身は死に切れず自首した。実父は殺人容疑で逮捕。実父は、借金をしてスナックを開店させたが、客足が減り、消費者金融から借金をして、別の借金を返済する状況に追い込まれていた。犯行当時には、総額が約2800万円にふくれあがっていた。妻や周囲には、自分は癌だと偽り、借金返済を逃れていた。返済に行き詰った実父は「自分は死ぬ」と実母に相談したところ、実母に「みんなで死のう」と持ちかけられ、一家心中を決意したという。実父は、殺人罪と承諾殺人罪で懲役13年の実刑判決。</p>
<p>実母(21)が、長男(生後8か月)の首をネクタイで絞めて殺害し、自身も手首を切るなどして自殺を図ったが死に切れず自首した。実母は、実父の借金や子育てに非協力的な態度などに思い悩み、犯行前日にも、子ども2人とガス自殺を図っていた。実父が帰宅したため未遂に終わったが、実父の態度が変わらないため、再び心中を決意した。子どもを2人とも殺すのはかわいそうだと思い、長男を殺害した(長男以外の子どもの詳細は不明)。実母は、殺人罪で、懲役3年執行猶予4年の判決を受ける。</p>
<p>実母(30)が、長女(4)と一緒に、ショッピングセンターに併設する6階建ての立体駐車場から飛び降りる。2人は病院に運ばれたが、長女は頭を強く打っており約4時間40分後に死亡。実母も、肋骨など約10か所を骨折して重傷。車内には長男(2)が一人で取り残されており、警察は、実母が長女を連れて発作的に無理心中を図ったとみて、当時、仕事に出かけていた実父(28)らから事情を聞いている。</p>
<p>実母(26)が、長女(3)と次女(1)の胸を包丁で刺し、自身はビルの4階～5階の踊り場から飛び降り、腰の骨が折れる大怪我を負った。長女は死亡(死因は失血死)、次女も約1か月の重傷。実母は殺人と殺人未遂の容疑で逮捕された。実母は、1年ほど前から育児ノイローゼで通院しており、事件時は嫁ぎ先の家族との関係で実父(27)と口論となり、孤独感から自殺しようと思い、「自分だけ死んで、子どもを残すのはかわいそう」と考え犯行に及んだと供述。心神耗弱が認定され、懲役4年6か月の実刑判決。</p>
<p>首を絞めて殺害された実母(28)と長男(6)、次男(4)と、首を吊って死亡している実父(55)が発見される。実父が書いたと思われる遺書があり、自分が3人を殺したことと「ごめんなさい」という謝罪の言葉が書かれていた。実父は町内の工場部品組み立ての仕事をしていたが、肝臓の病気などで約3年前にやめており、警察は生活苦から無理心中を図ったとみている。</p>
<p>実父(37)が、長女(5)に薬物を飲ませて殺害した疑いで逮捕された。山中で、車内でぐったりしている2人を見つけたという。実父は「娘を殺して、後を追って死のうと思った」などと供述している。</p>
<p>実父(30)が、実母(28)と長女(7)を包丁やナイフで数か所刺して殺害し、自身も手首を切って自殺を図った。知人女性が発見され、実父は殺人容疑で逮捕。実父は、数百万円の借金返済に困り、実母・長女とは別居状態、知り合いの家やアパートなどを転々としていた。実父は「どうしたら妻子と一緒に暮らせるか考え、天国で一緒になろうと思った」などと話した。懲役12年の実刑判決。</p>
<p>実父(35)、実母(31)、長男(10)、長女(8)の一家が4月7日朝、家を出たまま行方不明となる。4月14日、川で長男の遺体と車を発見。翌日、実父、実母、長女の遺体も発見された。実父の経営する会社が経営不振で、自宅には遺書めいたメモが残されていたことから、警察は無理心中とみている。</p>
<p>実父(31)が「車がため池に転落した」と110番通報し、警察がかけつけると、離婚した実母(31)、長女(8)、長男(5)は水死。後日、実父は殺人容疑で逮捕、「復讐を迫ったが、断られたため無理心中を図った。自分は死に切れなかった」と供述。実父の運転で池に飛び込み、子ども2人は後部座席で水死、実父母は脱出したが、実母は泳げなかったため水死した。懲役12年の実刑判決。</p>
<p>マンション駐車場で、実父(35)の遺体を発見。警察が調べたところ、自宅で実母(30)と長女(5)が首や背中などを数か所刺され、死亡していた。一家は3人家族で、部屋には包丁やナイフ計4本が散乱、実父の倒れていた場所はベランダの真下だった。玄関にカギがかかり、部屋を荒らされた跡もないことから、警察は実父が一家心中を図り、投身自殺したとみている。</p>
<p>実父(50)の119番通報で警察が駆けつけたところ、長女(16)が上半身などを数か所刺されて死亡しており、実母(52)も胸などに刺し傷を負っていた。実母は「娘を包丁で刺し殺し、自分も自殺しようとした」と供述し、逮捕。実母は消費者金融への借金返済や実父との不仲に悩んでいたところ、長女から「死んでお父さんと離れようか」などと言われ心中を決意。承諾殺人罪で懲役2年8か月の実刑判決。</p>
<p>山中で、長男(15)と次男(4)が車内で死亡しているのが発見される。翌日、実父(46)と実母(34)が山中で首を吊って死んでいるのを発見。警察は、実父母が経営難から一家心中を計画、子ども2人を絞殺した後に自殺したとして、2人を被疑者死亡のまま殺人容疑で書類送検した。</p>
<p>「自室で長男が倒れている」と119番通報があり、警察が駆けつけたところ、長男(16)が自室のベッド上で腹部を刺されて死亡していた。その後、実父(45)が自宅とは離れた実家で首を吊って死亡しているのを発見。家族は、実父母、長男、長女、次男の5人暮らしだった。長男は中学を卒業後、私立高校に入学したが、留年。学校を休み気味で、家庭内暴力を振るようになっていたという。実父と長男はこの日、それぞれ会社と学校を休んでおり、警察は無理心中を図った疑いもあるとみている。</p>
<p>実母(40)が、次男(3)の発達の遅れから将来を悲観し、無理心中を図って、海岸から共に海に飛び込み、次男を殺害した。実母は殺人容疑で逮捕。「犯行当時は心神耗弱状態にあった」として、懲役3年執行猶予4年の判決を受ける。</p>
<p>実母(33)が、長男(5)と次男(3)を歩道橋から投げ落とし、自身も投身自殺を図った。3人は病院に運ばれ、長男は全治約10日の大怪我、次男は事件から4日後に脳損傷で死亡、実母は骨盤骨折の重傷。実母は実父との不和や2人の子どものアトピー性皮膚炎に悩んでおり、不眠などを訴えて通院していた。実母は殺人と殺人未遂の罪に問われ、「うつ病で心神耗弱状態だった」として懲役3年執行猶予4年の刑が言い渡された。</p>

事例No.	事件発覚年	心中の形態	心中の未遂/既遂	加害者				子の殺害手段	死亡した被害児童数	生存した被害児童の有無
				加害者	自殺手段	自殺の未遂/既遂	刑など			
20	2000	その他	既遂	母方祖母 実母	ガス(車内) ガス(車内)	既遂 既遂	— —	ガス(車内)	1	無
21	2000	母子	既遂	実母	放火	既遂	—	放火×2	2	無
22	2000	母子	既遂	実母	投身	既遂	—	刃物	1	無
23	2000	母子	既遂	実母	投身	既遂	—	投身	1	有
24	2000	母子	既遂	実母	刃物	既遂	—	鈍器十絞首	1	無
25	2000	母子	既遂	実母	投身	既遂	—	投身	1	無
26	2000	母子	既遂	実母	刃物	既遂	—	刃物×2	2	無
27	2000	母子	未遂	実母	刃物	未遂	懲役5年	刃物	1	無
28	2000	父母子	既遂	実父 実母	縊死 縊死	既遂 既遂	— —	絞首 窒息	2	無
29	2000	母子	既遂	実母	不明	既遂	—	絞首	1	無
30	2000	父母子	既遂	実父	刃物	既遂	—	刃物	1	無
31	2000	父子	未遂	実父	ガス(自宅)	未遂	懲役2年6か月	ガス(自宅)	1	無
32	2000	母子	既遂	実母	自動車(入水)	既遂	—	自動車(入水)	1	有
33	2000	その他	既遂	母方祖母	縊死	既遂	—	絞首×2	2	無
34	2000	母子	既遂	実母	縊死	既遂	—	絞首×2	2	無
35	2000	母子	未遂	実母	意思のみ	未遂	懲役8年	入水(自宅)	1	有
36	2000	父母子	未遂	実父 実母	ガス(自宅)十刃物 同意	未遂 既遂	懲役15年 —	ガス(自宅)十刃物 ×2	2	無
37	2000	母子	未遂	実母	意思のみ	未遂	懲役2年6か月 (心身耗弱)	絞首十刃物	1	無
38	2000	母子	既遂	実母	投身	既遂	—	投身×2	2	無
39	2000	その他	未遂	養父	刃物	未遂	不明	絞首	1	無

事例の概要
<p>実母(26)と母方祖母(50)、長女(1)がマフラーからホースを使って車内に排ガスを引き込み、死亡しているのが見つかった。死因は一酸化炭素中毒。窓ガラスには粘着テープで目張りがされていた。車内には祖母の自宅の電話番号をメモした紙片が残されていたが、遺書はなかった。警察は、現場の状況から無理心中とみて調査。</p>
<p>「海のふるさと公園」の駐車場で乗用車が炎上、約40分後に消止められ、中から成人女性と男の幼児2人の計3人の焼死体が発見された。警察は事故と無理心中の両面から捜査している。</p>
<p>実母(47)が「娘を殺した」と110番通報。玄関には胸などを数十か所刺された次女(14)、実母も中庭に倒れているのが見つかった。2人は病院で死亡が確認された。警察は、実母が次女を刺して通報後、投身自殺を図ったとして、実母を被疑者死亡のまま殺人容疑で書類送検する。家族は、実母と実父(48)、長女(18)と次女の4人。次女は、昨年3月に姉妹の喧嘩で実父に殴られたことがきっかけで両親と仲が悪くなり、家庭内暴力を振るうようになる。11月には実父が別居を始め、今年4月には実母と長女が実父のところで暮らすようになり、次女は一人暮らしをしていた。次女が家にいない時間を見計らって実母は家に行き、食事や洗濯をしていたが、事件があった日は次女の帰宅が早く、鉢合わせになりトラブルとなったらしい。実父と実母は今年2月から区の教育相談所に20回以上相談に行っており、5月には学校側にも相談。スクールカウンセラーが次女と話し合いを続けていた。</p>
<p>実母(26)が、長男(4)と長女(2)とともに9階から投身自殺。実母と長男は死亡、実母に抱かれていた長女は腰や足の骨を折る大怪我をした。警察は、遺書はないが、今春幼稚園に入った長男が園に行きたがらず、実母が悩んでいたことや、9階非常階段に大人用のサンダルと子ども用の靴が並べられていたことから、無理心中とみて調べている。</p>
<p>帰宅した実父(51)が、実母(46)と長女(16)が血を流して死亡しているのを発見。長女には、鈍器のような物で殴られた跡があり、首にはタオルのような布が巻かれていた。実母は腹部から血を流して死亡しており、室内には血のついた刃物が落ちていた。家族は、実父母と長女の3人暮らし。自宅の玄関や窓はすべて施錠されており、2人が普段着だったことや遺体の状況から、警察は実母が無理心中を図った可能性があると調べている。</p>
<p>実母(26)が長男(3)と9階の住宅通路から投身自殺。2人とも死亡。実母は、実父、長男、次女の4人暮らし。前日夜、実母と長男は母方祖父母宅へ戻ったが、本日午前3時頃から行方がわからなくなっていた。母方祖母によると実母は子育てに悩んでいたようで、警察は無理心中とみている。</p>
<p>実母(37)が、長女(10)と次女(6)の腹部を包丁で刺して殺害、自身も腹を刺し死亡。実母と実父(44)、娘2人の4人暮らしで、実父は朝から出勤していた。実母は一昨年1月頃から市内の病院の精神科に通院しており、警察は無理心中事件とみている。</p>
<p>実父(23)が帰宅すると、実母(25)と長女(1)が血だらけで倒れており119番通報。長女は胸を刃物で数か所刺されて死亡、実母は胸や手首などに刺し傷はあるが命に別状はない。警察は、実母を殺人容疑で逮捕。家族は、実父母と長女の3人暮らし。実母は複数の消費者金融から計200万円を超える借金をしており、そのことを実父や祖母に知られることを恐れ、長女を道連れに心中を決意したという。懲役5年の実刑判決。</p>
<p>実父(31)と実母(29)が、ホテルの客室で首を吊って死んでいた。駐車場の車内では、長男(5)と次男(3)の遺体が見つかった。司法解剖の結果、長男は細い紐のようなもので首を絞められたこと、次男は鼻や口をふさかれたことによる窒息死と判明。遺書には、父方祖父が経営し、実父が役員を務めていた会社の経営難による借金の苦勞が書かれていたという。警察では、夫婦が死んでいた客室内でカッターナイフが見つかったこと、夫婦の手首に切り傷があること、車内に血痕が付着していたことなどから、実父母が無理心中を図ったとみて、2人を殺人容疑で被疑者死亡の書類送検する方針。</p>
<p>実母(30)が長女(4)を殺害し、その後自殺を図る。警察によると、長女の首には絞められた跡があり、近くには包丁が落ちていた。実母は、父方祖父らとともに1999年冬に家を新築し、引っ越してきたばかりだった。警察は、実母を殺人容疑で被疑者死亡のまま書類送検。</p>
<p>実母(32)が「夫と子どもが血まみれで倒れている」と119番通報。警察が駆けつけたところ、イラン国籍の実父(41)と長女(1)が倒れており、2人は出血多量で死亡。実母(日本人)によると、実父が長女を刃物で切り、実母の顔を切った後、自分の首などを切って自殺した。実父は1か月ほど前までは運送会社に勤務していたが、事件当時は無職だった。警察は、実父が無理心中を図ったとみている。</p>
<p>実父(33)が台所のガス栓を開けて長男(5)とともに心中を図る。長男は一酸化炭素中毒で死亡。実父は一時意識不明であったが、病院で意識を取り戻した。実母が前月に病死し、実父は仕事も休みがちであった。「妻の元いきたい」という内容の遺書も見つかった。実父は殺人容疑で逮捕され、懲役2年6か月の実刑判決を受ける。</p>
<p>実母(29)、長男(8)と長女(生後4か月)が乗った車が漁港に転落。長男は通報者の男性により助けられて無事。実母と長女は病院に運ばれたがまもなく死亡。車内には下着やおむつをつめた旅行かばんと一緒に、母子手帳や免許証もあった。警察では、心中の可能性もあるとみて調べている。</p>
<p>実母(34)が廊下で、長男(6)と長女(3)が居間で倒れており、母方祖母(62)が風呂場の脱衣所で首を吊って死亡しているのを、帰宅した実父(42)が発見。警察は、母方祖母が実母の頭を金づちで殴り、長男と長女の首を絞めて殺害した後、自殺した無理心中事件と断定。母方祖母を、被疑者死亡のまま殺人容疑で書類送検した。家族は、母方祖母、実母、実父、長男の5人暮らし。祖母には精神科通院歴があったという。</p>
<p>実母(29)が双子の長男(3)と次男(3)の首を絞めて殺害後、首をつって自殺した。実母は子どもたちと3人暮らし。部屋には「2年前に離婚して子どもを一生懸命育ててきましたが、疲れました」と書いた遺書があり、警察は無理心中したとみている。</p>
<p>実母(34)が次女(4)の顔を水を張った洗面台に押し付けて水死させ、三女(2)の首を絞めて殺そうとした。実母は、当初行方不明になっていたが、まもなく警察に出頭し、逮捕される。借金を抱えるなどした夫婦生活への絶望感から、実母は子どもと心中を図った。判決では、心神耗弱を主張した弁護側を退け、責任能力ありとして、懲役8年の実刑。実母は約6年前にも、実父の会社の経営難による借金苦が原因で、長女(当時3)の首をひもで絞めて殺害した後、睡眠薬を飲んで自殺を図ったが死に切れず、殺人容疑で逮捕され、懲役3年執行猶予5年の判決を受けていた。(今回の事件は、執行猶予満了から約2か月後に起きた。)</p>
<p>実父(51)が、実母(47)と長女(14)、長男(12)に睡眠薬を飲ませ排ガス自殺を図るが失敗し、持っていた刺身包丁で胸を刺すなどして殺害。その後自殺を図り、自身の腹に21か所と両手首に数か所のけがをして病院に運ばれた。退院後、殺人と銃刀法違反の容疑で逮捕され、実母も心中に同意していた可能性は否定できないとして、同意殺人罪と銃刀法違反の罪で懲役15年の実刑判決を受けた。実父は、会社の業績悪化などで、住宅ローンなど約3000万円の借金返済が難しくなったことを悲観し心中を図った。</p>
<p>実母(35)が、長女(2)の首を絞めた上、包丁で首を2回刺して殺害。家族は、実父(39)と実母、長女の3人暮らし。実母は、長女を出産後、育児ノイローゼによるうつ病になり、自殺を図ろうとしたほか、結婚前の1995年10月から事件までの間、うつ病で精神病院へ3回入院するなどしていた。事件当日は、「生きていくのがつらい。長女を殺して自分も死のう」と考え、犯行に及んだ。実母は殺人罪に問われるが、心神耗弱状態であったと認められ、懲役2年6か月の実刑判決。</p>
<p>実母(33)が双子の長男(5)、次男(5)とともに14階建てマンションの最上階の通路から飛び降りた。3人は病院に運ばれたがまもなく死亡。実父(35)は「妻は最近ノイローゼ気味だった」と話しており、警察は、実母が無理心中を図ったものとみて調べている。</p>
<p>養父(56)がホテルで養母(44)と養女(16)の首を紐で絞めて殺害。その後自らカッターナイフで左手首を切って自殺を図るが死に切れず、ホテルの前で別の車と衝突し病院に運ばれた。養父は「約2年前まで妻と不動産業をやっていたが、景気が悪く家賃も滞納するようになった。2人を殺して自分も死のうと思った」と供述。警察は無理心中と断定し、養父を殺人容疑で逮捕。</p>



事例No.	事件発覚年	心中の形態	心中の未遂/既遂	加害者			子の殺害手段	死亡した被害児童数	生存した被害児童の有無	
				加害者	自殺手段	自殺の未遂/既遂				刑など
40	2000	母子	既遂	実母	投身	既遂	—	投身	1	無
41	2000	その他	既遂	実父	自動車(入水)	既遂	—	自動車(入水)	1	無
42	2000	母子	既遂	実母	縊死	既遂	—	不明	1	無
43	2000	母子	既遂	実母	刃物	既遂	—	刃物×2	2	無
44	2001	母子	既遂	実母	刃物	既遂	—	絞首	1	有
45	2001	母子	既遂	実母	投身	既遂	—	投身	1	無
46	2001	母子	未遂	実母	刃物+放火	未遂	—	刃物+放火	1	無
47	2001	母子	未遂	実母	刃物	未遂	不明	刃物	1	有
48	2001	父母子	既遂	実父の可能性高い	刃物	既遂	—	刃物	1	無
49	2001	母子	既遂	実母	自動車(入水)	既遂	—	自動車(入水)	1	無
50	2001	父子	既遂	実父	投身	既遂	—	刃物	1	無
51	2001	不明	既遂	実母	自動車(入水)	既遂	—	自動車(入水)×2	2	無
52	2001	母子	未遂	実母	刃物	未遂	懲役6年	絞首	1	無
53	2001	父母子	既遂	実父	投身	既遂	—	刃物×2	2	無
54	2001	母子	未遂	実母	意思のみ	未遂	懲役4年6か月	窒息	1	無
55	2001	その他	未遂	母方伯父 実母	同意 同意	未遂 未遂	懲役4年6か月 懲役3年6か月	絞首	1	無
56	2001	父母子	既遂	実父	縊死	既遂	—	刃物	1	無
57	2001	父母子	既遂	実父	自動車(入水)	既遂	—	自動車(入水)×2	2	無
58	2001	父母子	既遂	実父の可能性高い	自動車(入水)	既遂	—	自動車(入水)	1	無
59	2001	母子	既遂	実母	投身	既遂	—	刃物	1	有

事例の概要
<p>実母(32)が長女(生後19日)とともに、ビルの6階と7階の階段の踊り場から約23m下に飛び降りた。2人とも頭の骨が折れるなどして既に死亡していた。実母は出産後の体調不良でノイローゼ気味だったという。出産のため10月下旬から実家に帰省していたが、事件前日朝から長女を連れのまま行方がわからなくなり、家族から捜索願が出されていた。警察は、無理心中とみて調べている。</p>
<p>父方祖父(79)と実父(57)、長男(6)が乗った車が海に転落し、3人とも車内で水死。家族は、実父と祖父、長男の3人暮らし。実父が運転席、祖父と長男が後部座席。警察は無理心中の可能性が高いとして調べている。</p>
<p>実母(30)が車内で長男(生後10か月)を窒息死させ、その後自身は橋の下で首をつって自殺した。遺書などは見つからないが、警察は母子心中事件とみて捜査している。実母は実父(23)と長男の3人暮らしで、最近夫婦間のことで悩んでいたらしい。</p>
<p>実母(31)と次女(6)、長男(4)が自宅で血を流して倒れているのを、長女(11)が発見。3人は病院に運ばれたが、次女と長男は首を切られておりまもなく死亡、実母も腹と首に傷があり、意識不明の重体であったが、数日後死亡。長女は、次女と一緒に登校しようとして外で待っていたが、出てこないため自宅に戻ったところ、倒れている3人を見つけたという。3人とも寝室の布団の上で寝間着姿で倒れており、近くに包丁が落ちていた。警察は、無理心中か、事件に巻き込まれた可能性もあるとみて調べている。家族は、実父(35)と実母、子ども3人の5人暮らし。連絡を受けた実父が帰宅し、119番通報した。</p>
<p>実母(41)が自宅で次女(13)の首を絞め、その後自身の胸を包丁で刺し自殺。一緒にいた長女(17)も首を絞められそうになるも、逃げ出して無事。次女は病院に運ばれ意識不明の重体であったが、11日後に低酸素脳症による肺水腫で死亡。実母は7人家族(詳細は不明)で、実父(45)は出勤して不在だった。実母は不自然な言動で精神科の治療を受けていたことがあったという。実母は殺人容疑で被疑者死亡のまま書類送検。</p>
<p>橋下に実母(30)と生後間もない長女の2人が倒れているのを土木作業員が発見した。2人はヘリなどで救出されたが既に死亡している。警察は、実母が長女と一緒に橋から飛び降りて心中した可能性が高いとみて、調べている。</p>
<p>自宅から出火し、居間で実母(27)と長男(生後9か月)が倒れているのが見つかる。実母は意識不明の重体、長男は間もなく死亡した。警察は、実母が長男の胸などを刺して火をつけ、さらに自分の胸も刺して無理心中を図ったものとみて、殺人容疑で調べている。2人が倒れていた部屋には、包丁や血痕、灯油タンクなどがあった。家族は、父方祖母(53)と実父(28)、実母、長男の4人。出火当時は、母子2人だけが在宅していた。</p>
<p>実母(28)が、長女(4)と次女(1)の胸や腹などを包丁で刺し、その後自身の腹を6か所刺し、「どうしたらいいかわからない」と自ら通報。3人は病院に運ばれたが、長女は死亡、次女と実母は重傷。家族は、実父(31)と実母、子ども2人の4人家族。実母は最近、近所付き合いなど対人関係で悩み、眠れないことが多く、精神状態が不安定だったという。実母は殺人未遂の容疑で現行犯逮捕された(のちに容疑は殺人にかわる)。</p>
<p>実父(36)と実母(29)、長女(2)の遺体が自宅で発見される。実父は正座し、うつむいた格好で腹から血を流しており、実母は首から、長女は腹部と背中から血を出していた。遺書などはみつからないが、玄関に鍵がかかっており、争った形跡がないことなどから、警察は無理心中の可能性が高いとみて調べている。実父は数日前から無断で会社を休んでいた。</p>
<p>漁港で靴が2足揃えて置いてあるのが発見される。捜索したところ、港内にて乗用車が沈んでいるのが見つかり、中から実母(45)と長女(6)の水死体が発見された。遺書などはみつからない。2人は2月下旬に自宅からいなくなっており、親戚から家出人捜索願が出されていた。警察は、車で海に飛び込んだ無理心中の可能性が高いとみて調べている。</p>
<p>実父(44)が公衆トイレで長女(4)の右手首を切り殺害(死因は出血性ショック死)、その後自身は近くのマンションから投身自殺。実父は数年前に離婚し、親族宅で生活していた。長女は兄2人とともに実母に引き取られていたが、実父が日曜日には会いに訪れ、遊びに連れて行っていたという。「長女らと離れて生活して寂しい」と周囲に漏らしていたこともあり、精神的に落ち込んでいる様子だったという。警察は、離婚後の孤独感が事件につながった可能性があるとして調べている。実父は殺人容疑で被疑者死亡のまま書類送検。</p>
<p>2001年3月、実母(27)が実父(27)の首を包丁で刺して殺害。「お世話になりました」というメモを残して、長女(6)と次女(5)を連れて、行方がわからなくなった。2002年6月、徳島港の海底に沈んでいた軽乗用車を引き上げると、中から実母と長女、次女の白骨化した遺体が見つかった。実母は、実父および子ども2人を殺害した容疑で、被疑者死亡のまま書類送検された。</p>
<p>実母(39)が、長男(5)を両手で首を絞めて殺害したあと、自身の腹を切って自殺を図る。2人は病院に運ばれたが、長男は間もなく死亡、実母は重傷。退院後、殺人容疑で逮捕。実母は、生活保護の給付金をパチンコなどに使ったため電気料金を支払えず、送電を停止され自暴自棄となり「子どもを殺して自分も死のう」と決意したという。懲役6年の判決。</p>
<p>実父(21)が、実母(21)、長男(2)、次男(生後7か月)を包丁で刺して殺害したあと、マンションの屋上から投身自殺。遺書はなかったが、事件6日前に夫婦は離婚届を提出しており、子ども2人は実母が引き取る予定となっていた。一方、実父は「別の男と一緒にいても、別れたらまた一緒になる」と、周囲に未練を打ち明けており、実母には「月に一度は(職場である寿司店に)来てくれ。子どもたちにおれの寿司を食べさせてやってくれ」と頼んでいたという。警察は実父が3人を殺害したとみて、被疑者死亡のまま殺人容疑で送検する方向で捜査している。</p>
<p>実母(28)が、長女(1)の全身に掛け布団を巻きつけ、約2時間半放置し、窒息死させた。実母は殺人容疑で逮捕される。実母は当初、殺意を否認していたが、その後「夫(25)が仕事もせず、育児にも無理解で、長女と一緒に死のうと思った」と全面的に容疑を認めた。懲役4年6か月の実刑判決。</p>
<p>ペンションの客室で母方伯父(32)が実母(28)と共謀し、長男(2)の首を絞めて殺害。その後、伯父と実母は互いの胸や腹を包丁で刺して、心中を図る。3人は病院に運ばれるが、長男は死亡。伯父と実母は命はとりとめ、殺人と承諾殺人の容疑で逮捕。伯父は「借金苦で死のうとした」と話しており、実母は「入院中の母親を抱えて生活が苦しく、兄が多額の借金を抱えていたことなどが重なり、将来を悲観した」と供述。伯父は懲役4年6か月、実母は懲役3年6か月の実刑判決。</p>
<p>実父(40)が、実母(36)と長女(5)の胸などを刺して殺害後、首をつって自殺。実父の首にはためらい傷があった。隣の部屋に実父の筆跡で「家族を道連れにする」などの内容の走り書きがあった。実父は勤め先の会社が今年3月に倒産し、職がない状態が続いており、父方祖母に金策を頼むなど、生活費に困った様子だったという。3人の遺体の状況から、10日以上前に死亡したとみられる。</p>
<p>海に落ちた乗用車の中から、実母(33)と長男(3)、次男(生後2か月)の水死体が発見される。次の日、海底から実父(35)の遺体も見つかる。実父は2、3か月前から失業中で、家族に「疲れた」ともらしていた。通報した女性が車が落ちる直前に「助けて」と女性の声を聞いていた。警察は、事故と無理心中の両面から捜査している。</p>
<p>乗用車が海に飛び込み、車内から実父(28)、実母(28)、長男(1)の水死体が発見。実父のポケットから借金を苦にした内容のメモ帳が見つかり、警察は心中とみている。</p>
<p>実母(27)がホテルの一室で、長男(4)、長女(1)の胸を刺すなどした後、ホテルの11階から投身自殺した。子ども2人はベッドで首を紐で絞められており、病院に運ばれたが、長男は死亡(失血死)、長女は重傷。室内からは実母が家族に宛てた「今までありがとう。たのしかった」などと書いた遺書2通が見つかった。実母は長女を出産後体調を崩し、通院中だったという。</p>

事例No.	事件発覚年	心中の形態	心中の未遂/既遂	加害者			子の殺害手段	死亡した被害児童数	生存した被害児童の有無	
				加害者	自殺手段	自殺の未遂/既遂				刑など
60	2001	母子	既遂	実母	不明	既遂	—	絞首	1	無
61	2001	その他	既遂	実父	放火	既遂	—	鈍器×2 不明	3	無
62	2001	母子	既遂	実母	投身	既遂	—	投身	1	有
63	2001	その他	未遂	養母	薬物	未遂	不起訴 (心神喪失)	絞首	1	無
64	2001	母子	未遂	実母	意思のみ	未遂	懲役3年 執行猶予4年 (心神耗弱)	その他(叩きつける)	1	無
65	2001	母子	既遂	実母	入水(自宅外)	既遂	—	絞首	1	無
66	2001	母子	既遂	実母	入水(自宅外)	既遂	—	入水(自宅外)	1	無
67	2001	母子	既遂	実母	縊死	既遂	—	絞首×2	2	無
68	2001	父子	既遂	実父	放火	既遂	—	放火×2	2	無
69	2001	母子	未遂	実母	刃物	未遂	懲役3年 執行猶予5年	刃物	1	無
70	2001	母子	既遂	実母	薬物	既遂	—	不明	1	無
71	2001	母子	既遂	実母	自動車(入水)	既遂	—	自動車(入水)	1	無
72	2001	母子	既遂	実母	放火	既遂	—	放火	1	無
73	2001	母子	既遂	実母	投身	既遂	—	投身	1	無
74	2001	父母子	既遂	実父	縊死	既遂	—	鈍器×2	2	無
75	2001	父母子	未遂	実父 実母	薬物 同意	未遂 既遂	懲役7年 —	窒息	1	無
76	2001	母子	未遂	実母	放火+入水(自宅外)	未遂	懲役7年 (心神耗弱)	放火×2	2	無
77	2001	母子	既遂	実母	放火	既遂	—	放火×2	2	無
78	2001	母子	既遂	実母	放火	既遂	—	放火	1	無
79	2001	母子	未遂	実母	刃物	未遂	懲役3年	窒息	1	無

事例の概要
死後4、5か月経った、実母(32)と長男(3)の遺体が発見された。長男の死因は頸部圧迫による窒息死、実母の詳しい死因は分からなかったが、近くには睡眠薬の空き箱があった。実母は、実父(42)と子どもの3人暮らしだったが、半年ほど前から別居し、家賃や光熱費は夫が払っていたという。遺体には目立った外傷もなく、室内は施錠され争った形跡もないことから、警察は無理心中の可能性が高いとして調べている。
実父(37)が実母(30)の首を絞めて殺害、長女(7)、長男(4)を鈍器のようなもので頭を殴り殺害、父方祖母(71)の顔を切り失血死させたのち、自宅に火をつけ全焼させる。焼け跡から、実父(死因は焼死)、実母、長女、長男、次女(1)の遺体が発見され、祖母は病院に運ばれたが間もなく死亡。なお、次女の死因は特定されなかったが、肺にすすが入っていないため、火事の直前に殺害されたとみられる。警察は、火災の前に殺害された可能性が強いこと、現場検証などで侵入の形跡がみられず、不審者の目撃もないことから、実父が家族を殺して家に火をつけた無理心中とみて、実父を殺人と現住建造物等放火の容疑で、被疑者死亡のまま書類送検した。
実母(29)が、長女(5)と次女(3)とともに、マンションの8階と9階の間の踊り場から飛び降りる。実母と次女は首の骨を折り、収容先の病院でまもなく死亡。長女は手足の骨を折り重傷。踊り場に、実母のサンダルとバッグ、子ども2人のカバン2個が揃えて置かれていたことなどから、実母が無理心中を回ったとみて調べている。
養母(54)が、養女(12)の首を絞めて殺害。自身も通院先で処方された睡眠薬を飲み自殺を図るも死に切れなかった。養女は、養父母と他県に住んでいたが、養父が交通事故で死亡し、2年ほど前に養父母の長男(34)の家族ら3人の家に転居、養母と計5人で暮らしていた。養母は夫が死んだ事故の後遺症で精神的に不安定で通院しており、近所の人に「このところ体の調子が悪い」と話していた。養母は殺人容疑で逮捕、送検されるが、鑑定留置で精神鑑定を行った結果、刑事責任能力を問うには問題があるとして不起訴処分となった。
実母(33)が長女(生後52日)を台所の床に叩きつけるなどして殺害。死因は頭蓋内骨折と脳内出血。実母は殺人容疑で逮捕された。家族は、実父母と長女の3人暮らし。実母は妊娠中、切迫流産の危険から約2か月入院し投薬治療を受けた。生後の診察で長女に異常は認められなかったにもかかわらず、まじめな性格などから「薬の影響で視聴覚に障害をもって生まれた」「長女に障害があるため夫が自分たちを残して去ってしまう」と思い込み犯行に及んだという。心神耗弱が認められ、懲役3年執行猶予4年の判決。
実母(30)がホテルの一室で長女(5)の首を絞めて殺害。実母はその後親族に「子どもを殺した。これから自分も死ぬ」と電話し、近くの海で水死体が発見される。警察は、実母を殺人容疑で被疑者死亡のまま書類送検する方針。
港湾で、実母(34)と長男(生後10か月)の水死体が発見される。実母は数日前に長男を連れて家を出たまま行方がわからず、家族から捜索願が出ていた。実母は育児ノイローゼ気味だったといい、警察は無理心中を図ったのではないかと見ている。
実母(28)が、長女(3)と長男(1)の首を絞めて殺害後、首をつって自殺。遺書があったことから、無理心中とみられる。実母は体調が思わしくなく、時々通院していたという。
実父(43)が長男(6)と次女(4)とともに、車内にガソリンをまいて火をつけて焼死。子どもたちは後部座席におり、後部左側のスライド式ドアが開かないように、内側から前部座席ドアと針金で結ばれていた。実父は実母と子ども2人の4人暮らし。約1か月半前に焼肉店を閉店しており、客の借金の保証人になり、人間関係に悩んでいたという。警察は無理心中で子ども2人を殺害したとして、被疑者死亡のまま殺人容疑で書類送検した。
実母(24)が、長女(1)の首を包丁で切りつけ殺害後、自身の首を切って自殺を図るも死に切れなかった。遺書らしいメモがあり、実母は殺人容疑で逮捕。家族は、実父母と子ども、母方祖父母の5人。実父母は職場結婚、昨年暮れに実父は転職して夜間勤務になり、実母は浮気。一方、実父は母方祖父母との同居を窮屈に感じ、数日前に離婚を申し出て別居。実父が帰らないことに不安を募らせ自殺を考え始めた。事件前日、実父の職場を訪ねるも「よりを戻すつもりはない」と言われ、心中を決意。犯行直前、実父に遺書めいたメールを送信していた。懲役3年執行猶予5年の判決を受ける。
実母(35)と長男(生後2か月)の遺体が発見された。実母は、家族に長男を連れて病院にいくと言って、長女(4)を預けて車で出かけた。その後、帰宅した痕跡があるが姿が見えないため、家族で探していた。警察は、傍らに量が減った農薬の瓶があり、長男が病弱なことに悩んでいた実母が農薬を飲んで無理心中を図ったのではないかと見て調べている。
実母(29)が長女(3)を乗せて乗用車で海に飛び込む。2人はすぐに引き上げられ病院に運ばれたが、まもなく死亡。「車が海に向かって突っ込むように走り、車止めを超えて飛び込んだ」という目撃者もいることから、警察は無理心中とみて調べている。
マンションの一室から実母(40)と長女(8)の焼死体が発見される。家族は母子2人暮らし。室内には油のにおいがしたといい、警察は心中の可能性もあるとして調べている。
実母(34)が長男(生後6か月)とともに病院の10階から飛び降りる。実母は間もなく死亡、長男は重体であったが、事件から2日後に出血性ショックなどで死亡した。実母は食欲不振を訴えて病院で診察をつけていた。警察は実母が無理心中を図ったとみて原因などを調べている。
実父(49)が、実母(42)、長女(11)、次女(4)を金属バットで殴って殺害したあと、首をつって自殺。実父は今年4月、約25年勤務した地元農協(保険や肥料などの販売を担当)を「ノルマを果たすのが苦痛」として依願退職。9月から始めたスーパーでのアルバイトも10月末に辞めた。警察は、実父を殺人容疑で被疑者死亡のまま書類送検。
実父(34)が車内で、実母(29)と共謀して長男(生後1か月)の鼻や口を手で塞いで殺害、承諾を得た上で実母を絞殺した後、睡眠薬50錠を飲んで自殺を図るも死に切れず自首した。実父には通院歴がある。実父は就職したばかりの会社を辞めたことを苦に「3人で一緒に死のう」と実母にもちかけたところ、実母は同意した。実母は遺書を残していた。実父は殺人と承諾殺人罪で懲役7年の判決を受ける。
実母(38)が、長女(8)と次女(6)が乗った車に火をつけ全焼させ、焼死させる。実母は車から逃げ出し、川に飛び込み自殺を図ったが死に切れなかった。実母は、実父(39)と子ども2人の4人暮らし。次女は1歳のころにかかった病気の後遺症で知的障害があり、実母はその養育に悩み、後に精神科でうつ病などと診断された。事件当時は、翌春に次女の小学校入学を控え、次女を特殊学級に入れるか悩み、次女の将来を悲観して一緒に死のうと考え、さらに残される長女もかわいそうだと思って道連れにしようとした。実母は、心神耗弱だったと認められたものの、懲役7年の実刑判決。
実母(30)が、車内に灯油をまき火をつけ、長女(9)、次女(7)とともに焼死。ドアはロックされ、車内には実母が書いたとみられる遺書めいたメモがあった。実母は実父と離婚しており、子どもたちとの3人暮らしだった。発見時、運転席には長女、実母は次女を抱きかかえるように後部座席に横たわっており、後部座席の後ろに空の灯油タンクがあったことなどから、警察は無理心中を図ったと見て調べている。
木造2階建て住宅1階が火災、中から実母(37)と長女(生後11か月)の焼死体が発見される。遺書が残されており、警察は無理心中とみて調べている。
実母(30)が長女(生後5か月)の顔にタオルをかぶせ、鼻や口を手でふさいで殺害。実母自身の首を包丁で傷つけ自殺を図るも、未遂に終わり、殺害容疑で逮捕。実母は実父から別の女性と付き合いたいと別れ話をされ、将来を悲観し心中を図った。懲役3年の実刑判決。

事例 No.	事件 発覚年	心中の 形態	心中の 未遂/既遂	加害者			子の殺害手段	死亡した 被害 児童数	生存した 被害児童 の有無	
				加害者	自殺手段	自殺の 未遂/既遂				刑など
80	2001	母子	未遂	実母	刃物	未遂	懲役5年	絞首×2	2	無
81	2001	父母子	既遂	不明	(水死)	既遂	—	自動車(入水)×2	2	無
82	2001	父子	既遂	実父	縊死	既遂	—	絞首	1	無
83	2001	母子	既遂	実母	投身	既遂	—	刃物	1	無
84	2001	父母子	既遂	実父 実母	放火 放火	既遂 既遂	— —	放火	1	無
85	2001	母子	未遂	実母	刃物	未遂	不明	刃物	1	無
86	2001	母子	既遂	実母	入水(自宅外)	既遂	—	入水(自宅外)	1	無
87	2001	父母子	未遂	実父 実母	縊死 同意	未遂 既遂	懲役7年 —	絞首	1	無
88	2002	母子	既遂	実母	入水(自宅外)	既遂	—	入水(自宅外)	1	無
89	2002	母子	既遂	実母	放火	既遂	—	放火×2	2	無
90	2002	父母子	既遂	実父	自動車(入水)	既遂	—	自動車(入水)	1	有
91	2002	母子	未遂	実母	刃物	未遂	懲役5年	絞首	1	無
92	2002	母子	既遂	実母	不明	既遂	—	不明	1	無
93	2002	父母子	既遂	実父 実母	ガス(自宅外) ガス(自宅外)	既遂 既遂	— —	ガス(自宅外)×2	2	無
94	2002	母子	未遂	実母	刃物	未遂	不明	刃物	1	無
95	2002	父子	未遂	実父	意思のみ	未遂	懲役12年	絞首	1	無
96	2002	母子	既遂	実母	縊死	既遂	—	薬物	1	無
97	2002	父子	既遂	実父	縊死	既遂	—	絞首	1	無
98	2002	父母子	既遂	実父	縊死	既遂	—	不明	1	無

事例の概要
<p>実母(33)が、長女(4)と長男(2)の首を電気コードで絞めて殺害。自ら110番通報した後、自身の左手首をカミソリで切って後追い自殺を図った。発見時は意識が朦朧としており、入院し、回復後に逮捕された。家族は母子で3人暮らし。敷地内の別棟には、母方祖父母が住んでおり、居間には「2人を殺しました。天国のお父さんと4人で暮らします。ごめんなさい」と書かれた遺書が残されていた。実母は2001年4月に借金を苦に実父(41)が自殺した後、翌月から、月1回のペースで精神科に通院していた。1人で子ども2人を育てることが不安になり、実父の命日に心中しようと決意したという。実母は殺人容疑で逮捕され、懲役5年の判決を受ける。</p>
<p>運河で水中から引き上げたワゴン車から実母(30代くらい)、長女(小学生くらい)、長男(保育園児)の水死体を発見した。数日前に、現場近くで実父(40代)の水死体も発見されており、警察は無理心中とみて調べている。家族から自殺をほのめかす手紙が親族に届いており、警察は3か月程前に家族4人の家出人届けを親族から受理していた。</p>
<p>実父(42)が自宅で長男(6)の首を絞め殺害し、その後近くの山林で首をつって自殺。自宅から、長男が重度の知的障害で、実父が借金を抱えていることが書かれた遺書が見つかり、警察は無理心中とみている。</p>
<p>実母(31)が、自宅で長女(4)の首を包丁で切り殺害後、近隣の10階建ての住宅から投身自殺。家族は、実母、長女、母方祖父母、母方曾祖父の5人暮らし。家族の話では、実母は離婚問題などで悩み、ノイローゼ気味だったという。</p>
<p>全焼した軽自動車内から、実父(38)と実母(22)、長男(2)の焼死体が見つかる。燃料給油口のふたが開いており、そばに給油ポンプがあったため、警察は車内にガソリンを撒いたとみて調べている。自宅から両親や兄弟にあてた「みんなで死にます」という内容の遺書2通が見つかり、警察は実父母が無理心中を図った可能性が高いとみている。</p>
<p>実母(28)が、長男(1)の背中を刃物で刺して殺害後、自身の首や腹など数か所を刺し重傷。実父は泊り込みで仕事にでており、帰宅し倒れている2人を発見した。警察は、実母も胸や腹など数か所に刺し傷を負っていたこと、外部から侵入した形跡がないこと、実母が事件当時、発作的な病で精神科に通院していたことなどから、実母が無理心中を図ったとして逮捕。実母は「私ではない」と否認しており、精神鑑定をうける見通し。その後、記事無し。</p>
<p>川で、実母(27)と長女(生後10日)の水死体が発見された。実母は出産のために実家に帰省中だったが、前日朝から行方がわからず、家族は捜索願を出していた。実家には「ごめんなさい」と書かれたメモがあり、2人に外傷がないことなどから、警察は、実母の無理心中とみている。</p>
<p>実父(25)が、実母(24)と長男(2)の首を絞めて殺害、自身も首をつるも死にきれず自首した。実父は3年前、乗用車を運転中、軽乗用車と衝突。2人が死亡、1人が重傷を負い、実父も左半身が麻痺となり、障害のため仕事ができなくなった。実母は当時、妊娠5か月で、もともと病気がちであったが、事故の精神的ショックでさらに体が弱くなった。さらに業務上過失致死傷罪に問われ、2001年3月、禁固2年の判決を受けた。最高裁まで争ったものの、上告も棄却され、事件当日は禁固刑の収監日だった。実父は、妻から心中を持ちかけられ、心中を決意。実母が自ら首に巻き付けたロープを長男の首にも巻き、ロープを引っ張って2人同時に絞殺した。実父は、殺人と承諾殺人の罪に問われ、懲役7年の実刑判決。</p>
<p>港の海中で、長男(3)の水死体が発見され、数日後に実母(38)の遺体が浮いているのが発見された。長男発見前夜から母子2人で行方不明になり、実父(43)が捜索願を出していた。実母は自分の病気のことで悩んでいたといい、無理心中の疑いがあるという。</p>
<p>山中で炎上した乗用車から、実母(30)と長男(6)、次男(3)の焼死体が見つかった。警察は、事件と事故の両面から調べている。事件前日、実母と子ども2人の行方がわからなかったため、実父が捜索願を出していた。家族は実父母と子ども2人の4人暮らしで、実母は子どもの養育関係のことで悩んでいたという。</p>
<p>実父(45)が、実母(44)、長男(15)、長女(14)とともに車ごとため池に転落。長男は自力で脱出したが、3人は死亡した。長男は「家族4人で食事をしたあと、ドライブするなどしていた。運転していた父が『家には帰れん』と言って、突然車ごと池に飛び込んだ」などと話しているという。実母が消費者金融に借金があり、家族は悩んでいたといい、警察は無理心中の可能性があるとしている。</p>
<p>実母(39)が、長女(7)の首をスカーフで絞めて殺害後、自身の左腹部を包丁で3か所刺し、両手首をカミソリで切った。訪れた実母の姉が119番通報し、実母は病院に運ばれた。実母は殺人容疑で逮捕され、昨年仕事をやめて、貯金を使い果たして生活が苦しくなり、無理心中を図ったと供述。家族は、母子2人だった。裁判では、心神耗弱を主張する弁護側を退け、懲役5年の実刑判決。</p>
<p>実母(35)と長男(17)が死亡しているのを訪ねてきた母方祖母(62)が発見。実母と長男は2人暮らし。室内には「生活に疲れた」という内容の女性の遺書があったことなどから、警察は無理心中とみて調べている。</p>
<p>青少年旅行村のテント内で実父(42)、実母(33)、長男(5)、長女(3)が死亡しているのを発見。テント内で練炭火鉢をたいた形跡があり、死因は一酸化炭素中毒らしい。2002年2月22日家族で旅行にでかけたが、2月27日になくなって遺書めいた手紙と退職願が上司に届いたため、家族が捜索願を出していた。実父は地元の食肉ハム卸会社に営業を担当していたが、BSE(牛海綿状脳症=狂牛病)の影響で売り上げが落ちたことなどを悩んでいたという。実父の会社では、税務署からの連絡で2月上旬実父が商品の横流しで約3000万円を不正に着服していたことが発覚、会社側は刑事告訴の準備中だった。警察は、一家が無理心中したとみている。</p>
<p>実母(28)と次女(生後4か月)が腹部から血を流して倒れているのを、同居中の母方祖母が発見。病院に運ばれたが実母は重体、次女は翌日出血性ショックのため死亡。実母は「自分でおなかを刺した」などと話しており、次女が倒れていた近くには刃渡り約20センチの包丁が落ちていた。実母は最近精神的に不安定な状態であったという。警察は、実母が無理心中を図った可能性が高いとして、実母の回復を待つ殺人容疑で調べる。</p>
<p>陸橋下で、長女(9)の遺体が発見された。警察は、実父(48)を殺人と死体遺棄の疑いで逮捕。実父は「自分も死ぬつもりだったが死に切れなかった」と自供。家族は実父と実母(35)、長女の3人暮らし。長女の遺体が発見される数日前から2人は行方不明で、妻が捜索願を出していた。実父は生活費やパチンコ代のために約400万円の借金を抱えており、これまでも周囲に自殺をほのめかしたり、長女を連れて長時間外出していたという。実父は、長女の首を紐で絞めた後、口や鼻をタオルで押さえつけるなどして窒息死させたとして、懲役12年の刑が言い渡された。</p>
<p>ホテルの一室で韓国籍の実母(38)と長女(4)の遺体が発見された。実母は客室入口付近の通気口にロープをかけて首をつって自殺。長女に薬物を飲ませたような形跡があり、実母の遺書もあることから、警察は無理心中とみている。実母は病気がちだったという。</p>
<p>実父(46)が、三男(生後11か月)をおしゃぶりの紐をつかって絞殺した後、首つり自殺。実父には多額の借金があったといい、実母(34)宛に「後を頼む」などと書かれた実父の遺書もみつかったことから、警察は実父が三男を道連れに無理心中したとみている。家族は実父母、双子の長男(7)、次男(7)と三男の5人暮らしだった。</p>
<p>実父(46)、実母(45)、長女(3)の3人の遺体が自宅から発見された。実父は首をつり、実母と長女は布団の中で死亡していた。「借金の返済に困っているで心中する」という内容の遺書が見つかり、警察は無理心中とみて調べている。実父は先月、勤めていたタクシー会社に「休みたい」と申し出た後、連絡がなかった。3人とも死後10日から2週間経過していた。</p>

事例 No.	事件 発覚年	心中の 形態	心中の 未遂/既遂	加害者			子の殺害手段	死亡した 被害 児童数	生存した 被害児童 の有無	
				加害者	自殺手段	自殺の 未遂/既遂				刑など
99	2002	父母子	未遂	実父 実母	入水(自宅外) 入水(自宅外)	未遂 未遂	不明 不明	入水(自宅外)	1	無
100	2002	父子	既遂	実父	自動車(衝突)	既遂	—	絞首×3	3	無
101	2002	母子	既遂	実母	縊死	既遂	—	不明	1	無
102	2002	父子	既遂	実父	刃物	既遂	—	入水(自宅)	1	無
103	2002	母子	既遂	実母	縊死	既遂	—	不明×2	2	無
104	2002	母子	既遂	実母	自動車(入水)	既遂	—	自動車(入水)×2	2	無
105	2002	母子	未遂	実母	意思のみ	未遂	懲役2年6か月 執行猶予3年 (心神耗弱)	薬物	1	無
106	2002	母子	未遂	実母	自動車(入水)	未遂	懲役6年	自動車(入水)×2	2	無
107	2002	母子	未遂	実母	放火	未遂	懲役6年	窒息	1	無
108	2002	母子	未遂	実母	意思のみ	未遂	懲役11年	絞首×2	2	無
109	2002	母子	未遂	実母	意思のみ	未遂	懲役3年 執行猶予5年 (心神耗弱)	投身	1	無
110	2002	父母子	既遂	実父	縊死	既遂	—	絞首	1	無
111	2002	父子	未遂	実父	ガス(車内)	未遂	懲役6年	ガス(車内)	1	有
112	2002	父母子	既遂	実父 実母	ガス(車内) ガス(車内)	既遂 既遂	— —	ガス(車内)×4	4	無
113	2002	母子	既遂	実母	刃物	既遂	—	不明×2	2	無
114	2002	父子	既遂	実父	自動車(入水)	既遂	—	自動車(入水)×3	3	無

事例の概要
<p>実父(28)と実母(26)、長男(2)が海に入水し無理心中を図る。3人とも波に押し戻されるなどして陸に上がったが、長男は海水を大量に飲んで意識不明となり、翌日収容先の病院で心不全のため死亡。実父母は殺人容疑で逮捕された。一家は3人暮らしだったが、実母が数年前に病気のため手術をし、治療費などのために約1千万円の借金があった。さらに、病気が再発する恐れもあり、そうしたことを苦にして無理心中を決意したという。両者とも懲役5年を求刑された(判決の記事なし)。</p>
<p>実父(33)が交通事故(乗用車を運転した実父が大型トラックに衝突)で死亡。連絡のために自宅を訪れた警察が、実母(28)、長女(10)、次女(7)、三女(3)の遺体を発見。母子4人の死因は首を絞められたことによる窒息死。警察は、4人の遺体が胸に手を組んだ状態で整然と並べられ、部屋を荒らされた形跡もなかったため、実父が4人を殺害した後、交通事故で自殺を図った無理心中とみて捜査。その後、4人を殺害したロープが自宅にあったものとわかったほか、絞殺による排泄物が実父の衣服についていたことなどから、実父の犯行と断定。「気持ちのすれ違いが積もって、突発的に妻を殺害。残された子を道連れにしたのでは」と見ている。警察は、実父を殺人の疑いで容疑者死亡のまま書類送検した。</p>
<p>実母(33)が長女(生後9か月)を風呂場で殺害したのち、首をつけて自殺。居間のテーブルには育児の悩みを綴った実母の遺書があったため、警察は母子心中として調べている。家族は、実父(34)と実母、長女の3人暮らしだった。</p>
<p>実母(42)が、浴室で実父(51)と長女(生後1か月)の遺体を発見し110番。実父は首を切っており、包丁が見つかった。長女は水死だった。実父は1、2か月前に技術職から事務職に配置転換になったことを悩んでおり、事件の約1週間前、実母(42)に「転職しようか」「子どもを連れて死にたい」ともらしていたという。警察は、実父が無理心中を図ったとみている。</p>
<p>実母(33)が、長男(3)と次男(1)を殺害した後、首をつけて自殺。2人はマットレスの上に寝かされ、布団がかけられてあり、目立った外傷はなかった。台所には「生活になじめなかった、ごめんなさい」といった内容の遺書が残されていることから、警察では無理心中とみている。家族は実父(31)と実母、子ども2人の4人暮らし。昨年、一家で転居し、半年前には、さらに実父の実家のある町に引っ越していた。</p>
<p>実母(36)、長女(11)と長男(5)が乗った軽乗用車が湖に転落。約30分後に3人は救出されたが、実母と長女はまもなく死亡、長男も翌日死亡した。3人の死因は水死。警察は、実父(37)の話から、実母が数か月前に腹部の手術を受け、その後療養中であったが、最近体調のことで悩んでおり、精神的に不安定であったこと、車がブレーキをかけた痕がないことから、実母が無理心中を図ったとみている。</p>
<p>実母(30)が、長男(生後10か月)の哺乳瓶にミルクと泡盛(アルコール度60%)を半分ずつ入れて飲ませた。長男は急性アルコール中毒により、吐いたものが喉に詰まって窒息死。血液中からは大人の酒気帯びに相当するアルコール(1ml中3mg)が検出された。実母は泥酔状態でそのまま精神病院に入院したが、警察は「事件当時、善悪の判断ができた。拘置にも耐えられる」と判断し、翌月に殺人容疑で逮捕。その後、傷害致死罪で起訴された。家族は、実父(35)を含む3人暮らし。実母は数か月前から、長男が自分のことを母親として認識していないのではないかと、目の動きや表情がおかしいと感じ、インターネットで得た知識から、自閉症ではないかと強い不安を抱いていた。数回、児童相談センターに訪れ、「長男が自閉症ではないか」と相談していた。事件当日の様子について、実母は「しらふでは自殺できないので酒をラッパのみした。座卓にシーツをかけて首がつかれたか試してみたら痛かったの、長男には痛みを感じさせないようにするつもりで酒を飲ました」と話した。心身耗弱が認められ、懲役2年6か月執行猶予3年の判決。</p>
<p>実母(29)が、長女(7)と次女(5)を車に乗せたまま海に転落。実母は助かったが、子ども2人は水死した。家族は、実母と子ども2人、祖母の4人暮らしだった。実母は殺人容疑で逮捕された。育児や仕事が見つからないことに精神的に不安定になり自殺を考え、「一人はさみしい。子どもだけ残すのもかわいそう」と心中を決意したと供述。しかし、公判では「アクセルとブレーキを踏み間違えて海に落ちた」など殺意がなかったと無罪を主張した。裁判所は心中を図って2人を殺害したとして、懲役6年の実刑判決を下した。</p>
<p>実母(40)が次男(1)の鼻と口を両手でふさいで窒息死させ、焼身自殺を図ろうと自宅に放火。実父(36)が気づき、実母は命をとりとめたが、殺人と現住建造物等放火の容疑で逮捕。家族は、実父母と子どもら7人暮らし(詳細不明)。長男は高校、実父は仕事へ出かけており事件当時は2人しか家にいなかった。実母は、実父に内緒でパチンコ代などの遊興費に充てるために消費者金融などから借りた借金が約400万円あり、その返済に困っていたこと、親族との人間関係に悩み、自殺を考え、次男を殺害し自宅を放火した。公判では実父が情状酌量を求め、懲役6年の実刑判決(求刑・懲役12年)。</p>
<p>実母(25)が自宅で、長男(4)と長女(1)の首をタオルで絞殺。帰宅した実父(29)が2人の遺体を発見し110番通報した。実母は一時行方不明になっていたが、同日市内の公園で見つかり、殺人容疑で緊急逮捕。実母は、実父が起こした交通事故の修理費を工面するため消費者金融を利用したのをきっかけに、実父に内緒で通信販売での買い物代など約250万円の借金を抱え返済に困っていた。借金を実父に知られると子どもと引き離されるなどと悲観し、「いっそ子どもを道連れにしよう」と考え、心中を計画。2人を殺害した後、遺書を残して自殺しようとしたが死に切れなかったという。懲役11年の判決。</p>
<p>実母(40)が、マンション9階から長男(生後5か月)を投げ落とした。長男は頭を強く打って死亡。実母が「私が投げて殺した。一緒に死のうと思ったが、怖くてできなかった」と話したことから、警察は殺人容疑で逮捕した。実母は「夫(51)が浮気している」と思い込んで子どもとの心中を決意。実母は犯行時、妄想のため行動制御能力が著しく低下した心神耗弱だったことから、懲役3年執行猶予5年保護観察付きの判決を受けた。</p>
<p>実母(49)と長女(12)が首を絞められて死んでいるのを実母の姉(51)が発見し、110番通報。首吊り自殺をしている実父(46)も見つかった。2人の遺体には動かした跡がなく、窓や玄関も施錠され、外から侵入した形跡がないことや、現場状況からみて、警察は、2人を殺害したのは実父の犯行と断定し、実父を殺人容疑で被疑者死亡のまま書類送検した。実父は、3か月前に勤めていた会社が業績不振で自主解散したため、職を失っていた。遺書はなかった。</p>
<p>実父(48)、長女(8)と次女(6)が、車内で倒れているのが見つかった。排ガスが引き込まれており、長女は死亡、実父と次女は助かった。車内には「子育てに疲れた」というメモが残っていた。実父は殺人・殺人未遂容疑で逮捕された。実父は2年半ほど前に実母がんで死亡した後、娘2人の世話をすするため、自由な時間がもてる生命保険の調査員に転職したが、減収となったため自宅のローン支払いに困り、心中を図ったという。実父は2人に実母がいない寂しさを感じさせまいと、学校行事などに参加し、食事や洗濯などの家事をこなし、懸命に世話をしていた。情状酌量の余地があるとして、懲役6年(求刑・懲役10年)の判決。</p>
<p>実父(35)、実母(32)、長男(10)、長女(6)、次男(2)、三男(2)の計6人が、乗用車内において排ガスによる一家心中。死因は一酸化炭素中毒。車内に遺書はなかったが、家賃を2か月滞納しており、金に困っていたらしい。</p>
<p>実母(34)、長男(5)、次男(4)の3人が風呂場で死んでいるところを、実父(36)が発見。長男と次男は浴槽で服を着たままうつぶせに浮き、死亡。実母は左手首から血を流して死亡。近くには刃物が見つかった。実母は次男の病気のことや子どもたちの教育のことで悩んでいたといい、警察は実母が無理心中を図った可能性もあるとみている。</p>
<p>ため池で、実父(34)と長男(8)の水死体、車内から次男(7)と三男(5)の水死体が見つかった。実父らは、「祭りに見に行く」と言って子ども3人と一緒に車で外出。その夜「死にたい」という内容の電話を実母(31)にかけ、そのまま行方がわからなくなった。実父は実母と離婚調停中で、警察は実父が車ごと池に飛び込んで無理心中を図ったとみている。</p>

事例No.	事件発覚年	心中の形態	心中の未遂/既遂	加害者			子の殺害手段	死亡した被害児童数	生存した被害児童の有無	
				加害者	自殺手段	自殺の未遂/既遂				
115	2002	母子	未遂	実母	入水(自宅外)	未遂	懲役7年	入水(自宅外)×2	2	無
116	2002	父子	既遂	実父	放火	既遂	—	放火	1	無
117	2002	母子	既遂	実母	電車	既遂	—	電車	1	無
118	2002	父母子	既遂	実父 実母	自動車(入水) 自動車(入水)	既遂 既遂	— —	自動車(入水)×2	2	無
119	2002	父子	既遂	実父	入水(自宅外)	既遂	—	入水(自宅外)×2	2	無
120	2002	父母子	既遂	実父 実母	放火 放火	既遂 既遂	— —	放火	1	無
121	2002	母子	既遂	実母	ガス(車内)	既遂	—	ガス(車内)×2	2	無
122	2002	母子	既遂	実母	自動車(入水)	既遂	—	自動車(入水)×2	2	無
123	2002	母子	未遂	実母	意思のみ	未遂	懲役3年 執行猶予5年 (心神耗弱)	絞首	1	無
124	2003	母子	既遂	実母	投身	既遂	—	投身	1	無
125	2003	父母子	既遂	不明	(放火)	既遂	—	放火×3	3	無
126	2003	父母子	既遂	実父	縊死	既遂	—	絞首×2	2	無
127	2003	父母子	既遂	不明	(自動車(入水))	既遂	—	自動車(入水)	1	無
128	2003	母子	既遂	実母	投身	既遂	—	投身	1	無
129	2003	母子	既遂	実母	不明	既遂	—	不明	1	無
130	2003	母子	既遂	実母	自動車(入水)	既遂	—	自動車(入水)×2	2	無
131	2003	母子	未遂	実母	ガス(車内)	未遂	不明	ガス(車内)×2	2	無
132	2003	母子	未遂	実母	意思のみ	未遂	懲役2年6か月 (心身耗弱)	絞首	1	無
133	2003	父子	未遂	実父	刃物	未遂	懲役7年	絞首	1	無
134	2003	父子	既遂	実父	不明	既遂	—	絞首	1	無

事例の概要
<p>実母(30)が長男(6)の手を引き、次男(2)を背負ったまま海に飛び込んだ。通報を受け、実母は救出されたが、長男と次男は水死した。実母は殺人容疑で逮捕された。家族は、実父母と子ども2人、母方祖父母の6人家族だった。実父が消費者金融から約320万円借金しており、月々の支払いと督促の電話に悩んでいたという。心中を図った日は支払い予定日で、前日に実父に相談したが、要領を得なかったため心中を決意した。公判では、減刑を願う知人ら千人分の嘆願書を提出し、検察側は懲役6年を求刑した。裁判所は、求刑を上回る懲役7年を言い渡した。</p>
<p>「夫が灯油をかぶり、自殺しようとしている」と実母(27)から通報があり、警察が駆けつけたところ、河原で長男(3)と実父(43)の焼死体を発見した。また近くの車内で、左手首を負傷している実母を保護した。車内からは自殺をほのめかすメモが見つかった。警察は、実父が長男と共に灯油をかぶって火をつけ、無理心中を図ったものとみて調べている。(検討の結果、実母自身が通報していることから「父子心中」と判断した。)</p>
<p>実母(29)と長女(5)が手をつないで、駅のホームに入ってきた電車に飛び込んではいられ、全身を強く打ってまもなく死亡。警察は事故と心中の両面から調べている。</p>
<p>海中に沈む車内から、実父(42)、実母(40)、長女(11)、次女(9)の4人の遺体が確認された。死因は水死で目立った外傷はなく、警察は事故と心中の両面から捜査している。一家は数日前から行方不明となり、父方祖父が捜索願を出していた。自宅には、実父の「借金がある」、実母の「ごめんなさい」という書置きが残されていた。</p>
<p>実父(42)と長男(5)、次男(3)の遺体が川で発見される。警察は実父が子ども2人とともに川に飛び降り、無理心中を図ったとみている。実父は数日前から、子どもたちを連れて出たまま行方不明となっており、直前に実父が自殺をほのめかすような言動をとっていたことから、実母(35)が捜索願を出していた。遺書はなかったが、実父は精神的に落ち込んで病院にかかったことがあるという。</p>
<p>実父(41)と実母(36)、長女(10)の遺体が発見された。死因は一酸化炭素中毒。ドアや窓が施錠されており、火の気のない場所で出火していることなどから、警察は無理心中の疑いが強いとみている。警察によると、寝室のすみに置かれた雑誌や段ボールが激しく燃えており、近くの壁やカーテンなどに延焼したが、酸素がなくなり自然に鎮火したらしい。遺書はなかった。</p>
<p>実母(34)、長女(10)と次女(7)が、車内に排ガスを引き込み死亡しているのが見つかった。死因は一酸化炭素中毒。遺書はみつからないが、3人に外傷はなく、実母は3か月前に離婚し、病気がちなを悩んでいたらしいことなどから、警察は実母が無理心中を図ったとみて調べている。</p>
<p>港でワゴン車が沈んでいるところを発見され、中に実母(35)と双子の長男(10)、次男(10)の遺体が見つかった。外傷や着衣の乱れはなく、死因は水死で、警察は実母が子ども2人を道連れにした無理心中とみている。実母は数年前に離婚、母方祖父母や母方伯父家族と同居していた。家族によると、突然沈み込むことがあったといい、先月上旬から市内の神経科病院に通院していた。</p>
<p>実父(33)の通報で警察がかけてつけたところ、長女(7)がぐったりしており間もなく死亡した。実母(39)が「自分がやった」と話したため、逮捕。家族は、実父母と長女、長男(2)の4人暮らし、事件時実父は出勤中だった。実母は、長女の首を電気コードで絞めて殺害した。公判では、実母が昨年かうつ病で通院していたこと、本事件の2か月前、実父の浮気が原因で、実母は子どもとの無理心中を計画し、長女と長男に睡眠薬を飲ませ、病院で治療を受けていたことなどが明らかにされた。心神耗弱が認められ、懲役3年保護観察付き執行猶予5年の判決。</p>
<p>実母(32)が長女(11)とマンション7階のベランダから飛び降りて死亡。実母は先月離婚し、長女と2人暮らし。部屋に実母の両親に宛てた手紙があるため、警察は無理心中と見ている。</p>
<p>湖岸の駐車場で乗用車が全焼。車内から実父(61)、実母(45)、長男(9)、長女(7)、次男(3)の焼死体が発見された(身元はDNA鑑定で判明)。実父の血液からはガソリンが検出され、警察はガソリンをかぶって火をつけた可能性が高いとみている。また、実父は消費者金融などから借金をしており、自宅には督促状などが貼られており、警察は借金苦による一家心中とみている。</p>
<p>実父(35)、実母(32)、長男(5)、長女(生後9か月)の一家4人の遺体が発見。実母と子どもらは居間で首を絞められて死んでおり、実父はテラスで首を吊っていた。実父が祖父母らに宛てた「家族を道連れにして申し訳ない」という内容の遺書があり、警察は実父が無理心中を図ったとして被疑者死亡のまま殺人容疑で書類送検した。動機は「特定できなかった」としている。実父はまじめで家賃の滞納も一度もなく、長女をおぶって散歩する姿も目撃されている。また4日前、実母が近所の人に「住宅展示場を見学してきた」と嬉しそうに話していたという。</p>
<p>漁港沖合に沈んでいた乗用車の中から実父(57)・実母(51)・長女(11)の遺体が発見。3人はシートベルトをしておらず、外傷もなく、警察は事故と心中の両面から調べている。実父はパチンコ店の店長をしていたが、3か月前に辞めていたという。</p>
<p>実母(31)が長女(3)とともに14階建てのマンションの非常階段の踊り場付近から飛び降り、全身を強く打つなどして死亡。部屋には生活苦を訴える遺書があり、警察は無理心中とみている。</p>
<p>実母(35)と長女(1)が寝室のベッドわきで遺体で発見される。1階の居間が焼けており、遺体は2階の寝室にあり、遺書のような書置きも発見された。室内のドアや窓はすべて施錠されており、通報を受けて駆けつけた警察が玄関の窓ガラスを割って部屋に入り、遺体が発見した。警察は心中とみて調べている。</p>
<p>実母(35)・長女(10)・次女(6)が乗った乗用車が湖に転落。約30分後、病院に搬送されたがまもなく死亡。死因は水死。実況見分の結果、ブレーキ痕、スリップ痕がなく、警察は実母が心中を図った可能性が高いとみて詳しく調べている。</p>
<p>実母(35)が次男(13)・三男(12)とともに、車内において練炭により心中。警察が駆けつけたところ車内で3人が倒れており、病院に搬送したが次男・三男は一酸化炭素中毒でまもなく死亡、実母は意識不明の重体。実父(41)は夜勤で不在、長男は寝室にいて無事であった。実母は2002年11月～2003年1月中旬まで精神科に入院。その後も事件までは通院しており、実父に「死にたい」と漏らしていた。警察は、実母が病気を苦に無理心中を図ったとみて調べている。</p>
<p>実母(36)が長女(10)を絞殺。実母も自殺しようとしたが死に切れず自首。家族は実父(44)と実母、長女の3人。実母は、実父との口論が絶えず一人で悩んでいた。事件時、実父は仕事で不在。実母は、殺人容疑で逮捕され、心神耗弱状態であったと認められ懲役2年6か月の実刑判決を受ける。</p>
<p>実父(29)が長男(3)を絞殺し、自身の腹を刃物(長さ約25センチ)で数か所刺して重傷。実父は退院後、殺人容疑で逮捕。実父は事件前日、長男を保育園から連れ出し、翌日夜に車内で寝ていた長男を殺害。長男の育児を巡って夫婦間で口論が絶えず、「長男の将来を悲観」して無理心中を図ったという。家族は、実父と実母(29)、長男の3人暮らしだった。懲役7年の刑が言い渡された。</p>
<p>実父(45)と長男(12)が、乗用車の両脇に倒れているところを実母(46)に発見され、病院に搬送されたが、まもなく死亡。長男には首を絞められた跡があり、実父の腹部には刃物で切った跡があったほか、首にベルトを巻いていた。警察は、実父が、実母の携帯電話に「限界です。終わりにします」などと自殺をほのめかすメールを送っていたことから、無理心中の可能性が高いとみて調べている。</p>

事例No.	事件発覚年	心中の形態	心中の未遂/既遂	加害者			子の殺害手段	死亡した被害児童数	生存した被害児童の有無	
				加害者	自殺手段	自殺の未遂/既遂				刑など
135	2003	父母子	既遂	実父 実母	ガス(車内) ガス(車内)	既遂 既遂	— —	ガス(車内)×2	2	無
136	2003	母子	既遂	実母	ガス(車内)	既遂	—	ガス(車内)	1	無
137	2003	母子	既遂	実母	縊死	既遂	—	絞首×3	3	無
138	2003	父子	未遂	実父	意思のみ	未遂	不明	絞首	1	無
139	2003	母子	既遂	実母	投身	既遂	—	投身	1	無
140	2003	母子	未遂	実母	自動車(入水)	未遂	不明	自動車(入水)	1	無
141	2003	母子	既遂	実母	放火	既遂	—	放火	1	無
142	2003	母子	既遂	実母	投身	既遂	—	投身	1	無
143	2003	母子	既遂	実母	投身	既遂	—	絞首×2	2	無
144	2003	母子	既遂	実母	ガス(自宅)	既遂	—	ガス(自宅)×2	2	無
145	2003	母子	既遂	実母	縊死	既遂	—	絞首	1	無
146	2003	母子	既遂	実母	電車	既遂	—	電車	1	無
147	2003	父母子	既遂	実父 実母	ガス(車内) ガス(車内)	既遂 既遂	— —	ガス(車内)×2	2	無
148	2003	母子	未遂	実母	投身	未遂	処分保留	絞首×2	2	無
149	2003	父母子	既遂	実父	刃物	既遂	—	刃物×2	2	有
150	2003	母子	既遂	実母	縊死	既遂	—	不明	1	無
151	2003	母子	既遂	実母	不明	既遂	—	絞首	1	無
152	2003	母子	既遂	実母	自動車(入水)	既遂	—	自動車(入水)×2	2	無
153	2003	母子	既遂	実母	縊死	既遂	—	絞首×2	2	無
154	2003	父子	既遂	実父	自動車(転落)	既遂	—	自動車(転落)	1	無

事例の概要
<p>実父(42)・実母(26)・長女(3)・次女(2)が、車内で練炭による一酸化炭素中毒で死亡しているのが発見された。ルームミラーにひもでぶらさげた金属容器の中に燃え尽きた練炭が入っており、車内の全ての窓が内側から粘着テープで目張りされていた。車内には「先立つ不孝をお許しください。これ以上、生活できなくなりました」といった内容のメモが残されており、所持金はほとんどなかった。警察は、子ども2人を殺害したとして、実父母を被疑者死亡のまま殺人容疑で書類送検した。</p>
<p>実母(28)が長男(6)とともに、車内において排ガスによる心中。車のマフラーから車内にホースで排ガスを引き込んでおり、警察は実母が無理心中を図ったとみて調べている。2人は数日前から行方不明で、捜索願がでていた。</p>
<p>実母(33)が首を吊って死亡、長女(4)・長男(2)・次男(1)も布団の上で死亡しているのを、実父(36)が発見。子どもらの首には絞められた痕があった。実父母は離婚話が進んでおり、子どもの親権をめぐる争いがあった。警察は、実母が無理心中した可能性が高いとみている。</p>
<p>実父(51)が長男(14)の首を絞めているのを、次男(12)が通報。警察が駆けつけると、長男は死亡しており、実父を現行犯逮捕。6年前に実母は死亡、実父が一人で長男・次男・長女(7)を育てていた。実父は「一人で子どもを抱え、将来がしんどいと思った。みんなで死のうと思った」と話している。当時、長女は別の部屋で寝ており、長男は二段ベッドの下段、次男は上段で寝ていた。警察は、実父が無理心中を図ろうとしたとみている。</p>
<p>実母(47)が長女(5)とマンション8階から飛び降りて死亡。マンション8階の非常階段に実母の鞆があり、警察は、2人が高さ1.2メートルの手すりを乗り越えて飛び降り、無理心中を図ったのではないかとみて調べている。</p>
<p>実母(28)が長男(生後2か月)とともに軽自動車に海に飛び込むが死にきれず、陸にあがって歩いていたところを発見され病院へ。2日後、長男は肺炎になり呼吸器不全で死亡。実母は殺人容疑で逮捕。実母は実父との不仲でうつ状態にあり、長男を道連れに心中を図った。</p>
<p>実母(23)と長女(生後6か月)の焼死体が、燃えている乗用車の近くで発見される。乗用車は内部から燃えており、車内に灯油のようなものをまいて火をつけたい。警察は、実母が長女を道連れに無理心中を図ったとみている。</p>
<p>実母(30代)と長男(乳児)が河原に倒れているところを発見。全身打撲ですでに死亡。警察は、橋の欄干に軽自動車が衝突しており、2人が車外に投げ出された形跡がないことから、衝突後に川に飛び降りたとみている。</p>
<p>実母(31)が、長男(3)と次男(生後11か月)の首を絞めて自宅で殺害、その後自身は車で移動し川から飛び降りて自殺(司法解剖の結果、全身を強く打ち失血死したことが判明)。自宅からは職場の人間関係の悩みや「私は駄目な母親です、ごめんなさい」と書かれたメモが見つかった。実母は実父(31)と父方祖父・父方祖母(65)と子ども2人の6人で二世帯住宅で暮らしていた。実母はまじめで礼儀正しく、会社からの信頼も厚く、父方祖父母とも仲がよかった。警察は、実母を子ども2人の殺人容疑で容疑者死亡のまま書類送検。</p>
<p>実母(37)、長女(14)と長男(10)が居間で死亡しているのを発見される。居間にはキャンプ用の炭とマッチの燃えカスが残った中華鍋もあり、一酸化炭素中毒による死亡と見られる。実母は2002年秋までパートで働いていたが、体調を崩して休みがちだったという。民生委員に相談することや、児童相談所を訪れることもなかったようだ。現場に遺書などはなかったものの、警察は現場の状況などから心中とほぼ断定した。</p>
<p>長女(2)が自宅の布団で死亡しており、その後自宅から離れた会社のフォークリフトにロープをかけて実母(33)が首をつって死亡しているのが見つかった。長女の首に絞められた跡が残っていた。自宅から「身勝手ですみません」と書かれたメモが見つかったことから、警察は実母が無理心中を図ったとみている。実母は長女の成長が遅いと悩み障害があるのではないかと思い込んでおり、実父(33)や小児科の病院に相談していた。家族は、実父母と長男(4)・長女の4人暮らし。</p>
<p>実母(29)が次女(生後7か月)を抱いたまま、駅構内で快速電車に飛び込み、全身を強く打って死亡。実母は1999年からうつ病で通院していた。警察は無理心中とみている。</p>
<p>車内で、実父(49)と実母(43)、長女(10)・長男(6)が死んでいるのが見つかった。車内には練炭の入った七輪が置かれており、死因は一酸化炭素中毒とみられ、死後1日以上経過している。実父は3か月前頃まで経営していた会社の業績悪化などによる借金を抱えていたとみられ、警察は無理心中の可能性が高いとみて調べている。</p>
<p>長男(12)と長女(6)が首を絞められて殺されているのを帰宅した母方叔父(38)が発見し、110番通報。その後、実母(41)は、家から離れた橋から身を投げ、大怪我をして倒れているのを発見されて入院した。実母は、実家で母方祖母と母方叔父と子ども2人の5人暮らし。実父(40)は単身赴任中だった。遺書らしいメモが残されており、警察は無理心中を図ったとして実母を退院後に殺人容疑で逮捕。実母は親の介護疲れや育児に悩んだ末に無理心中を図ったという。その後、地検は実母を処分保留で釈放した。</p>
<p>長女(5)が知人宅に『お父さんがお母さんを刺した』と駆け込み、知人が119番通報。警察が、自宅で実父(30)・実母(29)・次女(4)・三女(2)の遺体を発見。実父の胸には刺傷があり、実母・次女・三女の背中や胸にも刺し傷があった。長女も背中を刺されて重傷。遺書などは見つからない。実父は電気工事会社の現場施工管理主任で、まじめであり、金銭トラブルなどもなかったようだ。警察は、実父が実母と子ども3人を道連れに無理心中を企て、4人を包丁で刺して殺傷したあと自殺したとして、実父を殺人と殺人未遂の疑いで容疑者死亡のまま書類送検した。</p>
<p>実母(43)が首をつって自殺。遺体の約1メートル下の谷川で長女(生後5か月)がうつぶせの状態に死亡しているのを発見。実母は育児について悩んでいたようで、2003年6月17日の朝から行方がわからなくなっていたことから、警察は無理心中とみて調べている。</p>
<p>実母(52)と長女(14)がアパートの室内で遺体で発見された。居間のテーブルに「借金があり、生活が苦しい。疲れた」と書かれた遺書があり、玄関の鍵もかかっていたことから、警察は親子心中したとみている。長女は布製の紐で首をしめられていた。</p>
<p>海岸に車が落ちているのが見つかった。実母(25)と双子の女儿(6か月)のうち1人の遺体は車内で発見され、後日もう1人の女儿の遺体が発見された。実母は、双子の乳児と母方祖父母、母方曾祖母の6人暮らし。車が発見される前日、実母が「死んでやる」と言って出て行ったまま行方不明となっていたとの情報もあり、警察は無理心中の可能性もあると見ている。</p>
<p>実母(30)・長男(2)・次男(1)の3人が死んでいるのを、帰宅した実父(52)が発見。子ども2人はビニール紐で首を絞められ、実母は浴室で首を吊っていた。実父母と子ども2人の4人家族は、1年程前に引っ越してきた。実母は積極的に周囲と付き合うタイプではなかったらしく、育児に悩み無理心中に及んだと警察はみている。</p>
<p>実父(21)が長男(生後11か月)とともに車でがけから転落して、車外に投げ出され、全身を強く打つなどして死亡、車は炎上。実父は、実母(21)と昨年別居し、弁護士を介して離婚調停中だった。事件当日は復縁を迫り実母の元へ行ったが、断られたため実母が育てていた長男を車に乗せて連れ去った。事件前、実母は「夫がガンソリンをかぶって、子どもを連れて出ていった」と通報していたという。プレーキの痕がないため、警察は実父が無理心中を図ったと見て調べている。</p>

事例No.	事件発覚年	心中の形態	心中の未遂/既遂	加害者				子の殺害手段	死亡した被害児童数	生存した被害児童の有無
				加害者	自殺手段	自殺の未遂/既遂	刑など			
155	2003	父母子	既遂	実父 実母	不明 不明	既遂 既遂	— —	不明×2	2	無
156	2003	母子	既遂	実母	電車	既遂	—	電車×2	2	無
157	2003	母子	既遂	実母	自動車(入水)	既遂	—	自動車(入水)×2	2	有
158	2003	母子	未遂	実母	刃物	未遂	不明	刃物	1	無
159	2003	父母子	未遂	実父 実母	意思のみ 縊死	未遂 既遂	懲役7年 —	絞首	1	無
160	2003	母子	既遂	実母	投身	既遂	—	投身	1	無
161	2003	母子	未遂	実母	不明	未遂	不明	不明	1	無
162	2003	母子	未遂	実母	刃物	未遂	不明	窒息	1	無
163	2003	母子	既遂	実母	放火	既遂	—	放火	1	無
164	2003	母子	未遂	実母	投身	未遂	不明	投身	1	無
165	2003	母子	未遂	実母	自動車(衝突)	未遂	懲役10年	絞首×2	2	無
166	2003	父子	既遂	実父	刃物+入水(自宅)	既遂	—	刃物×2	2	無
167	2003	母子	既遂	実母	入水(自宅)	既遂	—	入水(自宅)×2	2	無
168	2003	母子	既遂	実母	縊死	既遂	—	絞首×2	2	無
169	2003	母子	既遂	実母	投身	既遂	—	絞首	1	有
170	2003	父子	既遂	実父	不明	既遂	—	不明×2	2	無
171	2004	父子	未遂	実父	ガス(車内)	未遂	不明	ガス(車内)	1	無
172	2004	母子	未遂	実母	ガス(不明)	未遂	不明	刃物	1	有
173	2004	母子	未遂	実母	薬物	未遂	懲役6年	窒息	1	無
174	2004	母子	未遂	実母	刃物	未遂	懲役4年	絞首	1	無

事例の概要
ホテルの室内で、実父(31)・実母(22)・長女(2)・長男(生後1か月)の4人が死んでいるのが発見された。実父は飲食店を経営していたが、店がつぶれ、無職だった。夫婦の両親宛てに「身勝手を許してください。手紙が着くころには死んでいます」などと書かれた遺書が郵送されてきたという。警察は、無理心中とみて調べている。
実母(42)と長女(13)・次女(12)が列車にはねられ死亡。3人が抱き合うようにして線路内に立っていたことから、警察は心中と見ている。一家は実父を含め4人家族で、実母らは家庭内のトラブルから数日前から家出をしていた。以前から度々家出を繰り返していたという。
実母(36)が、長男(10)・次男(7)・三男(4)とともに車ごと海に転落。長男は救出され軽傷だが、母親と次男・三男は死亡した。数日前に、実父(41)から母子の捜索願が出されていた。現場付近には母親の手帳が落ちており、自殺を示唆する記述があった。警察は、持病で悩んでいた実母が子ども3人と無理心中を図ったとみている。
実母(32)が寝ている長男(2)の腹を包丁で刺し、さらに自分の腹を包丁で刺して重傷。長男は病院に運ばれたが、まもなく死亡。事件当日は祖母(78)が訪ねてきており、長男の悲鳴を聞いて寝室にかけつけ、長男と実母を離れたすきに、実母は自身の腹を刺したという。警察は、実母が無理心中を図ったとみて、実母の回復を待つ事情を聴く予定。
実父(29)が「妻と2人で子どもの首を絞めて殺した」と自首。警察が自宅を調べたところ、実母(29)と長男(5)が死亡しているのが見つかり、実父を殺人容疑で緊急逮捕した。実母は、首を吊って死亡していた。実父と実母は離婚していたが、親子3人で同居していた。実父は3年ほど前に会社を辞めてから無職で、パチンコなどに使うため、消費者金融や知人などから計約1500万円の借金があった。実父は実母から心中を持ちかけられ、2人で寝ていた長男の首を両手で絞め、顔をバスタオルで覆うなどして窒息死させた。数日後、実父が帰宅すると実母は自殺していたという。実母は被疑者死亡のまま殺人容疑で書類送検され、実父は殺人罪で懲役7年の実刑判決を受ける。
実母(37)と長女(5)が25階建てのマンションから飛び降り、実母は全身を強く打って死亡、長女は病院に運ばれたが7時間後に全身打撲で死亡。マンション屋上には靴や持ち物が並べられており、警察は実母が心中したものとして調べている。実母は病気に苦しんでいたらしい。
ホテルで、実母(33)が首から血を流して倒れ、長男(10)が死亡しているのが発見された。実母は病院に運ばれたが重体。警察は実母が無理心中を図ったとみている。
実母(28)と長女(生後2か月)が倒れているのを、帰宅した実父(30)が見つけて119番通報。長女はすでに死亡していた。警察は、自宅ベッドに寝ていた長女の顔にタオルケットを押し付け、窒息死させた疑いで実母を逮捕。実母は、長女殺害後、手首を包丁で切って自殺を図ったが、死に切れず2か月の怪我。実母は育児に悩んでいたという。
自宅から出火し、実母(48)と四男(11)の焼死体が見つかった。現場から約100メートル離れた実母の乗用車から「ごめんね」「たのしかった」などと書かれたメモが発見された。警察は、実母がこれらメモを書いたあと、四男を道連れに心中を図ったとみている。実母と四男のほか父方祖父も同居していたが、実父(49)とは別居中だった。祖父は出火時逃げ出して無事。実母は殺人と現住建造物等放火の疑いで被疑者死亡のまま書類送検された。
14階建てのリゾートマンションから人が落ちたと119番通報。警察が駆けつけたところ、実母(19)は全身を強く打って意識不明の重体、長男(2か月)は死亡。2人は数日前から両親ら6人と11階に宿泊しており、部屋のベランダから飛び降りたとみられる。実母は育児に悩んでおり、気分転換に療養に来たそう、警察は無理心中と事故の両面から調べている。
双子の次男(12)・三男(12)を殺害したとして、実母(41)を逮捕。実母は、子ども2人の首に電気コードを巻いて殺害し、その後「自分も死のう」と思い運転する車で大型トラックに衝突し自殺を図った。実父(43)は単身赴任中であり、実母は長男(14)と双子たちの4人暮らし。長男は、警察が来るまで自分の部屋で寝ており、「事件のことは知らない」と話しているという。実母は「2人が反抗期で子育てに悩んでいた」と供述。実母は懲役10年の実刑判決を受けた。
実父(45)・長男(14)・次男(11)が首から血を流して死亡しているのが見つかった。子ども2人は寝室で、実父は水を張った浴槽で死亡していた。死因は、長男と次男が失血死、実父が水死。実父は実母(36)と別れてから、子どもたちと3人暮らし、大工として市内の建設会社で働き、5年程前に独立。しかし、取引先への支払いが滞るなど経営は思わしくなかった。今月に入ってから「仕事がうまくいかない」と実父は父方伯父に相談していた。警察は、実父が子ども2人を道連れに無理心中をしたとし、実父を殺人容疑で被疑者死亡のまま書類送検した。
実母(33)・長女(5)・次女(生後3か月)が浴槽に沈んでいるのを、帰宅した実父(30歳代)が見つけた。死因はいずれも水死。実母の左手首には浅い切り傷があり、浴室には包丁が落ちていた。実母は育児に悩んでいたようで、実父に「夜、眠れない」などと話していたという。警察は、入浴中に実母が発作的に子どもを浴槽に沈め、無理心中を図ったとみて調べている。
実母(35)・長女(9)・次女(4)が死亡しているのを、帰宅した実父(36)が発見し、119番通報。警察は現場の状況から無理心中としており、実母が子どもの首を絞めるなどして殺害した後、自らも首を吊ったとみている。家族は、実父母と子ども2人の4人だった。
隣人の通報で警察がかけつけたところ、首を絞められて死亡している次男(9)と、包丁で切られて首に軽傷を負った長男(14)を発見。実母(37)が無理心中を図ったとして、警察が行方を探していたところ、自宅から2キロ離れたダムで遺体が見つかった。死因は転落による外傷性ショック死。実母の枕元には「子ども二人は私の生きがい。宝。子どもを連れて天空に行きます」と書かれたメモが残されていた。実父(50)は「最近、妻の様子がおかしかった」と話しているという。実母は殺人・殺人未遂容疑で被疑者死亡のまま書類送検された。
車内で、実父(27)と長男(5)・次男(3)が死んでいるのを発見。車内には焦げた跡があり、実父の手足にはやけどが見られたが、男児2人には目立った外傷はなかった。後部座席には油のような液体が入ったプラスチック容器があった。実父は先月に離婚。発見の数日前の夜、別れた実母宅を訪れ口論になり、実母を殴ったうえ「おれは死ぬぞ」と言い残して、男児2人を連れ去った。警察は、実父が無理心中したとみており、遺体を司法解剖して死因を調べる。
実父(45)が次男(14)と共に、車内において練炭による心中。2人とも意識不明の重体だったが、次男は発見から1時間後に死亡。11日昼から行方がわからず、家族が捜索願を出していた。実父は次男の障害に悩んでいた。
実母(33)が就寝中の長女(生後1か月)の腹部を包丁で刺して殺害。実母は長男(6)とガス自殺しようとしたが死に切れず、長女の遺体をバックに入れ、長男を連れて葬儀店に行き、娘を殺したから火葬してほしいと頼んだ。実母は「生活保護を受けていたが疲れた。一家心中しようと思った」と供述。
実母(33)が、車内で眠っていた長男(5)の口と鼻を手で塞いで窒息死させた。実母も、頭痛薬を飲んで自殺を図るも死に切れず、翌朝自首した。実母は金銭トラブルや実父(37)との離婚話に悩み、離婚によって長男と別離することを悲観し心中を決意した。実母は殺人罪で懲役6年の判決。
実母(34)が、長女(6)の首を両手で絞め、さらに腰ひもで絞めて殺害。実母は果物ナイフで胸と腹部を刺し自殺を図る(重傷)。長男(5)も自宅にいたが無事だった。遺書も見つかった。警察は、殺人容疑で実母を逮捕。裁判で実母は、実父(34)の転勤で転居後、新生活になじめず、子どもの将来を悲観し心中を考えるようになったと述べた。精神鑑定等を受けるが、心神耗弱は認められず、懲役4年の実刑判決。

事例No.	事件発覚年	心中の形態	心中の未遂/既遂	加害者			子の殺害手段	死亡した被害児童数	生存した被害児童の有無	
				加害者	自殺手段	自殺の未遂/既遂				
175	2004	その他	未遂	祖母	薬物	未遂	懲役3年	絞首	1	無
176	2004	母子	既遂	実母	縊死	既遂	—	絞首	1	無
177	2004	母子	既遂	実母	放火	既遂	—	放火(車)	1	有
178	2004	母子	未遂	実母	意思のみ	未遂	懲役6年(心神耗弱)	投身十絞首×2	2	無
179	2004	母子	既遂	実母	縊死	既遂	—	絞首	1	無
180	2004	母子	既遂	実母	縊死	既遂	—	絞首×2	2	無
181	2004	母子	既遂	実母	投身	既遂	—	絞首×3	3	無
182	2004	母子	既遂	実母	ガス(車内)	既遂	—	ガス(車内)	1	無
183	2004	母子	既遂	実母	入水(自宅外)	既遂	—	入水(自宅外)	1	無
184	2004	母子	未遂	実母	刃物	未遂	不明	絞首	1	有
185	2004	母子	未遂	実母	薬物十ガス(自宅)	未遂	懲役16年	薬物十刃物 薬物十窒息	2	有
186	2004	母子	既遂	実母	ガス(車内)	既遂	—	ガス(車内)	1	無
187	2004	母子	既遂	実母	刃物	既遂	—	刃物×2	2	有
188	2004	父母子	既遂	不明	放火	既遂	—	放火	1	無
189	2004	母子	既遂	実母	刃物	既遂	—	刃物	1	無
190	2004	母子	未遂	実母	薬物	未遂	不明	窒息	1	無
191	2004	母子	既遂	実母	縊死	既遂	—	その他(縊死)	1	無
192	2004	母子	既遂	実母	投身	既遂	—	絞首×2	2	無
193	2004	母子	未遂	実母	意思のみ	未遂	懲役5年	絞首	1	無
194	2004	母子	未遂	実母	刃物	未遂	懲役5年	絞首	1	無

事例の概要
祖母(69)が孫(2)に睡眠薬を飲ませて絞殺。祖母も睡眠薬を飲み心中を図ったが、死に切れず、殺人容疑で逮捕された。祖母は祖父(69)と孫と3人で事件4日前から別荘に滞在。祖母は、孫の発育が遅く自閉症と思い込み、将来を悲観して犯行を決意したと供述。懲役3年の実刑判決。
室内で首を吊っている実母(37)と、布団の上であおむけに倒れている長女(3)を、帰宅した実父(39)が発見し119番通報。長女の首には紐状のもので絞められた跡があり赤くはれており、病院に運ばれたが数日後に死亡した。警察は、実母が長女を絞殺した後、自殺をした無理心中の可能性が高いとして調べている。実母は、長女の育児に悩んでいたという。
燃え上がった乗用車内から、実母(33)と長女(生後1か月)の遺体を発見。逃げ出した長男(9)と次男(7)も軽い火傷を負った。警察は、実母が車に油をまいて火をつけ、無理心中を図ったとみている。実母は長女を出産後、実父(34)に「育児に疲れた、死にたい」と訴えていたらしい。長男は「お母さんがドライブに誘った。車を止めると、液体をまいて火をつけたので外に出た」と話したという。
警察が行方不明になっていた実母(38)を山中で発見したところ、「2人の子の首を絞めて殺した」と供述し、近くから長女(8)・次男(3)の遺体が見つかったため、実母を殺人と死体遺棄の疑いで逮捕した。実母は、無理心中を考え、3人の子どもを連れて外出、2人の子どもを山の中腹の崖から突き落としたが死ななかったため、首を絞めて殺害し、遺体を放置。長男(7)は途中ではぐれたため無事だった。実母も死のうとしたが死に切れず、呆然としていたところを発見されたという。実母は知的障害のある長女らの育児に悩み、無理心中を考えたという。心神耗弱が認められ、殺人罪で懲役6年の刑が言い渡された。
長女(4)が倒れ、実母(35)が首を吊っているのを、帰宅した実父(41)が発見。次女(10か月)は無事だった。警察は、実母が長女の首をハンカチで絞めた後、ネクタイをかけて首をつって自殺した無理心中とみている。実父(41)は単身赴任中で週末を利用して帰宅したところだった。実母は、病気の長女の看病で「眠れない」と実父に訴えるなど、育児で悩んでいたという。
自宅、実母(43)・長男(8)・長女(4)が死亡しているのを、帰宅した実父(46)が発見。警察は、実母が無理心中したとみている。実母は、かもいにネクタイをかけて首をつっていた。子どもらは、布団の中で仰向けに倒れており、首を絞めたような跡があった。遺書などは見つからないが、実母は子どものことなどに悩み、通院中だったという。
実母(39)がマンション駐車場で倒れているのを住民が見つけて119番通報した。その後、連絡を受けた実父(46)が、車内で長女(8)・次女(5)・長男(3)が死亡しているのを発見。子どもらは首を絞められて殺されたとみられる。警察は、実母が子ども3人を殺害後、自宅から離れた11階建てのマンションから投身自殺をした無理心中とみて調べている。遺書は見つからない。家族は、実父母と子どもたち3人の計5人。実母は病気がちな長男らの育児に疲れたと家族に漏らしており、2か月程前からうつ病で通院していた。
実母(29)と長男(4か月)が車内で死亡しているのが見つかった。車内には練炭を燃やした跡があり、警察は無理心中とみている。実父は病気を苦に数日前に自殺しており、車内には、「夫のもとへ行くことをお許しください」と書かれた遺書があった。
海岸で、実母(36)と長女(8)の遺体が打ち上げられているのが見つかった。警察は、近くの堤防か海岸から海に飛び込んだ心中事件とみている。遺体は死後1日ぐらいで外傷なし。前日、実父(40)が帰宅したところ2人の姿がなく、捜索願を出していた。遺書は見つからない。
車内で、実母(35)と長男(7)・長女(5)の3人がぐったりしているのを発見。長男は首を絞められており、窒息死。実母は手首を切って血を流していた。長女も首を絞められて失神したが意識を取り戻し、携帯電話を使って実父に助けを求め、実父がすぐに駆けつけ119番通報した。実母は殺人と殺人未遂の疑いで逮捕、「長男の発育が遅く育児に疲れた」「みんなで死のうと思った」などと供述している。
実母(41)から「子どもを殺した」という内容のメールを受け取った長男(20)が通報し、警察が自宅で実母・次男(13)・長女(10)・三男(1)が倒れているのを発見した。次男と三男は既に死亡しており、実母と長女(10)はガス中毒で病院に運ばれ、命に別状はなかった。部屋には「みんなで死んで天国に行きましょう」と書かれた遺書があり、警察は実母が無理心中を図ったとして、殺人と殺人未遂の容疑で逮捕した。実母は、数年前からうつ病で精神科に通院していた。実母は4人で睡眠導入剤を飲み、次男の腹部を包丁で刺して殺害、三男の顔にまくらを押し当てて殺害した。その後、ガス栓のホースを抜き、長女を殺害しようとした。一家は、生活保護と前夫の仕送りで生活していたが、実母が三男の育児を次男らに押し付け、学校にも行かせず、虐待を繰り返し、働こうともしないで引きこもり状態だった。実母は、一家が世間から孤立していると感じるようになり、生きていても仕方ないと考え、自殺の道連れに子どもたちを殺害しようと考え心中を計画。懲役16年の判決。
自宅浴室で、実母(38)と長男(5)が仰向けに倒れて死んでいるのを発見。浴室には練炭をたいた跡があった。警察は、実母が心中を図った疑いがあるとみている。母子2人暮らしだった。
乗用車の中で実母(31)・次女(5)・三女(1)が死んでいるのを発見。3人とも首に刃物による傷があり、警察は心中の可能性が高いとみて調べている。長女(9)が近くの民家に助けを求め、住民が119番通報。長女(9)も首を切られており、重傷。車内には凶器とみられる刃物があった。遺書はなかったという。
3階建てのマンションが全焼、焼け跡から実父(34)・実母(32)・長男(2)の遺体が見つかる。3人の遺体はいずれも6畳の寝室で見つかり、室内からガソリンが入っていたとみられる鉄製タンクやプラスチック製容器、ライターなどが見つかっており、無理心中の可能性があるとみて出火原因を調べている。
実母(48)と次女(8)は、市内の大型スーパー前でタクシーに乗車。タクシー内にて突然実母が果物ナイフを取り出し、次女の胸や腹など数か所を刺し、自分の首を刺した。病院に運ばれたが母娘ともに死亡。警察は無理心中の疑いが強いとして、動機を調べている。
実母(30)が自宅で、長女(生後5か月)の顔にタオルをかぶせて窒息死させた。その後、睡眠薬を飲み自殺を図るも快復、殺人容疑で逮捕された。実母は、重い病気を患っていた長女の看病の疲れから、長女の将来を悲観するようになり、無理心中を図ったという。
山頂付近で実母(40)と長女(9)が木に首をつって死んでいるところを発見された。衣服の乱れや外傷はなく、死後4～5日たっており、警察は無理心中の可能性もあるとして2人の足取りについての確認を急いでいる。家族は、実父母と長女の3人暮らしだった。
自宅で長女(7)と次女(3)が死亡しているのを、帰宅した実父(36)が見つけれ110番通報。同マンション駐車場で、実母(36)も死亡していた。子ども2人には、首を絞められた跡があった。警察は、実母が子どもらを殺害後、投身自殺をしたとみている。自宅には実母が書いた実父や祖父母宛の遺書が数通残されていた。
実母(48)が、寝ていた長男(13)の首を縄跳びの紐で絞めて窒息死させ、自ら通報、殺人容疑で逮捕された。長男が家庭内暴力をふるうようになり、実母は今春から治療のため長男を精神科病院へ入院させた。犯行時は外出許可をもらって一時帰宅中だった。実母も通院していた。実母は長男の不登校や家庭内暴力などに悩み、無理心中を決意したという。一家は実父(49)・実母・子ども2人の4人暮らし。懲役5年の実刑判決。
長女(2)が寝室の布団で首を絞められて死んでいるのが見つかった。実母(27)が殺人容疑で逮捕された。当初、実母は「夜中に目出し帽の男が入ってきて、朝起きたら娘が死んでいた」と話していたが、事情を聞いたところ犯行を認めた。実母は消費者金融などへの多額の借金を苦に、長女の首を延長コードで絞めて殺害し、自分の首を包丁で切り心中を図ったという。実母は長女と母方祖母(52)の3人暮らし。懲役5年の判決。



事例No.	事件発覚年	心中の形態	心中の未遂/既遂	加害者				子の殺害手段	死亡した被害児童数	生存した被害児童の有無
				加害者	自殺手段	自殺の未遂/既遂	刑など			
195	2004	その他	既遂	母方祖父 母方祖母 実母	入水(自宅外) 入水(自宅外) 入水(自宅外)	既遂 既遂 既遂	— — —	入水(自宅外)	1	無
196	2004	母子	未遂	実母	薬物	未遂	不明	絞首	1	無
197	2004	母子	未遂	実母	不明	未遂	懲役3年 執行猶予5年 (心神耗弱)	絞首	1	無
198	2004	父子	既遂	実父 実母	ガス(車内) ガス(車内)	既遂 既遂	— —	ガス(車内)	1	無
199	2004	父子	既遂	実父	ガス(車内)	既遂	—	ガス(車内)	1	無
200	2004	父子	未遂	実父 実母	ガス(自宅)	既遂 未遂	— 不明	ガス(自宅)×2	2	無
201	2004	母子	未遂	実母	放火	未遂	懲役10年	放火十鈍器×2	2	無
202	2005	母子	未遂	実母	刃物	未遂	懲役6年	絞首	1	無
203	2005	母子	未遂	実母	刃物	未遂	懲役3年6か月	窒息死	1	無
204	2005	母子	未遂	実母	意思のみ	未遂	懲役3年6か月	絞首	1	無
205	2005	母子	未遂	実母	ガス(自宅)	未遂	懲役7年	ガス(自宅)	1	有
206	2005	母子	既遂	実母	ガス(自宅)	既遂	—	ガス(自宅)	1	無
207	2005	母子	既遂	実母	投身	既遂	—	投身	1	無
208	2005	父子	既遂	実父	ガス(車内)	既遂	—	ガス(車内)×2	2	無
209	2005	その他	未遂	母方祖父	刃物	未遂	無期懲役 (上告中)	絞首×2	2	無
210	2005	父子	既遂	実父	縊死	既遂	—	絞首×2	2	無
211	2005	母子	未遂	実母	刃物	未遂	不明	絞首	1	無
212	2005	父子	既遂	実父	ガス(車内)	既遂	—	ガス(車内)	1	無
213	2005	その他	未遂	父方祖母	放火	未遂	懲役17年	放火	1	無
214	2005	父子	既遂	実父 実母	ガス(車内) ガス(車内)	既遂 既遂	— —	ガス(車内)	1	無

事例の概要
ダム付近の川中で長男(4)・母方祖母(60)の遺体を発見。数日後、川で、母方祖父(68)・実母(36)の遺体を発見。4人は数日前から行方不明となり、実父(31)が捜索願を出していた。一家の乗用車が川の上流で見つかり、警察では4人が入水して心中を図ったと断定した。
実母(35)が車内で長女(6)の首を帯で絞めて殺害し、睡眠薬のようなものを飲んで昏睡状態のところを発見された。警察は、無理心中を図ったとみて捜査、実母が長女を絞殺したことを認めため、殺人容疑で逮捕した。実母は、意味不明な供述をしており、警察は慎重に調べを進めている。
実母(45)が長男(3)と枕投げをしているうちに心中を思いつき、長男の顔を枕で押さえつける。苦しそうにしていた長男を一度抱き寄せるも「もう戻れない」と思い、タオルで首を絞め窒息死させた。犯行後、自殺を図り重傷を負うなど、うつ病の影響があり、心神耗弱が認められ、懲役3年執行猶予5年の判決を受ける。
実父(23)と実母(23)、長男(2)が車内で死んでいるのを発見。車内には燃えた練炭ストーブが置いてあり、死因はいずれも一酸化中毒と思われる。親族内の借金トラブルにふれた遺書が車内にあったことから、警察は実父母が無理心中を図ったとみている。
実父(35)と次女(3)が車内で死んでいるのが見つかった。車内には半焼した木炭が入った火鉢が置かれており、死因は一酸化中毒とみられる。車内には「家族に申し訳ない」と書かれた遺書も残されていた。実父は実母(37)ら5人家族、実母は「昨夜、目が覚めたら夫は次女と一緒にいなくなっていた」と話しているという。
実父(30)と実母(29)が、長男(4)・長女(10か月)とともに、部屋で練炭による一家心中。発見されたときには、長男・長女は死亡、実父・実母が病院に運ばれたが、実父は死亡、実母は重体。「子どもの看病に疲れた。これまで頑張ってきたがどうにもならない」と書かれた遺書5通があった。子ども2人はアトピー性皮膚炎だった。
実母(37)が軽乗用車の後部座席に長女(9)・長男(3)を乗せ、山中で車を止めて、車ごと焼け死のうとした。しかし車が燃えなかったため、石を車内に持ち込み、約1時間半にわたって2人を殴り続けた。2人は病院に運ばれたが死亡。1998年、医療機関からの通告で長女が実母に虐待されている疑いが発覚し、児童養護施設に一時入所させた。2003年1月、9月にも長男についての通告があり、相談所が実母と面接、指導していた。犯行当日も、実母は実父と長男と相談所に訪れ、面接を受けていた。動機については「虐待が原因で夫から離婚を告げられ、家を出ることになり悲嘆した。子どもを道連れに死のうと思った」と述べている。実母は殺人罪で懲役10年の判決を受ける。
実母(45)が次女(7)の首を絞めて殺害し、自身の腹を包丁で刺して自殺を図る。2人が倒れているところを学校から帰宅した長女(13)が発見し、実父(45)が通報。病院に運ばれたが、次女はまもなく死亡、実母も重傷。実母は退院後、殺人容疑で逮捕。実母は仕事が見つからず家事をするのが嫌になり、「まだ小学生の次女を残すと家族に負担がかかる」として無理心中を決意。実母は殺人罪で懲役6年の判決を受ける。
実母(26)が自宅で長男(生後11か月)をこたつ布団を使って窒息死させる。その後カッターナイフで手首を切ったが死に切れず「子どもが死んだ」と110番通報、殺人容疑で逮捕された。実母は夫婦間のトラブルが原因で無理心中を決意。殺人罪で懲役3年6か月の実刑判決を受ける。実母は、実父(26)と長女、長男の4人暮らしで、事件時は実父は仕事で外出中、長女は実家に預けていた。
実母(26)が長男(生後2か月)の首を絞めて殺害後、自ら110番通報。実母は、「自分も死のうと思ったが死に切れなかった」と話しており、生真面目で律儀な性格から長男の泣き癖が改善されないことに悩み、産後の心理状態も災いして追い込まれていったとみられる。実母は逮捕され、殺人罪で懲役3年6か月の判決を受ける。実父(37)・実母と長男の3人暮らし。
知人が、実母(35)・長男(11)・次男(9)が自宅で倒れているのを発見し、119番通報。長男は一酸化炭素中毒で死亡、実母と次男は病院に運ばれ無事だった。練炭の燃えカスが残ったコンロが見つかった。家族は、母子3人暮らし。実母は逮捕され、殺人罪と殺人未遂罪で懲役7年の判決を受ける。
自宅が出火し、実母(43)と長男(14)が死んでいるのが見つかった。室内からは練炭が見つかり、鍵もかかっていたことから、警察は心中と断定。室内には、「生活に困った」などの走り書きもあった。死因は一酸化炭素中毒。
実母(33)と長男(4)がマンションの8階から飛び降り、頭を強く打って死亡。家族は、実父母と長男の3人暮らし。実父は事件時仕事で外出していた。玄関には鍵がかかっていた。警察は、無理心中とみて調べている。
実父(31)・長女(4)・長男(3)が車内で死亡しているのが見つかった。助手席に七輪が置かれ、練炭を燃やした跡があり、3人に外傷がないことなどから、警察は心中の可能性が高いとみて調べている。実父らは3人暮らしで遺書は見つかっていない。
母方祖父(57)が、母方曾祖母(85)、母方叔父(33)、実母(30)、長男(2)、長女(生後3週間)の5人を絞殺。その後、実父(39)の腹部を包丁で刺し、自身も首を包丁で切って自殺を図った。祖父と実父は病院に運ばれ、実父は重傷、祖父は重体。また、祖父の愛犬も山の中で首を切って殺害。祖父は、曾祖母と祖母と叔父の4人暮らしで、事件時祖母(56)は旅行に出かけていた。祖父は、「何年も前から、口うるさい母をうとうとしと感じていた」などと曾祖母に対して強い殺意を抱いており、叔父や実母、長男らを殺害した動機については、「自分が殺害した後、生きていれば人殺しの家族などと周囲から白眼視されると思った」と供述している。祖父は一番で無期懲役。二審も無期懲役。2010年2月9日、最高裁に上告。
実父(26)が実母(26)と長男(3)と次男(1)の首を絞めて殺害し、自らも別室で首をつって自殺。実父は父方伯母に「妻と子どもを殺してしまった」というメールを送っており、通報。警察は、実父が無理心中を図ったとみて、容疑者死亡のまま殺人容疑で書類送検する方針。実父は、3日間ほど会社を休んでいた。
「娘が孫を殺した」と母方祖母が通報し、救急隊員がかけつけたところ、長男(11)が倒れており、搬送先病院で死亡した。警察は、実母(49)が「長男を殺して自分も死ぬつもりだった」と話したため、現行犯逮捕した。長男には首を絞められた跡があり、実母も手首などを包丁で切っていた。実父(41)は借金を抱えており、先月、パチンコ店で仲間と共謀して他の客を車に監禁し現金を奪ったとして強盗容疑で逮捕され、監禁罪で起訴されていた。一家は、生活費を同居する母方祖母の年金(月約20万円)に頼っていた。実母は「夫の仕事がうまくいかず、事件を起こして捕まったので死のうと思った。後に残る子どもがかわいそうなので殺した」と供述。
実父(31)と長男(4)が車内で横たわっているのを、父方祖父(56)が発見し、119番通報。2人は既に死亡していた。車内には、練炭が置かれており、警察は実父が子どもを連れて無理心中を図ったとみて調べている。2人の死因は一酸化炭素中毒で、部屋から「息子を道連れにする」と書かれた遺書が残されていた。実父は父方祖父(56)、父方曾祖母、長男の4人暮らしで、実母とは別居中だった。
父方祖母(60)が、自宅に火をつけ全焼。焼け跡から同居していた実父(33)、実母(31)、長男(生後7か月)の遺体が発見された。父方祖父(64)と祖母は無事。祖母は2000年ごろから脳機能が低下し始め、2002年ごろになると、わずかなことで立腹したり、奇妙な発言が目立つようになった。家出を繰り返し、家族との関係も悪化、数か月前まで精神科に入院していた。また犯行の約2週間前には首吊り自殺を試みる。その後、「自分一人が死ぬと家族がバラバラになる」と考え、無理心中を図った。祖母は、殺人罪、殺人未遂罪、現住建造物等放火罪で懲役17年の判決を受ける。
車内で、実父(50)と実母(46)と長男(11)が死亡しているのが見つかった。助手席の下に七輪が置かれ、練炭を燃やした跡があり、目立った外傷もないことから、警察は親子心中とみている。遺書などは見つからない。

事例 No.	事件 発覚年	心中の 形態	心中の 未遂/既遂	加害者			子の殺害手段	死亡した 被害 児童数	生存した 被害児童 の有無	
				加害者	自殺手段	自殺の 未遂/既遂				刑など
215	2005	母子	既遂	実母	縊死	既遂	—	絞首	1	無
216	2005	その他	未遂	実父 父方叔父	刃物 刃物	未遂 既遂	無期懲役 —	絞首×2	2	無
217	2005	母子	未遂	実母	ガス(自宅)	未遂	不明	ガス(自宅)十窒息	1	有
218	2005	父子	既遂	実父	刃物十同意	既遂	—	刃物十絞首	1	無
219	2005	母子	既遂	実母	ガス(車内)	既遂	—	ガス(車内)×3	3	無
220	2005	母子	未遂	実母	刃物	未遂	懲役4年6か月	絞首×2	2	無
221	2005	母子	未遂	実母	刃物	未遂	懲役8年	刃物×2	2	無
222	2005	母子	既遂	実母	ガス(車内)	既遂	—	ガス(車内)	1	無
223	2005	父母子	既遂	実父 実母	ガス(自宅) ガス(自宅)	既遂 既遂	— —	ガス(自宅)	1	無
224	2005	母子	既遂	実母	自動車(入水)	既遂	—	自動車(入水)	1	無
225	2005	母子	既遂	実母	放火	既遂	—	放火×2	2	無
226	2005	父母子	既遂	実父 実母	ガス(車内) ガス(車内)	既遂 既遂	— —	ガス(車内)	1	無
227	2005	父子	既遂	実父	縊死	既遂	—	不明	1	無
228	2005	母子	既遂	実母	入水(自宅外)	既遂	—	入水(自宅外)×3	3	無
229	2005	母子	未遂	実母	薬物	未遂	懲役6年	薬物	1	有
230	2005	母子	未遂	実母	刃物	未遂	不明	絞首十刃物	1	無
231	2005	父子	既遂	実父	縊死	既遂	—	絞首	1	無

事例の概要
次女(1)が寝室で首を絞められ死亡しており、実母(40)が自宅脇で首を吊っているのが見つかった。警察は、実母が無理心中を図ったとみている。居間には「体調が悪い」「娘を連れて行く」など実母が書いたと見られる遺書があった。一家は実母、実父(40)、長女(5)、長男(3)、次女の5人暮らしで、長女と長男は無事だった。実母は1月ごろから育児などで悩み精神科に通院しており、育児に疲れたと実父に話していたという。
実父(46)と父方叔父(44)が、父方祖父(74)、父方祖母(74)、実母(38)、長女(11)、長男(9)の5人を殺害後、自殺を図った。叔父は腹を刺して死亡。実父は腹を刺して重傷となったが命をとりとめ、殺人容疑で逮捕された。実父は「自分と弟で、両親、妻、子ども2人の首を絞めて殺した。弟と自分は自殺を図ったが弟は死んで自分は死にきれなかった」などと供述している。実父は、実母と子ども2人と叔父の5人暮らしで、祖父と祖母は実父の家に近い住宅で2人で暮らしていた。実父は、祖父から経営を引き継いだ鉄工所の経営に行き詰まって借金を重ね、2005年2月下旬と3月下旬に不渡りを出した。借金は少なくとも2000万円以上あり、消費者金融などを含めると数千万円にのぼる。実父は殺人容疑で逮捕され、殺人罪で無期懲役の判決を受ける。
実母(38)と次男(5)が倒れているのが見つかり、次男は搬送先の病院で死亡が確認された。警察は、実母が無理心中を図ったとみて、殺人容疑で逮捕。実母は、寝室で七輪をおいて長男(11)と次男とともに無理心中を図ったが、次男が自覚めたので口を手で塞いで窒息死させた。長男も首を絞めて殺害しようとするが逃げて無事だった。実母は実父(40)と長男、次男の4人暮らしで、実父は事件時出勤しており不在だった。実母は「信販会社などから約700万円の借金があった。離婚問題もあり、自殺しようと思ったが、後に残る子どもがかわいそうだと思った」と供述している。
実父(56)が、長女(13)を刃物で刺し、首を絞めて殺害。翌日、自身の腹を包丁で刺して自殺を図るも死に切れず苦しんでいるところを、買い物から帰宅した実母(49)に頼み、首を絞めてもらい死亡。実父母は離婚していたが、その後も3人で暮らしていた。警察は、実父が長女と無理心中を図ったとして、実父を被疑者死亡のまま殺人容疑で書類送検。実母は実父に対する嘱託殺人容疑で逮捕され、懲役3年の判決を受ける。実母は、1993年ごろから飲食などで借金を作り、自己破産。1999年ごろからパチンコに通い始めて再び借金を重ね、2004年9月頃から「一緒に死ぬしかない」と実父と話し合うようになったという。借金は実父名義分も含め400万円を超えていた。また「長女は心に病があり、一人では生きていけない」と思い、道連れにしようと考えた。
車内で、実母(29)・長男(10)・長女(7)・次女(4)の4人が死亡しているのが見つかった。車の助手席から練炭が見つかった。運転席と助手席の間には「疲れた。子どもをおいていくわけにはいかない」と書かれたメモが入った封筒があった。実母らは数日前の夕方から行方が分からなくなっており、同じころ、実母の母親の携帯電話に「死にたい」などのメールが届き、家族は捜索願を出していた。警察は、家庭内の悩みから実母が子ども3人を道連れに無理心中したとみている。
実母(32)が、車内で長男(5)と次男(生後5か月)の首を絞め殺した。自らも包丁で首などを刺して重傷を負ったが、自ら110番通報した。実母は実父(32)と2人のこどもの4人暮らし。数日前に車で出たまま戻らず、実父が捜していた。実母は、2人の息子のアトピー性皮膚炎に悩んでおり、事件前は夜も眠れない状態が続いていたという。実母は殺人容疑で逮捕され、懲役4年6か月の判決を受ける。
母方祖母(65)が119番通報し、警察がかけつけたところ、実母(33)・長男(2)・次男(生後3か月)が血を流して倒れていた。長男は間もなく死亡(失血死)、実母と次男は病院に運ばれたが、次男も数日後に死亡(失血死)した。実母は、無理心中を図ったとして殺人容疑で逮捕。実母は、子ども2人の背中や腹などを果物ナイフで刺し殺害し、自らも腹や胸などを刺した。実母は、実父(43)と父方祖母(65)と子ども2人の5人暮らしで、事件時実父は外出していた。実母は2004年夏ごろから、長男の発達に遅れがあるのではないかと感じ始め、行動の一部を対人関係の構築が困難な発達障害に特徴的な症状として悲観するようになった。そして長男が自閉症に違いないと思い、いずれ次男も発症するか、しなくても長男が次男の重荷になると悩み、2人を道連れに無理心中しようとしたと決意したという。懲役8年の判決を受ける。
車内から、実母(30歳代)と女兒(10歳前後)の遺体が見つかった。車内には練炭が置かれていたことから、警察は無理心中とみて調べている。司法解剖の結果、死因はいずれも一酸化炭素中毒、発見から1日以内に死亡したとみられる。遺書は見つかっていない。
自宅で、実父(36)と実母(45)、長男(9)が死亡しているのが見つかった。室内の鍋などに練炭の燃えかすがあり、玄関は施錠され、窓やドアに内側から目張りがかけてあった。数日前、実母は電話で母方祖母に「電気料金を払いたい」という相談をしていた。祖母はこれまで援助していたため「電気代ぐらいは払えるが、これ以上は無理」と言った。実母は「お世話になった」と言い出し、その後電話が通じなくなったという。警察は、生活苦から一家心中したのではないかとみている。遺書は見つかっていない。
海面に車が浮かんでいるのが見つかり、車内にいた実母(43)と長男(5)を救出。実母は搬送先の病院で死亡、長男も意識不明の重体だったが事件から6日後に死亡。自宅に遺書らしいメモが残っていることから、警察は無理心中とみて調べている。
アパートの一室から出火し、室内から実母(30)・長女(2)・次女(生後12日)の焼死体が見つかった。布団の上で川の字に寝た状態だった。室内からは油が入っていたとみられるポリタンクが見つかり、焼けた寝室には灯油がまかれ、使い捨てライターも見つかった。火事直前、内縁の夫のもとに「ごめんさい」と実母から送信されたメールが届いた。死因は3人ともやけどによるショック死。実母は経済的に困っていたという。状況から、警察は無理心中とみている。
車内から、実父(28)と実母(28)、長男(5)の遺体を発見。車はロックがかかっており、炭のようなものを燃やした跡があった。死因は一酸化炭素中毒。妻の手提げ袋の中にあつた手帳に、「3人で死にます。申し訳ありません」と、実母の筆跡とみられる走り書きがあったことから、警察は心中を図ったとみている。
実父(49)と三男(12)が死亡しているのを、長男(20)が発見し110番通報。三男は居間で仰向けになって死亡しており、実父は押入れハンガーかけにビニールひもをかけ首をつっていた。警察は、遺体の状況などから、実父が無理心中を図ったとみて調べている。実父は長男(20)と三男の3人暮らし。家賃を30万円ほど滞納しており、6月末で退去する予定で、他にも借金があり悩んでいたという。
ダム湖で、実母(28)と次男(4)の水死体が発見された。外傷がないことから、警察は無理心中の可能性を視野に入れて調べを進めている。その3日後、長男(6)と三男(生後11か月)の水死体も発見される。実母は実父(28)と父方祖父母、子どもたちの7人暮らし。「ちょっと出かけてくる」と家族に告げて、実母と子どもたちの4人で車で外出した。周囲は、特に困ったことや悩んでいた様子は見られなかったといい、実父は「妻の実家に最近不幸があった。実家に帰っていると思っていた」と話している。
実母(41)が長男(15)と次男(12)に、精神安定剤約10錠ずつすりつぶして酒などに混ぜて飲ませ、長男は肺水腫で死亡、次男は意識障害。実母も薬物を飲んでおり、入院したが、退院後逮捕される。実母は2年前に実父と死別しており、「夫の貯金もなくなってきて生活に困り、(養護学校に通う)長男の将来を考えるとかわいそうに思った。息子2人を殺して自分も死のうとした」と供述している。実母は、殺人罪と殺人未遂罪で懲役6年の判決。
警察は、実母(43)を殺人容疑で逮捕。実母が、軽乗用車内で三男(6)の首をしめたうえ、左手首をかみそりで切って殺害した疑い。実母自身も手首をかみそりで切ったが軽傷だった。警察は、実母が無理心中を図ったとして殺人容疑で逮捕し、捜査している。
自宅で、実父(68)と長男(13)の遺体が発見される。長男は子ども部屋のベッド上で首にひもが巻かれた状態、実父は紐で首を吊った状態だった。死後10日前後だった。実父は実母(57)と長男の3人家族だったが、実母は重い心臓病のため長期入院中で、治療費に困っていたという。警察は、実父が長男を殺害して自殺した疑いが強いとみている。

事例No.	事件発覚年	心中の形態	心中の未遂/既遂	加害者			子の殺害手段	死亡した被害児童数	生存した被害児童の有無	
				加害者	自殺手段	自殺の未遂/既遂				
232	2005	父子	未遂	実父	刃物	未遂	懲役4年6か月	刃物	1	有
233	2005	母子	既遂	実母	ガス(車内)	既遂	—	ガス(車内)	1	無
234	2005	父母子	既遂	実父 実母	ガス(車内) ガス(車内)	既遂 既遂	— —	ガス(車内)	1	無
235	2005	父子	既遂	実父	縊死	既遂	—	絞首	1	無
236	2005	母子	既遂	実母	刃物	既遂	—	刃物×3	3	無
237	2005	母子	未遂	実母	刃物	未遂	不明	絞首十刃物	1	無
238	2005	父母子	既遂	不明	(放火)	既遂	—	放火×2	2	無
239	2005	母子	既遂	実母	ガス(車内)	既遂	—	ガス(車内)	1	無
240	2005	母子	既遂	実母	自動車(入水)	既遂	—	自動車(入水)×2	2	無
241	2006	母子	既遂	実母	放火	既遂	—	不明	1	無
242	2006	母子	未遂	実母	刃物	未遂	懲役3年	入水(自宅)	1	無
243	2006	母子	既遂	実母	ガス(自宅)	既遂	—	ガス(自宅)	1	無
244	2006	母子	既遂	実母	ガス(車内)	既遂	—	ガス(車内)×2	2	無
245	2006	父母子	未遂	実父 実母	刃物 刃物	未遂 未遂	懲役12年 懲役12年	絞首×2	2	無
246	2006	父子	既遂	実父	ガス(車内)	既遂	—	ガス(車内)×2	2	無
247	2006	母子	未遂	実母	不明	未遂	不明	不明	1	無
248	2006	母子	既遂	実母	刃物	既遂	—	絞首	1	無
249	2006	父子	既遂	実父	ガス(車内)	既遂	—	ガス(車内)×2	2	無

事例の概要
「自宅で夫が包丁を使って、子ども2人を刺した」と実母(31)が110番通報。長男(1)が胸などを刺され出血性ショックで死亡、長女(3)は胸などを切り付けられ1か月の怪我。実父(36)も両手首と太ももを切ったが命に別条はなく、殺人・殺人容疑で逮捕された。実父は実母と子どもら2人の4人暮らし。事件前の8月中旬、実父の勤務先に業者から電話があり、携帯電話のアダルトサイトの利用料を要求された。その後も再三請求があり、実父は業者が指定する口座に5日間で計約300万円振り込む。しかし、さらに業者から「手切れ金100万円払わないと、一生請求するぞ」などと脅されたため、実父は「アダルトサイトに多額の金を払ったことが周囲に知られると恥をかく」などと将来を悲観して心中を決意したという。懲役4年6か月の判決。
車内で実母(45)と長女(20)・次女(15)が倒れているのを、実父(49)が発見。車内にあった火鉢には、練炭の燃えカスが残っていた。死因は一酸化炭素中毒。実母は子どもの健康問題で悩んでいたといい、警察は心中とみて調べている。
実父(50)と実母(44)、長男(18)、次男(16)が、軽乗用車の排気管からホースを社内に取り込み、死亡しているのが見つかった。死因は一酸化炭素中毒。遺体には外傷や着衣の乱れはなく、死後1日はたっていないとみられる。実父には多額の借金があったといい、警察は一家心中とみている。
雑木林で、実父(51)が木にかけた紐で首を吊って死んでいるのを発見。近くにあって車内から、長女(16)が死亡しているのが見つかった。長女の首には紐で絞められたような跡があった。実父は前日夜、長女が通う施設(詳細不明)に迎えに行った後、連絡が取れなくなり、実母が捜索願を出していた。自宅からは遺書のようなものがみつかったとあり、警察は無理心中とみている。
フィリピン国籍の実母(35)、長男(13)・次男(8)・長女(生後10か月)が死んでいるのを、同国籍の実父(義父:43)が見つかり、110番通報。4人は首などから血を流して死んでいた。実母が自宅で、子ども3人の首を包丁で刺すなどして殺害した後、自分も首を切り自殺したとみられる。タガログ語で「許してください」などと書かれたメモが見つかった。長男(日本国籍)と次男(日本国籍)は実母の前夫との間の子どもで、長女はフィリピン国籍の実父(現在の夫)との間の子どもだった。実母は殺人容疑で被疑者死亡のまま書類送検。
長男(2)が寝室の布団の上で胸から血を流して倒れ、死亡しているのが見つかった。そばには実母(41)が包丁を右手に握ったまま、首や胸などから血を流して倒れていたが、命に別条はなかった。実母は育児に悩んでおり、数日前から通院していた。警察は、実母が長男を刺して自殺を図った無理心中とみて、殺人容疑で逮捕。実母は「最初は手で絞めたが殺しきれず、包丁で刺した」と供述。
木造2階建て住宅が全焼し、焼け跡から実父(43)と実母(43)、三男(16)、長女(14)の焼死体が発見された。長男(21)と次男(19)は逃げ出して怪我はなかった。調べでは、火元は燃え方がもっとも激しかった1階の実父母の寝室で、実父母のどちらかが灯油をまいて火をつけた可能性があるとみている。実父母の遺体は火元と見られる寝室で見つかり、子ども2人の遺体はそれぞれ2階の子ども部屋と階段で見つかった。警察は、無理心中の可能性もあるとみて調べている。
車内で、実母(35)と長男(12)の遺体が見つかった。車内に七輪と燃え尽きた練炭があり、警察は無理心中とみている。死因は一酸化炭素中毒。遺書はなかった。実母は数年前に実父と別居、長男は父方祖父母宅で暮らしていたという。
成人女性、長男、長女の白骨化した死体が、港の海中に転落していた車内から発見された。司法解剖の結果、身元の断定には至らなかったが、車のナンバーから1999年1月に家出人の捜索願が出されていた実母(当時27)、長男(6)、長女(4)と見られる。警察は、実母が子どもを道連れに無理心中を図った可能性もあるとみている。現場の壁岸には転落防止の車止めがあった。車はヘッドロックにつかっていた状態で車体の色がわからないくらい腐食していたという。
実母(32)と長男(2)が乗っていた軽乗用車から出火、火だるまになった実母が車外に飛び出し死亡。長男は助手席近くで遺体で発見された。実母は睡眠薬を常用しており、自宅から遺書のようなメモが見つかった。警察は、無理心中の可能性が高いとして調べている。
実母(30)が三女(生後9か月)の顔を浴槽の湯につけて水死させた。その後、自身も包丁で左手首を切るが死に切れず、実父(36)が見つかり通報した。実母は発見時「子育てに悩んだ」「生きていても仕方ない」と話しており、警察は、将来の家庭生活を不安に思っ、三女と心中したとみている。実母は殺人容疑で逮捕され、懲役3年の判決を受ける。
実母(40)と長女(12)が、自宅で死亡しているのが見つかった。室内には、木炭の燃えカスが入ったバケツや鍋などがおかれていたうえ、窓が粘着テープで目張りがあり、遺書も見つかった。警察は実母が長女を道連れに心中をしたとみている。実母は、実父と離婚後、長女と2人暮らしだった。
実父(31)が胸を刺されて死亡しているのを父方祖父が発見。警察が行方不明になっていた実母(32)と長女(9)・長男(7)を探したところ、車内で3人の遺体を見つけた。車内には炭を燃やした七輪があり、3人の死因は一酸化炭素中毒だった。実父の遺体のそばには「すみません」などと実母が書いたとみられるメモがあり、実母から祖父に「大変なことをしてしまった」という趣旨の電話があったという。警察は、実母が実父を殺害後、子どもを道連れに無理心中を図ったとみている。
実父(33)が「妻と2人で子どもを殺した」と自首。車内には、長女(9)と長男(6)の遺体があった。実父と車内にいた実母(32)も、手首などに切り傷があった。警察は殺人容疑で2人を逮捕。夫婦は趣味のバチスロをやり続けて生活費に困り、消費者金融からお金を借り、半年ほど前には借金が約450万円まで膨らんでいた。それを苦に実母は「死にたい」と言い出し、実父はそれを止められず、一家心中を図った。2人は車内で、実父が長女、実母が長男の首をそれぞれ手で絞めて殺害した。夫婦ともに懲役12年。
実母(33)が顔を鈍器で殴られて死亡しているのが見つかった。約2時間後、車内で実父(36)と長男(6)・長女(2)の遺体を発見。車内からは、練炭を燃やした跡と、血痕がついた金槌が見つかった。実父は長女の病気で悩んでおり、病院への付き添いのため会社を休みがちで、昨年7月末退社。その後、定職に就けない状態が続く、実母が親類の会社で働き、収入を得ていた。こうしたことから、事件直前まで夫婦間でもめていたという。警察は、実父が実母との関係に不満を抱き、実父が実母を自宅で金づちで殴って殺害した後、子ども2人と共に無理心中を図ったと断定し、実父を容疑者死亡のまま殺人容疑で書類送検した。(※検討の結果、実母殺害後に父子心中したと判断した。)
実母(43)が次女(7)とともに部屋で倒れているところを帰宅した長女(19)が発見した。2人は病院に運ばれたが、次女は間もなく死亡、実母も一時意識不明だったが命に別条はない。実母は長女、次女、長男(15)の4人暮らしで、事件時は長女と長男は外出していた。実母が書いたとみられる「娘を連れて行く」という遺書があったことから、警察は当初、心中の可能性があると調べていたが、次女の司法解剖で、死因が食べ物のをどに詰まらせたことによる窒息死であることから、事故も視野に入れて調べている。
実母(41)と長男(10)が死んでいるのを、帰宅した実父(43)が見つかり110番通報。実母は風呂場に倒れ、首や手首に切り傷があり、浴槽に包丁が落ちていた。居間に倒れていた長男の首には絞められた跡があった。事件時、実父は仕事へ行っており、次男は学校から帰ってきたが鍵がかかっていたため、友人宅に身を寄せていた。室内に争った跡がないことから、警察は、心中の可能性が高いと調べている。
実父(50歳代)と長女(中3)、長男(中1)が車内で死んでいるのが見つかった。車内に排ガスを引き込んでおり、七輪が置かれ10個以上の豆炭が燃えていた。3人の遺体には目立った外傷はなく、死因は一酸化炭素中毒とみられる。実父の勤務先で遺書のような手紙が見つかり、警察は心中を図ったと見ている。

事例No.	事件発覚年	心中の形態	心中の未遂/既遂	加害者			子の殺害手段	死亡した被害児童数	生存した被害児童の有無	
				加害者	自殺手段	自殺の未遂/既遂				刑など
250	2006	その他	既遂	母方祖母	刃物	既遂	—	鈍器十窒息	1	無
251	2006	父母子	既遂	実母	投身	既遂	—	刃物	1	無
252	2006	母子	既遂	実母	縊死	既遂	—	絞首	1	無
253	2006	母子	未遂	実母	薬物十刃物	未遂	懲役12年	刃物 その他十刃物	2	無
254	2006	母子	未遂	実母	刃物	未遂	無罪 (心神喪失)	刃物	1	無
255	2006	母子	未遂	実母	ガス(自宅)	未遂	不明	ガス(自宅)	1	無
256	2006	母子	未遂	実母	刃物	未遂	不明	絞首	1	無
257	2006	父母子	未遂	実父	刃物	未遂	懲役25年	刃物	1	無
258	2006	母子	未遂	実母	刃物	未遂	懲役3年 執行猶予5年	絞首	1	無
259	2006	母子	既遂	実母	ガス(車内)	既遂	—	ガス(車内)	1	無
260	2006	母子	既遂	実母	縊死	既遂	—	絞首	1	無
261	2006	母子	未遂	実母	刃物	未遂	懲役7年	薬物十刃物	1	無
262	2006	その他	既遂	実父 知人男性	ガス(車内) ガス(車内)	既遂 既遂	— —	ガス(車内)	1	無
263	2006	母子	既遂	実母	放火	既遂	—	不明	1	無
264	2006	母子	既遂	実母	自動車(入水)	既遂	—	自動車(入水)	1	無
265	2006	母子	既遂	実母	放火	既遂	—	放火(自宅)	1	無

事例の概要
母方祖母(62)と児童(2)が倒れているのを実母(31)が発見。2人は間もなく死亡した。児童の死因は口内のちり紙による窒息死で、頭などには鈍器で殴られた跡もあった。祖母死因は、腹や首の切り傷による出血性ショック死。祖母は母方祖父(66)、母方曾祖父(96)と母方叔母の4人暮らし。児童の母親は、祖父母の三女で結婚して家を出ていたが、週1回ほど児童を連れて訪ねていた。警察は、祖母が児童を連れて無理心中を図った可能性もあるとみて調べている。
実母(40)が14階建ての団地の屋上から飛び降り、全身を強く打って死亡した。通路の手すりに血痕が残っていたため、それを辿ると自宅に実父(42)と長男(11)が、首を切られて死亡していた。警察は、実母が、実父と長男を殺害後、自殺を図ったとみている。実母は、4か月程前に自宅で暴れるなどしたため、保健所が措置入院させたこともあった。
実母(28)と長女(7)の遺体を、母方祖父(59)が発見。実母は首を吊っており、長女は首に絞められた跡があった。警察は、無理心中とみている。家族は、母方祖父と実母・長女の3人暮らし。長女は生まれつきの心臓の病気で手術を繰り返しており、そのことで実母は悩んでいたという。
実母(33)が無理心中を図り、自宅で長女(1)の胸を包丁で刺して殺害、さらに、長男(4)を階段から突き落とした後、胸を包丁で数回刺して殺害した。実母は、手首に数か所の傷があり、風邪薬を飲んで意識が朦朧とした状態で発見された。台所には、実母の筆跡で「ごめんさい。さようなら」と書かれたメモがあった。実母は殺人罪で逮捕。実父(51)に内緒で、消費者金融から借金をしており、それが実父にばれ離婚されることを恐れ、子ども2人を殺害した上で自殺を図った。懲役12年。
実母(30)が「自宅で子どもを刺した」と110番。警察が駆けつけたところ、長男(生後6か月)は胸などから、実母は首などから血を流して倒れていた。長男は出血多量で死亡。警察は、無理心中を図り長男を殺害したとして実母を逮捕。公判では、精神鑑定結果である統合失調症による幻覚や幻聴があり心神喪失状態だったという主張が認められ、無罪となった。
実母(35)と長男(5)が浴槽内で倒れているのを、同居男性(49)が発見し、通報。風呂場には練炭の燃えカスがあり、実母は命に別状はなかったが、長男は死亡。死因は一酸化炭素中毒とみられる。警察は、実母が実家の両親に宛てた遺書が見つかったことから、無理心中を図ったとみている。実母は意識の障害があり、精神科の病院に通院していた。
警察は、長女(9)を絞殺したとして実母(41)を逮捕。調べでは、実母は自宅で長女の首を絞めて殺害後、果物ナイフで自身の手首、首、腹部を刺して自殺を図ったが、帰宅した義父(46)に発見された。実母は軽傷、「子どもを殺して自分も死のうと思った。(前夫との間の)娘が、再婚した夫になじまなかった」と供述している。
実父(30)が包丁で実母(29)と長男(3)の首や背中、胸などをそれぞれ40回以上刺して殺害、その後自身も死のうとするが死に切れず、自首。殺人容疑で逮捕された。実父の右腕には複数の切り傷があった。実父は実母から離婚話を切り出され絶望し、「(妻の)離婚の意志が固かったことから、2人を殺して自分も死のうと考えた」と供述している。長男は目の周りなど顔にアザをつけていることが度々目撃されており、「パパが叩いた。僕が悪いから怒られた」と話したこともあったという。実母と長男は、4月半ば頃から1か月近く、実家に帰省し、4、5日前に家に戻ったばかりだったという。第1審、控訴審ともに、「無理心中」という実父の主張が認められ懲役25年(求刑・無期懲役)の判決。
実母(29)が、次男(生後8か月)の首を絞めて窒息死させ、その後、自身も左手首や腹を切って自殺を図るも、仕事から帰宅した実父(30)に発見される。2人は病院に運ばれたが、実母は軽傷、次男はまもなく死亡した。実母は、5年程前から気分が落ち込むようになり、病院でうつ病と診断された。自殺願望が募るようになり、3年前には自殺未遂を起こした。実家に帰省するなど回復を図ったが、長男が通う保育園の行事などで緊張が募って再び気分が落ち込むようになり、事件当日に再び自殺を決意したが、「自殺するときに騒がれると困る」と考え次男を殺害したと供述している。実母は殺人容疑で逮捕され、懲役3年保護観察付き執行猶予5年の判決を受ける。
実母(33)と長男(7)が、車内で死亡していた。警察は、車内に燃え尽きた木炭が入った七輪があったことや、ドアに鍵がかかっていたことなどから、無理心中とみている。
実母(23)と長女(3)が、自宅で死亡しているのが見つかった。実母は首を吊っており、長女の首には絞められた跡があった。警察は、実母が長女の首を絞めて殺害した後自殺した無理心中とみている。実母は、母方祖母(46)と母方伯母親子と長女とともに、2世帯住宅で5人暮らし。実母らは2階で生活しており、育児に悩んでいたという。
実母(51)が次男(10)に睡眠薬を飲ませ、刃物で胸などを刺して殺害。自身も胸や手首を刺して自殺を図るも発見され、病院に運ばれた。実母は殺人容疑で逮捕され、懲役7年の判決を受ける。実母は長男(18)と次男の3人暮らし。長男も知的障害があり養護学校に通っている。次男は小学校の特殊学級に通っており、実母自身も軽度の知的な遅れがあった。 【実母の生い立ち】1955年、父の愛人の子として生まれ、母方に引き取られて育つ。1964年、母が死亡し、9歳で母方の叔母夫婦に引き取られ養女となる。養父母から暴力や性的虐待を受け、学校ではいじめられる。1974年、高校を卒業し就職。養父母との養子縁組を解消。1982年に結婚し、翌年には最初の子どもである長女を出産。1985年、次女が誕生するも1歳7か月で死亡(髄膜炎)。1988年長男、1996年に次男が誕生するも、長女を含めて3人の子どもは全員、重い喘息の持病をもっていた。1997年、夫が多額の借金を残して失踪。1998年、自己破産し、生活保護を受ける。1999年10月、長女(当時16歳)が喘息の発作で実母の前で死亡。実母は、長女の死を境にうつ状態となり、仕事もできなくなる。2000年、夫と離婚。2002年、実母に乳がんが判明。右乳房とともに、子宮・卵巣の全摘まで医師に要望し、手術を受ける。2003年、次男が学校へ行かなくなり、「いじめられている」などの被害妄想が進行。2005年3月、次男とともに自殺を図ろうと決意する。(次男の言葉で我に返り、実行せず)。2006年、長男の就職難を養護学校から告げられ、実母は苦悩する。2006年6月10日、事件発生。
実父(57)・長女(9)と実父の知人の男性(59)が車内で死亡しているのが見つかった。車内には、燃えた豆炭の入った七輪があったことから、警察は無理心中とみている。長女は児童養護施設に預けられていたが、数日前に実父が連れ出して外出したという。実父は、生活苦や病気で悩んでいたというが、知人との関係はわかっていない。
実母(40)と長女(16)が並んだ布団の上で死亡しているのを、帰宅した実父(40)が発見。警察は、実母は全身、長女も身体の一部が焼けており、実母に灯油をかぶった跡があることから、実母が何らかの方法で長女を殺害後、焼身自殺を図った無理心中とみている。警察は、長女には目立った外傷がないことなどから、事件性はなく、実母が焼身自殺を図り、長女も巻き添えになったとして調べている。実母は、実父(40)と長女の3人暮らしで、5～6年前から通院していたという。
実母(43)が長女(17)とともに、車ごと海に転落。2人は約1時間後に救出されたが、病院で死亡が確認された。警察は、車が海に向かって約100メートルを時速80キロほどでまっすぐ走り、車止めを乗り越えて海に転落したという目撃情報や、現場にブレーキ跡がないことなどから、心中を図ったとみている。
自宅が出火し、焼け跡から実母(49)・次男(23)・長女(13)の遺体が発見される。長男(26)と三男(19)は病院に運ばれたが、三男は翌日死亡。実母は、実父(56)、父方祖母(84)と子どもたち4人の7人で暮らしており、実父は出稼ぎに出ており、祖母は離れて暮らしていたため無事だった。長母・実母・三男は、車の修理代のごとで車検代行業者らから恐喝、暴行を受けていた。長男と三男が「彼らを殺して自分たちも死ぬ」と言ったが、実母が「2人が悪いことをするなら家族で死んだ方がいい」と言い、実母らは灯油をかぶり、三男が火をつけて焼身自殺を図ったという。

事例No.	事件発覚年	心中の形態	心中の未遂/既遂	加害者			子の殺害手段	死亡した被害児童数	生存した被害児童の有無	
				加害者	自殺手段	自殺の未遂/既遂				刑など
266	2006	母子	既遂	実母	投身	既遂	—	絞首×2	2	無
267	2006	母子	既遂	実母	刃物	既遂	—	刃物	1	無
268	2006	母子	未遂	実母	投身	未遂	不起訴(心神喪失)	投身	1	無
269	2006	母子	既遂	実母	投身	既遂	—	投身×2	2	無
270	2006	母子	未遂	実母	意思のみ	未遂	懲役6年(心神耗弱)	絞首×2	2	無
271	2006	母子	未遂	実母	入水(自宅外)	未遂	懲役4年(心神耗弱)	入水(自宅外)×2	2	無
272	2006	父母子	既遂	実父 実母	ガス(自宅) ガス(自宅)	既遂 既遂	— —	ガス(自宅)	1	無
273	2006	母子	未遂	実母	刃物	未遂	懲役4年(心神耗弱)	絞首	1	無
274	2006	父母子	未遂	実父	意思のみ	未遂	懲役20年	絞首	1	無
275	2006	母子	既遂	実母	自動車(入水)	既遂	—	自動車(入水)	1	無
276	2006	父子	既遂	実父	縊死	既遂	—	絞首×2	2	無
277	2006	母子	既遂	実母	縊死	既遂	—	絞首×2	2	無
278	2006	母子	未遂	実母	意思のみ	未遂	懲役6年(心神耗弱)	絞首×2	2	無
279	2006	父母子	既遂	実父 実母	ガス(車内) ガス(車内)	既遂 既遂	— —	ガス(車内)×3	3	無
280	2006	母子	未遂	実母	入水(自宅外)	未遂	懲役3年 執行猶予5年 (心神耗弱)	入水(自宅外)	1	無
281	2006	母子	既遂	実母	自動車(入水)	既遂	—	自動車(入水)	1	無
282	2006	母子	既遂	実母	ガス(車内)	既遂	—	ガス(車内)	1	無

事例の概要
長女(6)・次女(4)が車内で死亡しているのが見つかった。近くの橋の下で実母(28)の遺体を発見。死因は、実母が転落による臓器損傷、子どもたちは首を絞められたことによる窒息死だった。実母は、前日の朝「ちょっとでかけてくる」と言い、自宅から2人を連れて外出したまま戻らなかったため、実父が捜索願を出していた。警察は、実母を殺人容疑で被疑者死亡のまま書類送検。子ども2人の首をネクタイで絞め窒息死させた疑い。その後、実母は橋から飛び降りて自殺。実母の首や手首に自傷とみられる切り傷があり、橋の欄干に実母の指紋があったことなどから、警察は実母が無理心中を図ったと断定した。
ホテル室内で、実母(32)と長女(5)がベッドの上で首から血を流して死んでいるのが見つかった。2人の首には切り傷があり、包丁が遺体のそばにあった。警察は、実母が長女を殺害して自殺した無理心中とみている。母子は前夜に家族から捜索願が出され、自宅にあったパソコンの記録をもとに警察が探していた。
実母(39)が橋で欄干にまたがっているのを通行人がみつけて110番通報。駆け付けた警察が、近くの道路で長女(8)が倒れているのを発見した。長女はまもなく死亡した(死因は首の骨折)。警察は、実母が母子心中を図ったとして殺人容疑で逮捕。実母は「常に「死ぬ」という声が聞こえてくるので、将来が不安になり、一緒に死のうと思った」と供述。また、実母は長女が生まれてから精神的に不安定で、家族らに「周りの人が悪口を言っている」などと漏らすことがあり、親類が病院に相談していたという。鑑定結果から刑事責任能力を問えないとして不起訴処分。
16階建てマンションの駐輪場わきで、実母(37)と長女(3)・長男(生後1か月)の遺体を発見。警察は、実母が育児などに悩み実家のある10階ベランダから子ども2人と投身自殺を図ったとみている。実母は、長女と一緒に実家のマンションに帰省し、長男を出産。2日前に子ども2人を連れて外出し、前日に県内の岸壁付近でうろついているのを自殺防止のボランティアに呼び止められ、警察に保護されていた。事件当日は、警察から実家に戻ったばかりだった。
実母(35)が、自宅で長男(4)と長女(生後4か月)の首をエプロンで絞めて殺害後、自身も死のうと思ったが死に切れず自首し、殺人容疑で逮捕された。実母は「長男がシャボン玉液を誤飲して、自分の処置が悪かったため体調が悪くなった。自分も死ぬつもりだった」などと話しており、殺人の動機については子どもの養育への悩みをあげている。長男と長女の死因は、首を絞めたことによる窒息死。心神耗弱状態と認定され、懲役6年の判決。
実母(26)が、長男(2)と次男(生後9か月)と一緒に死のうと、2人を両脇に抱えて川に入り、2人を水死させた。実母は殺人容疑で逮捕。実母は実父(31)と父方祖父母と子ども2人の6人暮らし。事件の4か月程前、実母は、長男が病気になることについて、実父から「前妻より劣る」と言って殴られたことや、祖母が楽しみにしていた次男の初節句のお祝いができなくなったことなどから、食事や会話ができない状態になる。1週間後、精神科を受診し「うつ病による混迷状態の疑い」と診断され、投薬を受ける。実母は実家に帰りしばらく療養したが、1か月程前から祖父母と同居生活を送るようになる。祖母から育児や家事について小言を言われたり、実父の借金によって家庭内でストレスを感じ、子ども2人を連れて家出し心中を図ったという。心神耗弱状態であると認められ、懲役4年の実刑判決。
実父(31)と実母(30)、長女(5)の遺体が、自宅から見つかった。一家は3人暮らし。遺体はクローゼット内で発見され、内側から粘着テープで目張りされ、中に練炭を燃やした七輪がおいてあった。警察は、遺書があったことや現場の様子から無理心中を図ったとみている。
実母(40)が、就寝中の長女(14)の首をベルトで絞めて窒息死させた。自身も左腕を包丁で切って自殺を図るも死に切れず、110番通報し、殺人容疑で逮捕される。実母は、約5年前からうつ病で入院を繰り返しており、事件1週間ほど前まで精神科病院で入院していた。一家は、実父(40)と実母、長女・長男(9)の4人暮らしで、事件時は実父は出張、長男は遊びにでかけていた。実母は当初「友達がいじめに悩んでいた娘と一緒に死のうと思った」と供述していたが、その後の調べで「病気で家事ができないことなどを悩み、死ねば苦しまずに済むと考えた。娘を残すのはかわいそうなので、一緒に死のうと思った」などと話した。心神耗弱状態だったと認められ、懲役4年の実刑判決。
実父(32)が、実母(30)と長男(8)の首をタオルで絞めて窒息死させた。実父自身も自殺を考えるも死に切れず自首、殺人容疑で逮捕。数年前から、実母が実父の名義を使って消費者金融から数百万円借金をしており、その返済期限が迫っていたことが動機とみられる。実父はギャンブルもせずまじめな性格であったが、実母は通信販売で家具などを購入したりするなど浪費癖が激しく、母方祖父母からお金を借りるなどして返済したが、浪費癖は収まらず借金は膨らむばかりだった。懲役20年の判決。
実母(42)と長女(生後5か月)の乗った車が、海に転落。通報から約1時間後、車は発見され、2人は病院に運ばれたがまもなく死亡。警察は、車が転落した岸壁付近にブレーキ跡がなかったことから、無理心中と事故の両面で調べている。
実父(42)と長女(15)・長男(12)が死んでいるのを、帰宅した実母(42)が発見し、119番通報。実父の遺書があり、警察は無理心中の可能性が高いとみている。子ども2人の遺体は寝室のベッドにあおむけに並べられ、首にロープで絞められた跡があった。実父は隣の納戸で首をつっていた。遺書には、家庭のことで悩んでおり、子ども2人を連れて行くといった内容が書かれていた。
実母(26)と長男(5)・長女(生後11か月)の遺体を、帰宅した実父(28)が発見し通報。子ども2人は、ネクタイで首を絞められた状態で死んでおり、実母は同じ部屋のクローゼットで首をベルトで吊って死亡していた。実父や祖父母宛に「ごめんさい」などと書かれた遺書があったことから、警察は実母が無理心中を図ったとみている。実母は以前から「育児に疲れた」と話していたという。
実母(34)が車内で長男(5)と次男(3)の首を絞めて殺害、その後自身も自殺考えたが死に切れず、自首し逮捕された。長男、次男はともに自閉症障害があり、次男は知能の遅れがみられ、療育手帳を取得し、市内の知的障害児通園施設に通っていた。事件の1週間前、実母は次男を連れて一時行方不明となり、捜索願がでていた。帰宅後、実父に「次男の首を絞めた」と相談し、実父は児童相談所に電話で相談し、母子だけにならないようにと指導を受けて気をつけていたところだった。実母は、心神耗弱は認められるも心神喪失は認められず、懲役6年の判決を受ける。
車内で、実父(38)と実母(31)、長女(8)・次女(6)・三女(4)が死亡しているのが見つかった。車内には練炭を燃やした跡があり、警察は無理心中とみている。5人は先月から行方が分からなくなっており、親族が捜索願が出していた。遺書は見つからないが、車内からは自宅の電話番号などが書かれたメモが見つかった。実父は経営上のトラブルを抱えていたという。
実母(32)が長女(2)を抱いて海に入り、長女を殺害。自身も自殺するつもりだったが、死に切れなかった。実母は、「自分だけ死ねば子どもが片親になり、親が離婚した自分と同じ境遇になると思った」と話している。実母は殺人容疑で逮捕。家族は、実父(34)と実母、長男(7)と長女の4人暮らしだった。第一審では、統合失調症による心神耗弱を認めた上で、懲役6か月の実刑判決。控訴審では、第一審判決後に反省を深め、家族の支援を期待できそうだということで、第一審判決を破棄し、懲役3年執行猶予5年を言い渡した。
海に転落した乗用車から、実母(39)と長男(9)の水死体が見つかった。警察の調べでは、車は高さ30センチの車止めを壊して海中に転落したという。実母は家庭の事情で悩んでいたという話もあり、長男を道連れにした無理心中の可能性が高いとみている。
車内で、実母(21)と長男(1)が死亡しているのが見つかった。車内には燃えた練炭入りの七輪があり、警察は心中とみている。遺書は見つからない。

事例No.	事件発覚年	心中の形態	心中の未遂/既遂	加害者			子の殺害手段	死亡した被害児童数	生存した被害児童の有無	
				加害者	自殺手段	自殺の未遂/既遂				刑など
283	2006	母子	既遂	実母	縊死	既遂	—	絞首	1	無
284	2006	父母子	未遂	実父 実母	刃物 同意	未遂 既遂	懲役14年 —	絞首	1	無
285	2006	その他	既遂	母方祖母	縊死	既遂	—	絞首	1	無
286	2006	父子	既遂	実父	ガス(車内)	既遂	—	ガス(車内)×2	2	無
287	2006	母子	未遂	実母	薬物	未遂	懲役10年	絞首×2	2	無
288	2006	母子	未遂	実母	刃物	未遂	不明	絞首	1	無
289	2006	母子	既遂	実母	放火	既遂	—	放火(自宅外)×2	2	無
290	2006	父子	未遂	実父	刃物	未遂	不明	絞首	1	有
291	2006	母子	既遂	実母	ガス(車内)	既遂	—	ガス(車内)×2	2	無
292	2006	母子	未遂	実母	自動車(衝突)	未遂	懲役4年6か月	刃物+薬物+窒息	1	無
293	2006	母子	既遂	実母	不明	既遂	—	不明	1	無
294	2007	母子	既遂	実母	ガス(自宅)	既遂	—	ガス(自宅)×2	2	無
295	2007	母子	未遂	実母	刃物	未遂	懲役10年	絞首+刃物×2	2	無
296	2007	その他	既遂	母方祖母	縊死	既遂	—	絞首	1	無
297	2007	その他	既遂	実母	刃物+縊死	既遂	—	刃物	1	無
298	2007	母子	既遂	実母	放火	既遂	—	入水(不明)	1	無
299	2007	母子	既遂	実母	自動車(入水)	既遂	—	自動車(入水)×2	2	無

事例の概要
父方叔父の依頼で警察が訪問した際、実母(42)が出て「夫は寝ている、夫に断らないと怒られるので1時間待ってほしい」と言ってドアに鍵をかけた。約1時間出てこなかったので入室したところ、実父(46)・父方祖母(80)の遺体と、実母と長女(12)が重体で見つかった。実母と長女は病院に運ばれたが、死亡した。司法解剖の結果、実父は死後2週間から1か月、祖母は1日から3日経過していた。実父は2年前に脳梗塞をわずらっており、周囲の人に「後遺症は無いが、店の経営が厳しい」と話していたという。長女は警察が訪問した直後に実母が首を絞めて窒息死させ、実母は首を吊って自殺を図った。警察は、実母が3人を殺害したと断定し、殺人容疑で被疑者死亡のまま書類送検した。遺書はなかったという。
実父(43)が、実母(39)の承諾を得て首を絞めて殺害。続いて長男(9)の首も絞めて殺害し、その後浴室にて両手首をカッターナイフで切り自殺を図ったが命に別状はなく、殺人罪で逮捕。実父は会社の経営で約8000万円の借金があり、数百万円の返済期日が迫っていた。第一審で、実父は実母から殺人を囑託されたと主張したが、認められず懲役19年の判決を受けた。しかし控訴審にて、実父と実母が借金の返済を迫られ、精神的・経済的に追い詰められていたことや、事件直前に妻が睡眠薬を購入したり、遺書を書いたりしていたことなどから、囑託殺人罪の適用が認められ、懲役14年の判決。
母方祖母(53)が首を吊って死亡しており、実母(26)と長男(2)が布団の中で死亡しているのが見つかった。母子の首には紐が巻かれていた。遺書には長男の病気や生活苦などの悩みが記されており、死後2、3週間がたった。祖母は一人暮らしだが、実母と長男が出入りするのを近所の人々が度々目撃していた。
車内で、実父(43)と長女(14)・次女(10)が折り重なるようにして死亡しているのが見つかった。車内には練炭を燃やした跡があった。子ども2人は知的障害があり、養護学校に通っていた。実母が死亡した3年前から、実父1人で養育しており、養護学校や福祉課などが継続的に支援を行っていた。子どもたちは月曜から金曜まで校内の寄宿舎にいたが、2008年3月末に廃止されることなどから、実父はたびたび「これからどうやって育てていけばよいのか」と口にしてきたという。また、鞆の中から「預金もなく、生活費が底をついた。娘の面倒をこれ以上みられない」となど将来を悲観する内容の手紙が発見された。
実母(49)が長男(6)と次男(4)の首を絞めて殺害し、警察に通報。その後、家庭園芸用の肥料を飲んで意識が朦朧とした状態の実母が発見され、病院に運ばれたが命に別状はなかった。実母は殺人容疑で逮捕。実母は神経症を患い、長男のぜんそくなど育児不安や金銭トラブル、暴力が続いた前夫との関係でふさぎこみ、自殺願望から犯行に及んだという。心神耗弱は認められず、懲役10年の判決。
帰宅した実父(43)が通報し、腹から血を流して倒れている実母(39)と首を絞められてぐったりした長男(2)が病院へ搬送された。長男は間もなく死亡、実母は命に別状はなかった。警察は実母を殺人容疑で逮捕。実母は長男の発育が遅いことに悩んでおり、犯行当日の様子を「意味のわからない単語を繰り返しながら、自分のまわりをぐるぐる回る長男の様子をみて、「2人でいなくなりたい」と思い、布団の上で首を絞めた」と話しているという。家族は、実父母と長男の3人。
ミカン畑にある平屋建ての小屋が全焼。焼け跡から実母(32)と長男(8)、長女(6)の焼死体が発見された(死因は一酸化炭素中毒)。現場には暖房器具の給油缶があり、実母は周囲に「精神的に疲れた」と話しており、警察は無理心中の可能性があるとみている。
実父(33)が長男(8)と次男(5)の首を絞めているところを、父方祖母(58)が発見。長男は重体。次男は搬送された病院で約1時間後に死亡。実父も金属製のフォークで首を刺して血を流していたが軽傷。一家は先日、実父の実家へ帰省。実母は「(夫が)仕事のことなどで悩みがあるので、話を聞いてあげて欲しい」と伝えて先に自宅へ戻っていた。実父は「上司とのトラブルで会社を辞めようと思った。1人で死んだら子どもがかわいそうだと思った」と話している。実父は殺人と殺人未遂容疑で逮捕された。警察は無理心中を図ったとみて、詳しい経緯などを調べる。
車内で、実母(37)と長女(11)・次女(9)の遺体が見つかった。一家は、実父(42)・実母、長女・次女、父方祖母の5人暮らし。実母は、体調不良で仕事を休んでいた実父の看病を続け、数か月前に転職するなど心労が重なっており、年末から実家に帰省していた。12月30日夕方に、実母らは実家を出た後、行方不明となる。実家で遺書が見つかったため、母方祖父が12月31日、捜索願を出していた。警察は、実母が無理心中を図ったとして、実母を殺人容疑で被疑者死亡のまま書類送検する方針。
実母(30)と長男(生後6か月)が乗った車が国道のコンクリートの壁にぶつかり、2人は病院に運ばれた。実母は軽傷、長男は死亡したが、死因が特定できず、また後部座席のチャイルドシートを使用していなかったことなど不審なところが多かったため、病理組織を鑑定。その結果、長男の死因は窒息死で、死亡推定時刻は事故以前、体の数か所に切り傷を負い、鎮痛剤入りのミルクを飲まされていたことが判明。実母は事件前日、実父から生活費や養育費を出会い系サイトの利用料につぎ込んだことなどを聞いたことなどから、長男を道連れに無理心中を計画。事故を起こした車内からは、血のついた包丁や「悩んだが長男も一緒に連れていく」と自殺をほのめかす遺書が見つかった。実母は事故から2年後の2009年1月に殺人容疑で逮捕され、懲役4年6か月の判決を受ける。
実母(29)と長男(1)の遺体を、親族の通報で駆けつけた警察が発見。遺体には目立った外傷はなく、死後1、2か月はたった。実母は部屋の絨毯の上、長男は近くの布団の中でみつかった。無理心中か病死の可能性があるとみて調べている。実母は病気がちだったという。
実母(33)と双子の長女・長男(生後50日)が倒れているのを実父(33)が見つかり、110番通報。3人は搬送先の病院で間もなく死亡が確認された。3人はトイレで倒れており、火のついた木炭が入った七輪が置かれていた。死因は一酸化炭素中毒。実父や親あての遺書が見つかった。警察は、実母は早産で育児に不安を抱いており、実父も「育児ノイローゼだった」と説明していることから無理心中とみて捜査している。
実母(31)が長男(5)と次男(3)の首を電気コードで締め上げた上、包丁で胸を刺して殺害。その後、包丁で自分の腹と首を刺して重傷を負い、病院に運ばれた。実母は殺人容疑で逮捕。実母は不倫相手(男児らの父親)の男性と一緒に生活する約束をしていたが、約束を破られたため、将来を悲観し、無理心中を決意したという。懲役10年の判決。
母方祖母(54)が裏庭で首を吊って死亡しているのを、帰宅した実母(22)が発見。さらに、布団の中で死亡している長女(2)を見つけた。長女の首には絞められた跡があった。祖母と実母・長女の3人暮らしだった。警察は、「ご迷惑をおかけしました」と祖母が書いたと見られる実母宛の遺書などから無理心中とみている。
自宅で実母(28)・母方祖母(59)・長男(生後4か月)の3人が死亡しているのが、実父(30)の通報で見つかった。実母は寝室のベビーベッドにネクタイをかけて首を吊っていた。胸や首、腹に複数の刺し傷があり、遺体のそばにナイフが落ちていた。長男は胸を刺され布団の上で、祖母は首に手で絞められた跡があり布団の中で死亡していた。実父母と長男の3人暮らしだったが、事件1週間前から長男を連れて実家に帰省し、祖母と自宅に戻ってきたばかりだった。警察は、実母は育児に悩んでおり、ノイローゼ気味で薬を服用していたことや、室内に外部から侵入した形跡がないことから、実母の無理心中とみて調べている。
実母(25)と長男(生後2週間)の遺体が車内で発見された。実母は頭から油のようなものをかぶっており、顔や手などにやけどを負い、死因は焼死。長男は水死。助手席付近に油の入ったポリ容器があった。実母は産後の痲養で実家に滞在しており、育児の悩みを打ち明けていたという。2人は2月6日から行方不明となっており、実父から捜索願が出されていた。警察は、実母が無理心中を図ったとみている。
海に転落した車から、実母(33)と長女(4)・次女(1)を救出したが、すでに死亡していた。死因は3人も水死と見られる。実母らは前日午後から行方不明となっており、実父が捜索願を出していた。3人も外傷はなく、現場の岸壁にプレーキ跡も見当たらないことなどから、実母が無理心中を図った可能性もあるとみて、警察は捜査している。

事例No.	事件発覚年	心中の形態	心中の未遂/既遂	加害者			子の殺害手段	死亡した被害児童数	生存した被害児童の有無	
				加害者	自殺手段	自殺の未遂/既遂				刑など
300	2007	母子	既遂	実母	電車	既遂	—	電車	1	無
301	2007	母子	既遂	実母	ガス(車内)	既遂	—	ガス(車内)	1	無
302	2007	母子	既遂	実母	ガス(車内)	既遂	—	ガス(車内)	1	無
303	2007	母子	既遂	実母	ガス(自宅)	既遂	—	ガス(自宅)×2	2	無
304	2007	母子	既遂	実母	入水(自宅外)	既遂	—	入水(自宅外)	1	無
305	2007	母子	既遂	実母	入水(自宅外)	既遂	—	入水(自宅外)×2	2	無
306	2007	母子	未遂	実母	不明	未遂	懲役8年	絞首	1	無
307	2007	父子	未遂	実父	薬物	未遂	拘置所で縊死	薬物十絞首×3	3	無
308	2007	母子	既遂	実母	電車	既遂	—	電車×2	2	無
309	2007	父母子	既遂	実父 実母	投身 同時	既遂 既遂	— —	絞首×2	2	無
310	2007	母子	既遂	実母	放火	既遂	—	放火(自宅)×2	2	無
311	2007	父母子	既遂	実父 実母	ガス(車内) ガス(車内)	既遂 既遂	— —	ガス(車内)	1	無
312	2007	母子	未遂	実母	刃物	未遂	懲役4年6か月 (心神耗弱)	絞首×2	2	無
313	2007	その他	未遂	母方祖母 実母	放火 放火	未遂 既遂	懲役10年 —	放火(車内)×2	2	無
314	2007	母子	既遂	実母	縊死	既遂	—	絞首×2	2	無
315	2007	父母子	既遂	実母	放火	既遂	—	放火(自宅)×2	2	無
316	2007	母子	既遂	実母	刃物	既遂	—	刃物	1	無
317	2007	母子	既遂	実母	放火	既遂	—	放火(自宅)×3	3	無

事例の概要
<p>実母(34)と長男(1)が電車にはねられ死亡した。運転士は「2人は電車が現場を通過する直前に踏切に入り、しゃがみ込んだ」と話しており、踏切内には成人の女性用とみられる黒い靴が1足、そろえて置いてあったことなどから、警察は家庭内のトラブルによる心中とみて調べている。</p>
<p>実母(37)と長男(8)の遺体が車内から見つかった。死因は一酸化炭素中毒。警察は、車の後部座席に燃え尽きた練炭があったほか、自宅に遺書が残されていたことから、実母が無理心中を図ったとみて調べている。</p>
<p>車内から、実母(43)と長女(9)の遺体を発見。2人は後部席に寄り添うようにして死亡しており、実母が抱いた飼い犬も死んでいた。警察は2人に外傷がなく、燃えかけの練炭があったことから無理心中を図ったとみている。</p>
<p>自宅の部屋で、実母(36)と長男(8)・次男(5)が死亡しているのを発見。死因は一酸化炭素中毒。3人に外傷はなく、別居中の実父(43)にあてた家族についての悩みを綴った遺書が残されていたことから、警察は無理心中の可能性が高いとみて調べている。</p>
<p>実母(36)と次女(2)の水死体が沖合い約2キロの海上で発見された。警察は、橋の上から飛び降り無理心中を図ったとみている。2か月前に長女(5)が自宅の風呂場で事故死し、前日には月命日の法事があった。実父(36)は「妻の様子がおかしかった」と話しており、車に残された遺書にも、長女を亡くした苦しみなどが書かれていたという。</p>
<p>川で実母(37)の遺体が発見される。翌日、長男(7)と長女(6)の遺体が発見される。3人は数日前から失踪しており、家族が捜索願を出していた。警察は、3人が橋の上から飛び降りた可能性が高いとみており、実母が家庭内のことで悩んでいたことから無理心中したとみている。実母が勤務していた会社によると、実母は5か月前から週5日工場働き、長女の入学式などを除き欠勤はなく、勤務態度もまじめで変わった様子はなかったという。</p>
<p>実母(34)が、就寝中の長女(11)の首を紐で絞めて窒息死させた。自身も自殺を図ろうとして、首を負傷。帰宅した実父(32)が通報。実母は殺人容疑で逮捕された。家族は、実父母と長女の3人。実母は異動先の仕事や実父との不仲に悩み、長女を道連れにして無理心中を図ろうとしたという。懲役8年の判決。</p>
<p>実父(42)が、長男(16)・次男(14)・長女(13)に「ビタミン剤」と嘘をついて睡眠薬を飲ませ、寝ていた3人の首をロープなどで絞め、窒息死させた。実父自身も自殺を図り睡眠薬を服用、倒れているところを実母(39)が発見して通報した。実父は殺人容疑で逮捕。「子どもに何もしてやれない。大学にも行かせてやれない」「自分は睡眠薬を飲んで自殺する」「子どもたちを連れて行く」という趣旨の実母あての遺書が残っていた。実父は、実母と子ども3人と父方祖母(72)の6人家族。実父は実母に告げていた勤務先には勤めておらず、同居している祖母から毎月約30万円を受け取り、生活費として実母に渡していたと供述しており、金の工面や“偽りの生活”に嫌気がさし、無理心中を図った可能性があるという警察はみている。実父は、初公判を前にして拘置所で首吊り自殺をした。</p>
<p>実母(27)と長女(3)・次女(1)が、電車にはねられて即死した。駅のホームから実母が子ども2人を連れて線路内に飛び降りるのを運転士が目撃しており、警察は無理心中とみて調べている。家族は、実父(38)と実母、子どもらの4人暮らし。実父は警察の調べに、「いつも通り出勤を見送ってくれた。普段と変わった様子はなかった」と話し、原因や3人が駅にいた理由はわからないという。実母は損害保険関係の会社に勤務、娘2人は保育園に預けていたが、事件当日は「私の熱が出たので休みたい」と電話があり、預けにこなかった。</p>
<p>実父(34)が路上で倒れており、病院に運ばれるも死亡。自宅からは、実母(34)・長男(5)・長女(2)の遺体が見つかった。首を絞めて殺害し、その後9階建てマンションの最上階から飛び降りて死亡した。警察は、実父が3人の首を絞めるなどして殺害した後、マンションから投身自殺した無理心中と断定し、実父を殺人容疑で被疑者死亡のまま書類送検した。実母は妊娠8か月。実父の携帯には「勝手なことをしてすいません。昨日妻と死ぬことを決めました。このままではおなかの子どもを産めないし、ごはんも食べられない」といった内容の未送信メールが残っていた。実父は親類から時々お金を借りたり、消費者金融から借金をしており、総額900万円ほどの借金があったとみられる。また月11万の家賃を2か月滞納し、冷蔵庫はほぼ空っぽだった。</p>
<p>アパートの2階が出火し、中から実母(40)と長男(14)・長女(8)の遺体が見つかった。実母の死因は全身やけど、子ども2人は一酸化炭素中毒。実母の足元に灯油が入っていたポリ容器の焼け残りが見つかり、ライターも残されていたことから、警察は実母が無理心中を図った可能性が高いとみている。実母は実父(39)と子ども2人の4人暮らしで、事件当日実父は仕事にでていた。長男が昨年秋から学校を休み、実母は日頃から子どものことで悩んでいたという。</p>
<p>実父(37)と実母(33)、長女(4)の遺体が、車内から見つかった。警察は3人に外傷はなく、車内から練炭と七輪が見つかったことから、無理心中の可能性が高いとみて捜査している。</p>
<p>実母(40)が長男(7)の首を手で絞めて殺害、長女(2)の首を掃除機の電気コードで強く絞めて殺害(死因はともに窒息死)。その後、自身の手首をカミソリで切って自殺を図るが、自宅に来た祖母らに発見され制止された。国の指定医師の判断を受け、措置入院。実父(39)は仕事で不在。実母は、育児や勤務先の会社の経営不振などの悩みから、無理心中を図ったとみられ、殺人容疑で逮捕され、精神鑑定の結果心神耗弱状態だったとして、懲役4年6か月の判決を受ける。</p>
<p>母方祖母(57)と実母(32)が、長男(11)・長女(7)・次女(6)に睡眠薬を飲ませ車内に灯油をまいて放火。実母、長女、次女は死亡(死因は熱性ショックと酸欠による窒息死)。長男は脱出しやけどを負い、祖母は意識不明の重体で病院に運ばれた。祖母は殺人と殺人未遂容疑で逮捕、実母は被疑者死亡で不起訴処分。実母は、実父(33)の経営する会社の資金繰りが悪化し、実父に無断で約3000万円を信販会社などから借金しており、自身が自殺したことによる保険金を目的に子どもらとの心中を計画、祖母も「娘と孫を引き離すのはかわいそう」「娘が死んだら身寄りのない自分は生きていけない」と考え、計画に同意したという。懲役10年。</p>
<p>車内で長男(8)と次男(1)が死んでおり、実母(34)が車庫で首を吊って死亡しているのを、帰宅した祖母(54)が見つけた。車庫は内側から鍵がかかっていたといい、警察は実母が無理心中を図った可能性が高いとみている。長男は車のシートに横たわり、首に絞められたような跡があった。次男はチャイルドシートに座った状態だった。実母は、次男の発育で悩んでいたという。</p>
<p>自宅が出火し、実父(47)・実母(46)と長男(10)・次男(6)の遺体が見つかった。実父の死因は、胸を刺されたことによる失血死、他の3人は一酸化炭素中毒だった。家族は近所の人に5千円、1万円の借金をしており、給食費や教材費の支払いも滞っていた。また、消費者金融からも借金をしており、実母の勤め先にも取り立ての電話がかかっていた。実父は約15年前、自動車ローンなどで約500万円の借金があり、昨年ごろには親族に「もう少して返済できそう」と話していたという。最近、実父は知人らに「仕事がない」と漏らしていた。警察は実母が生活苦から無理心中を図ったとして、実母を殺人と現住建造物等放火の容疑で被疑者死亡のまま書類送検。</p>
<p>駐車場に止めてあった乗用車のわきで、実母(30)が胸から血を流して死亡していた(死因は心臓血腫)。車内の長女(6)も腹を刺されて、失血死していた。実母は凶器とみられる包丁を右手に握っていた。警察は実母が無理心中をしたとして、実母を殺人容疑で被疑者死亡のまま書類送検。実母は母方曾祖母、母方祖父・祖母と長女の5人で暮らし、最近精神的に不安であったという。遺書はみつからない。</p>
<p>自宅が出火し、実母(37)・長女(9)・次女(7)・三女(5)が死亡(死因は一酸化炭素中毒)。警察は、実母が放火して無理心中を図ったとして、殺人容疑と現住建造物等放火の容疑で被疑者死亡のまま書類送検。自宅の1階や2階などで、ガスバーナーでタオルや衣類に火をつけて放火し、子ども3人を一酸化炭素中毒で死亡させた疑い。実母は実父(37)と娘ら3人の5人で暮らし、事件時は実父は出勤していた。</p>

事例No.	事件発覚年	心中の形態	心中の未遂/既遂	加害者			子の殺害手段	死亡した被害児童数	生存した被害児童の有無	
				加害者	自殺手段	自殺の未遂/既遂				
318	2007	父母子	既遂	実父 実母	ガス(車内) ガス(車内)	既遂 既遂	— —	ガス(車内)	1	無
319	2007	母子	既遂	実母	ガス(車内)	既遂	—	ガス(車内)×2	2	無
320	2007	父子	既遂	実父	放火	既遂	—	絞首十刃物	1	無
321	2007	母子	未遂	実母	電車	未遂	懲役6年 (心神耗弱)	絞首	1	無
322	2007	その他	既遂	母方祖父	放火	既遂	—	放火(自宅)	1	無
323	2007	母子	未遂	実母	ガス(自宅)	未遂	不明	ガス(自宅)	1	有
324	2008	母子	既遂	実母	ガス(車内)	既遂	—	ガス(車内)	1	無
325	2008	その他	既遂	母方祖母 実母	縊死 縊死	既遂 既遂	— —	絞首	1	無
326	2008	母子	未遂	実母	投身	未遂	懲役3年 (心神耗弱)	投身	1	無
327	2008	父母子	未遂	実父	放火	未遂	無期懲役	絞首	1	無
328	2008	母子	既遂	実母	投身	既遂	—	投身×2	2	無
329	2008	母子	既遂	実母	刃物	既遂	—	絞首十刃物	1	無
330	2008	父母子	既遂	実父	拳銃	既遂	—	拳銃	1	無
331	2008	父母子	未遂	実父	刃物	未遂	懲役22年	絞首×2	2	無
332	2008	母子	未遂	実母	刃物	未遂	懲役4年	刃物	1	有
333	2008	父母子	未遂	実父	意思のみ	未遂	懲役23年	絞首	1	無
334	2008	母子	既遂	実母	自動車(入水)	既遂	—	自動車(入水)×2	2	無
335	2008	母子	不明	実母	不明	不明	—	入水(自宅外)	1	無
336	2008	母子	未遂	実母	刃物	未遂	不明	絞首十刃物	1	無
337	2008	母子	既遂	実母	自動車(入水)	既遂	—	自動車(入水)	1	無

事例の概要
親子とみられる男女と女兒の遺体が林道にとめてあった車内から発見される。車内は粘着テープで内側から目張りをされており、練炭の燃え殻が残っていたことなどから、警察は親子心中の可能性が高いとして調べている。死後数か月が経過しているとみられるという。
軽乗用車内で、実母(26)、長男(5)と次男(4)がぐったりしているのを家族がつけ、通報。3人は病院に運ばれたが、死亡が確認された。死因は、いずれも一酸化炭素中毒。警察は、現場の状況から、排ガスを車内に引き込んで実母が無理心中を図ったとみている。前夜、実母らが帰宅しなかったため、家族が探していた。
車内から、実父(59)と長女(12)の遺体が発見された。実父と長女は2人暮らしだった。実父には、約2500万円の借金があり、自宅には「返済に苦しみ、経営する会社が立ち行かなくなった」などと書かれた遺書が残されていた。警察は、実父が無理心中を図ったとして、実父を殺人容疑で被疑者死亡のまま書類送検。車内で、長女の首を手で絞め、ナイフで首を刺すなどして殺害した疑い(死因は窒息死)。実父は犯行後、車にライターで火をつけ自殺(死因は一酸化炭素中毒)。
実母(38)が、自宅で長女(16)をロープで絞殺。その後、自身は線路上に飛び込み、電車に接触し、頭などを打って病院に運ばれたが軽傷。殺人容疑で逮捕された。実母は市内の精神科病院に入院しており、1泊2日で外出許可を得て帰宅していたところだった。実母は自分の病気が治らないと思い込んで将来を悲観し、無理心中を図ろうとしたという。心神耗弱が認められ、懲役6年の判決。
自宅が出火し、母方祖父(56)・母方曾祖父(83)・曾祖母(79)・実母(30)、長女(5)の5人の遺体が見つかった。警察は、祖父が無理心中を図ったとして、祖父を殺人と現住建造物等放火の容疑で被疑者死亡のまま書類送検。祖父は家族の病気の治療費などで借金がかさんだことを苦に、自宅に灯油などをまいて放火し、4人を一酸化炭素中毒で死亡させた疑い。
実母(35)が、長女(8)・次女(5)とともに自宅で練炭による心中を図るが、帰宅した実父(34)が見つけて通報、病院に運ばれた。実母と長女は意識不明の重体。次女は一酸化炭素中毒による死亡。遺書も残されており、警察は無理心中を図ったとみて、実母を逮捕。実母には通院歴があり、「(病気の影響で)苦しんでいて、子どもたちも同じように苦しまないよう、道連れに自殺しようとした」などを供述。
ワゴン車の中で、実母(38)と長女(2)が死亡しているのが見つかった。車内には練炭入りの七輪があり、警察は実母が無理心中を図ったとみて調べている。2人の死因は一酸化炭素中毒。実母は実父(37)と長女の3人暮らしで、育児に悩んでいたという。
乗用車の助手席で、長女(6)がヒモを首に巻いたまま死亡しているのが見つかった。近くのガードレールにひもをかけ、実母(31)と母方祖母(56)が首をつって窒息死していた。実母は実父と離婚し、認知症の母方祖父(73)を入れて4人で暮らしていた。祖父の要介護レベルは軽い方から3番目で特に重症な部類ではなかったが、症状に波があり目が離せず、祖母と祖父の喧嘩が絶えなかったという。実母はうつ状態で育児に関して他人の手を煩わせることを嫌がっていた。警察は、実母と祖母が無理心中を図ったとして、2人を殺人容疑で被疑者死亡のまま書類送検。
実母(33)が長男(6)を自宅アパートの屋上から投げ落として殺害。実母も飛び降り、重傷を負った。実母は離婚を巡り実父・長男と別居しており、長男と会った事件当日、幻聴の影響や、家族と一緒に暮らせないことを悲観して心中を図った。実母は統合失調症で通院していた。実母は、心身耗弱が認められ、殺人罪で懲役3年(求刑懲役5年)の実刑判決。
実父(54)が、実母(45)と次女(14)をネクタイで絞殺し、長女(22)と長男(21)にナイフなどで重傷の怪我を負わせ、自宅に灯油をまいて放火した。借金苦に一家心中を決意したという。実父は殺人罪と殺人未遂罪、現住建造物等放火の疑いで逮捕、無期懲役判決。
11階建てマンションの最上階から、実母(33)・長男(6)・次男(3)が落ち、死亡。警察は、実母が子ども2人を投げ落とし、自らも飛び降りて無理心中したとみている。実母は、実父と子どもの4人暮らしで、精神的に不安定になり、昨年4月から通院して治療を受けていた。遺書などはみつかっていない。
実母(38)と長女(生後9か月)が倒れているのを発見。病院に運ばれるも、間もなく死亡した。実母は胸に包丁を刺して自殺しており、最近ノイローゼ気味だったことから、警察は無理心中とみて調べている。実母の様子を心配して泊まりに来ていた母方祖母(63)によると、実母が電気コードで長女の首を絞め、包丁で胸を刺した後、自分の胸を刺したという。実母は実父と長男、長女の4人暮らし。
ホテルの一室で、銃で死亡した実父(37)・実母(30~40歳)・女兒(10歳くらい)の遺体をホテルの従業員が発見。実父が右手に拳銃を握っており、室内のテーブル上に計3通の遺書があった。警察は、実父が妻子を道連れに拳銃自殺したとみている。残された遺書には、昨年10月の射殺事件(2007年10月18日、風俗店経営者を射殺した疑い)への関与を認める文面が残されていた。実父は殺人容疑と銃刀法違反の疑いで被疑者死亡のまま書類送検された。
実父(43)が、実母(41)と長女(10)と長男(7)の首を手で絞めて殺害し、自らも包丁で自殺を図ったが未遂に終わった。実父は、仕事上の金銭トラブルを抱え、無理心中を決意したという。実父が書いた遺書が数通あった。殺人罪で逮捕、懲役22年判決。
実母(33)が無理心中を図り、次男(3)の首を包丁で切って失血死させた。長男(5)の首をひもで絞め殺そうとしたが、「生きたい」と泣いて懇願したため手を止めたという。実母は2001年に中国から来日して、日本人の実父(53)と結婚し、4人で暮らしていたが、生活習慣の違いなどで精神的に不安定になり、入院を繰り返していたという。実母は懲役4年の実刑判決。
実父(43)が、フィリピン国籍の実母(33)の頭をナタで数回切りつけて殺害(死因は出血性ショック)、長男(7か月)の首を両手で絞めるなどして窒息死させ、殺害から2日後自首した。実父は子どもの夜泣きがうるさいことや、手足のしびれなどで悩み、仕事への自信を喪失して将来を悲観し、無理心中を決意。実父は懲役23年判決。
実母(30)と長男(3)、長女(7か月)を乗せた車が海に転落し、約50分後、実母と長女を車両から救出し病院に搬送したが、死亡(死因は水死)。数日後、長男の遺体も発見された。岸壁の車止めにはタイヤがぶつかった跡があり、無理心中の可能性が高いとしている。家族は、実父(40)と実母、子どもら2人の4人暮らしだった。
次男(1)が湖にて水死体で発見された。近くの橋に実母の乗用車が放置しており、湖からは実母(37)の免許証等が入ったバックが発見されたが、実母は行方不明。実母は2007年暮れに離婚して以来、精神的に不安定で、母方祖母(34)が捜索願を出していた。警察は、無理心中の可能性もあるとみて、実母の行方を調べている。
実母(33)から「子どもを殺した」という110番通報があり、警察が駆けつけたところ、長男(生後3か月)が手首から血を流して死んでおり、実母が犯行を認めため現行犯逮捕。長男の首を絞めたうえ、手首や胸をカッターナイフで切りつけて殺害した疑い。実母自身も手首を切るなどして自殺を図ったが死に切れなかった。実母は「子どもの成長が遅いので悩んでいた。育児ノイローゼだった」と供述。実母は実父(38)と長男の3人暮らしで、実父は仕事で外出していた。警察は、無理心中を図ったとみている。
海底に沈んだ乗用車から、実母(33)と長女(1)の遺体を発見。前夜、実母は実父(36)と口論し、長男(14)と次男(9)、長女を連れて外出したまま行方が分からなくなっていた。長男と次男は外出後、自宅近くのコンビニエンスストアで降ろされ、実母から連絡を受けた知人男性に保護されたという。警察は、実母が長女を道連れに無理心中を図ったとみている。



事例No.	事件発覚年	心中の形態	心中の未遂/既遂	加害者				子の殺害手段	死亡した被害児童数	生存した被害児童の有無
				加害者	自殺手段	自殺の未遂/既遂	刑など			
338	2008	その他	既遂	実父(兼母方祖父)	自動車(入水)	既遂	—	自動車(入水)×4	4	有
339	2008	母子	未遂	実母	意思のみ	未遂	懲役5年	入水(自宅外)	1	無
340	2008	母子	既遂	実母	刃物	既遂	—	絞首	1	無
341	2008	母子	未遂	実母	ガス(自宅)	未遂	懲役8年	ガス(自宅)	1	無
342	2008	母子	未遂	実母	ガス(車内)	未遂	不起訴(心神喪失)	ガス(車内)	1	無
343	2008	母子	既遂	実母	刃物	既遂	—	刃物	1	無
344	2008	母子	既遂	実母	放火	既遂	—	放火(自宅)×2	2	無
345	2008	母子	既遂	実母	刃物	既遂	—	刃物	1	無
346	2008	母子	既遂	実母	縊死	既遂	—	絞首×2	2	無
347	2008	母子	既遂	実母	ガス(車内)	既遂	—	ガス(車内)×2	2	無
348	2008	母子	既遂	実母	自動車(入水)	既遂	—	自動車(入水)×2	2	無
349	2008	母子	既遂	実母	投身	既遂	—	投身+窒息 投身	2	無
350	2008	父母子	既遂	実父	刃物	既遂	—	刃物×2	2	無
351	2008	母子	既遂	実母	ガス(車内)	既遂	—	ガス(車内)×2	2	無
352	2008	母子	既遂	実母	ガス(車内)	既遂	—	ガス(車内)×3	3	無
353	2008	母子	既遂	実母	投身	既遂	—	投身	1	無
354	2008	母子	既遂	実母	縊死	既遂	—	絞首	1	無
355	2008	母子	未遂	実母	意思のみ	未遂	懲役3年 執行猶予5年 (心神耗弱)	絞首	1	無
356	2008	母子	既遂	実母	ガス(車内)	既遂	—	ガス(車内)	1	無
357	2008	母子	未遂	実母	刃物	未遂	不明	刃物	1	無

事例の概要
<p>実父(63)と実母(40)、次男(14)、三男(7)、次女(5)、里帰りしていた長女(16)とその子ども(長女・生後6か月)の計7人が、車ごと海に転落。次男は自力で脱出したが、残る6人は全員死亡。警察は、実父のポケットから見つかった遺書の内容などから、借金や自分の病気で悩んだ末の無理心中と断定、実父を殺人・殺人未遂容疑で被疑者死亡のまま書類送検した。</p>
<p>実母(25)が、次女(生後2か月)を海に投げ落として水死させた。実母は、殺人容疑で逮捕。実母は、母方祖父、母方叔母、子ども3人の7人暮らし。実母は交際していた男性との結婚を望んだが断られ、次女の認知も経済的援助も受けられないことで心中を考えたとする。弁護側は過って落としたとして無罪を主張したが、認められなかった。懲役5年判決。</p>
<p>実母(34)と長女(生後6か月)が死亡しているのを帰宅した実父(29)が見つけ、通報。実母は、浴室内で腹部を刃物で刺した状態で、長女は居間で首を絞められた状態で死亡していた。実母は、実父(29)と長女の3人暮らしで、日ごろから育児に悩んでおり、「赤ちゃんを連れて行ってごめんさい」と書かれた遺書が発見された。警察は、実母が長女を殺害した後、自殺とみている。</p>
<p>実母(48)が、自宅で就寝中の長男(13)の枕元などに練炭を置き、死亡させた。実母は一酸化炭素中毒と見られる症状で入院、回復後、殺人容疑で逮捕された。実母は、「生活苦から将来を悲観した。私が死んだら、息子が悲しむ。1人残して死ねなかった」「交際相手に捨てられると思った」と供述。実母と長男は2人暮らしだった。懲役8年の判決。</p>
<p>実母(22)が長女(生後4か月)とともに、車内において練炭による心中を図った。2人は病院に運ばれたが、長女はすでに死亡、実母は意識不明の重体。実母は周囲に育児の悩みを漏らしていたという。回復後、実母は殺人容疑で逮捕されたが、犯行当時心神喪失状態にあったとして不起訴処分となった。</p>
<p>自宅で、実母(34)と長男(10)が死んでいるのが見つかった。実母の首と長男の胸にそれぞれ刺し傷があり、実母の遺体のそばから包丁が見つかった。実母は長男と母方祖母(81)の3人暮らしで、同じ敷地内の離れには、母方伯母夫婦ら4人が住んでいた。警察は、外部から侵入した形跡がないことから、無理心中の可能性が高いとみて調べている。実母は、子育てに悩んでいた様子だったという。</p>
<p>自宅が出火し、実母(39)・長女(7)・長男(5)が一酸化炭素中毒で死亡。実父(39)とは2か月前から別居していた。実母が書いた遺書が複数残されており、「子どもと一緒に死にます」などと書かれていた。警察は、実母が自宅に火をつけて無理心中を図ったとして、実母を殺人と現住建造物等放火の容疑で被疑者死亡のまま書類送検した。</p>
<p>実母(33)と長女(1)が死亡しているのを、父方祖母(69)が見つけて119番通報。そばに包丁があり、2人とも首に切り傷があったことなどから、警察は実母が長女を刺して自殺した無理心中とみている。実母は長女の病気のことで悩んでおり、事件前日から、実父(37)とともに父方祖父(68)・父方祖母(69)が住む実父の実家に帰省していた。</p>
<p>長男(8)と長女(3)が浴槽の湯船に沈んで死亡しているのを、帰宅した実父(43)が見つけた。実母(36)も室内で首をつって死亡していた。司法解剖の結果、子どもたちの死因はひものようなもので首を絞められたことによる窒息死だったことが分かった。警察は、実母が無理心中を図ったとみている。家族は、実父母と子ども2人の4人暮らしだった。</p>
<p>乗用車内で実母(44)と長男(11)・長女(8)が死亡しているのが見つかった。死因は、一酸化炭素中毒。排ガスを車内に引き込んでいた。実母は、長男と長女の3人暮らしで、以前から親や周囲に将来の不安を漏らしていたという。警察は、実母が無理心中を図ったとして、殺人容疑で被疑者死亡のまま書類送検した。</p>
<p>海中に沈んだ乗用車の中から、実母(36)と長女(4)・次女(2)の遺体を発見。遺体は死後1週間以内で、3人とも衣服は身につけ、目立った外傷はなく、死因は水死とみられる。実母は、実父と祖父・祖母と子どもらの6人暮らし。岸にプレーキの跡などはなかった。無理心中の可能性が高いという。</p>
<p>国道高架下で、実母(36)と長女(7)・次女(1)が死んでいるのを発見。近くに止めてあった車内からは、「病気で先が長くないので死にます」などと書かれた遺書が見つかった。警察は、子ども2人を殺害した容疑で、実母を殺人容疑で被疑者死亡のまま書類送検した。実母は、陸橋上に車を止め、長女と次女を下へ投げ落としてから、自らも飛び降り、転落した長女の首をふさいで窒息死させ、次女を転落時の外傷性ショックで殺害した疑い。実母も腰の骨などを折り、外傷性ショックで死亡した。</p>
<p>自宅で、実父(36)・実母(32)・長男(10)・次男(5)が死んでいるのが見つかった。4人の遺体には刺し傷などがあり、室内に凶器とみられる血の付いた包丁3本があった。現場の状況から、警察は実父が3人を殺害した後に自殺をした無理心中とみている。遺書は見つからない。実父らは約2年半前にマイホームを購入し、実母はアルバイトを始めた。実母は約2か月前、「親族に病気や不幸が続く、介護や手続きですごくしんどい」と話していたという。一家は4人暮らし。</p>
<p>「有毒ガス」と張り紙をした乗用車の中から、実母(41)・長女(9)・長男(5)の遺体が見つかった。車内に液体の入ったバケツが置かれており、有毒ガスを発生させ中毒死したらしい。前日夕方、実父(40)が帰宅した際、3人は不在だった。車内に「ごめんね」などと書かれたノートが残っていた。</p>
<p>車内で、実母(31)と長女(10)・次女(8)・長男(7)が折り重なるように死亡していた。車内に練炭を燃やした跡があった。実母の携帯電話に「子どもたちが欲しいものや望みがかなえられず情けない」「今までありがとう、さようなら」などと書かれた未送信の電子メールが残されていたが、明確な遺書はなかった。その後の調べで実母が多額の借金を抱えていたこと、実母の筆跡で書かれた遺書が自宅にあったこと、車内の状況から、家族以外の第三者が関わったとは考えられないことなどから、実母が生活に困り、将来を悲観して無理心中したと警察は判断。実母は殺人容疑で被疑者死亡のまま書類送検された。</p>
<p>実母(38)と次女(4)が、マンション11階から転落し、死亡した。実母は子育てに悩んでいたといい、警察は無理心中の可能性が高いと見ている。</p>
<p>布団の上でぐったりしている長男(4)を、実父(38)が見つけた。救急隊員が駆けつけたが、すでに死亡していた。その後、自宅から数百メートル離れた小屋で実母(41)が首を吊って死亡しているのが見つかった。実母が実父に宛てて書いたとみられる遺書めいたメモが複数見つかった。実母は、実父と子ども2人の4人暮らし。実母は1年ほど前から体調不良で悩んでいる様子もみられたという。警察は、実母が無理心中を図ったとして、殺人容疑で被疑者死亡のまま書類送検した。自宅で長男の首を絞めて殺害した疑い。</p>
<p>実母(40)が長男(11)の首を絞めて殺害。警察は実母を逮捕。実母は「(長男が)友達が少なく、学校に行きたがらなかった。自分も人間関係に悩んでおり一緒に死のうと思ってやった」などと供述。実母は、実父(55)と子どもの3人暮らし。犯行時心神耗弱状態だったとして、懲役3年執行猶予5年の判決。</p>
<p>車内で死亡している実母(40)と長女(11)を発見。警察は、実母が車内で練炭をたき、無理心中を図った可能性が高いとみている。実母は実父と子どもの3人暮らしで、実父は市外に外出中だった。2人に目立った外傷はなく、遺書もなかったという。</p>
<p>次男(10)が胸や背中などを刺された状態で倒れ、実母(50)が腹に刺し傷を負っているのが見つかり、病院に搬送。次男は間もなく死亡(失血死)、実母は重体。実母は精神的な不調に悩んでおり、家族は「最近状態が悪化したので、病院に連れて行こうと思っていた」と説明しているという。実母は、内縁の夫(37)、前父方祖母(84)、長女(21)、次男の5人暮らしだった。祖母と内縁の夫は仕事で外出していた。実母は「将来を悲観して、無理心中しようとした」と話しており、殺人容疑で逮捕された。</p>

事例No.	事件発覚年	心中の形態	心中の未遂/既遂	加害者			子の殺害手段	死亡した被害児童数	生存した被害児童の有無	
				加害者	自殺手段	自殺の未遂/既遂				刑など
358	2008	父母子	既遂	実父	放火	既遂	—	放火(車内)	1	無
359	2008	父子	既遂	実父	ガス(自宅外)	既遂	—	ガス(自宅外)×2	2	無
360	2008	父母子	既遂	実母	ガス(車内)	既遂	—	ガス(車内)×2	2	無
361	2008	母子	既遂	実母	縊死	既遂	—	絞首	1	無
362	2008	父子	既遂	実父	ガス(車内)	既遂	—	ガス(車内)×2	2	無
363	2008	母子	未遂	実母	不明	未遂	懲役7年	絞首	1	無
364	2008	その他	未遂	父方祖母	意思のみ	未遂	懲役13年	薬物十刃物	1	無
365	2009	その他	既遂	祖父	投身	既遂	—	投身	1	無
366	2009	父母子	既遂	実父	縊死	既遂	—	絞首	1	無
367	2009	母子	既遂	実母	電車	既遂	—	電車	1	無
368	2009	その他	未遂	母方祖母 実母	同意 意思のみ	既遂 未遂	— 懲役8年	窒息	1	無
369	2009	母子	既遂	実母	電車	既遂	—	絞首×2	2	無
370	2009	母子	既遂	実母	投身	既遂	—	窒息	1	有
371	2009	母子	既遂	実母	投身	既遂	—	投身×2	2	無
372	2009	母子	未遂	実母	自動車(衝突)	未遂	懲役10年	絞首	1	無
373	2009	父母子	既遂	実父	放火	既遂	—	絞首十刃物×3	3	無
374	2009	母子	未遂	実母	ガス(自宅)	未遂	懲役3年 執行猶予5年	ガス(自宅)	1	無
375	2009	母子	未遂	実母	薬物	未遂	懲役6年6か月	窒息	1	無
376	2009	母子	未遂	実母	ガス(車内)	未遂	懲役3年 執行猶予5年 (心神耗弱)	ガス(車内)	1	無

事例の概要
車が出火し、実父(34)と長女(4)が死亡、実母(37)は全身やけどで意識不明の重体。実母が搬送前に「長女と車中にいたら、元夫が灯油のようなものをかぶって火をつけた」と話したことから、警察は無理心中の可能性があるとみて調べている。
キャンプ場のテント内で、実父(33)と長女(3)・長男(生後6か月)が死亡しているのが見つかった。テントに「硫化水素発生中」との張り紙があり異臭がしたことから、警察は実父が硫化水素を発生させ無理心中を図ったとみて調べている。実父のかばんからは遺書が見つかった。3人は実母の親族から捜索願が出されていた。
車内で、実父(48)・実母(43)・長女(20)・次女(16)・長男(11)が死亡していた。車内に炭をたいた形跡があった。実父の死因は頭蓋骨が折れたことによるくも膜下出血で、あと5人は一酸化炭素中毒であった。実母の手帳には、意図的に実父をはねたという内容や、不満などが書かれていたという。実母は実父、子どもたち3人の他、父方祖母の6人暮らしだった。警察は実母が無理心中を図ったと断定し、実母を殺人と殺人未遂容疑で被疑者死亡のまま書類送検した。実母は、路上で実父を殺害しようとして車ではなて重傷を負わせた疑い。その後、実父と子どもらを車に乗せ、車内で練炭を燃やして一酸化炭素中毒で殺害した疑い。
実父(40)が「娘が呼吸をしていない」と119番通報し、警察が駆けつけたところ、寝室の布団の上で次女(3)が死亡しており、実母(40)も同じ敷地内の納屋の軒下で首をつって死亡していた。次女の首には紐のようなもので絞められた跡があった(窒息死)。実母には日ごろから次女の将来を悲観する言動があり、遺書にも次女についての悩みが書かれていた。
車内で、実父(34)と長女(13)・次女(12)が死亡しているのが見つかった。車の窓には「硫化水素発生中。近づくな」と書いた貼り紙があった。車内にはフランチャイズ制の店の経営がうまくいかないという内容が書かれた遺書があった。また、2年前に離婚した実母の自宅の玄関先に「この手紙を読んだ時は、もう私たちは死んでいると思います。今までありがとう」と次女が書いたと見られる手紙がおかれていた。警察は自殺とみている。
実母(36)が無理心中を図って、長男(4)の首をコードで絞めて殺害。自身も自殺を図るも死に切れなかった。実母は長男と実父の3人暮らし。実父は会社に行って不在。実母は「子育てに疲れてやった」と供述。殺人罪で懲役7年判決。
実父(38)が不在中、父方祖母(68)が、父方祖父(65)と長女(9)の味噌汁に睡眠薬を入れ、長女の首を包丁で切りつけるなどして出血性ショックで死亡させ、祖父の首を包丁で切りつけるなどして殺害しようとした。祖母は、生活費などのために借金を繰り返していたが、返済に行き詰まり自殺を決意。祖父を殺害すれば保険金で借金返済と実父の生活資金が得られると考えたほか、実父が男手1人で長女を養育していくのは困難と考え、長女も殺害した。祖母は、殺人・殺人未遂罪で、懲役13年の判決を受ける。
祖父(54)と孫娘(3)が、ダムから飛び降りる。祖父はダムのフェンスの下のコンクリートに落ち、頭や胸を強く打って死亡。祖父が倒れていたコンクリートには孫娘の靴があり、周辺を捜索したところ、後日、ダム湖にて遺体を発見。死因は水死だった。祖父は、仕事に悩んでおり、孫娘の将来についても悲観していた。警察は祖父が無理心中を図ったとみている。
実母(38)と長男(2)が寝室の布団の上で死亡し、実父(36)が首を吊って死亡しているのが見つかった。警察は、外部から侵入した形跡がなく、遺書もあることから無理心中とみて調べている。遺体は死後数日たっているとみられる。3人とも死因は窒息死だった。
実母(40)と次男(7)が電車にはねられ死亡。現場には長男(9)がいたが、遮断機の外にいて無事だった。電車の運転士は「2人は遮断機をくぐって踏切内に入った」と話しており、警察は無理心中の疑いもあるとみて調べている。
母方祖母(56)と長女(9)が死亡しているのが見つかった。行方不明になっていた実母(35)が殺人容疑で逮捕された。実母は数日前、交際する40代の男性とともに、乗用車に乗ったまま海に転落する心中事件(後に偽造と分かる)を起こしており、その後、ショックを受けて精神的に不安定になっていたと主張。実母によると、実母は祖母と2人で長女の口や鼻を覆うなどして窒息死させ、祖母に頼まれて首をロープで絞めて殺害したという。祖母は、殺人容疑で被疑者死亡のまま書類送検された。実母は、殺人と嘱託殺人罪に問われ、求刑通りの懲役8年の判決を受ける。
長男(12)と長女(10)が自宅で首を絞められて死亡しているのが見つかった。その後、実母(37)も市内の踏み切りに飛び込み、電車にはねられ自殺した。実母は実父(40)と1年以上前から別居状態にあり、3か月程前に離婚。2人の子どもは実父とともに住んでいたが、数日前から実父の家に戻っていた。実母は、「子どもに避けられている」「子どもに嫌われている」「話しかけても、返事してくれない」と周辺にもらしており、親子関係がうまくいかずに悩んでいた。警察は、実母が子ども2人を道連れに無理心中を図ったと断定し、実母を殺人容疑で被疑者死亡のまま書類送検した。
次女(11)が口をテープでふさがれてぐったりしているところを、帰宅した実父(49)が発見。次女は病院に運ばれたが肺挫傷で死亡。長女(14)も手に切り傷を負っており、「母親にやられた」と話していたことから、実母の行方を捜索。実母(46)は、近くのマンションから飛び降りて死亡しているのが見つかった。遺書らしきメモが残されていた。実母は通院歴があり、子ども2人の健康について悩んでいたという。
実母(29)が長男(4)と次男(2)をマンションの4階から落とし、その後自らも飛び降りた。3人とも全身を強く打っており、まもなく死亡。自宅には遺書のような手書きのメモがあった。実父(30)は仕事のため外出していた。
実母(51)が長男(13)の首をひもで絞めて殺害、その後、自身も死のうとして車を運転中に対向車と接触事故を起こし軽傷を負った。実母が犯行を供述したため、警察は殺人容疑で逮捕。実母は長男が一時不登校になったことから将来を悲観し、内縁の夫と別れて、実家へ戻ってきた。実家では、実母の両親と弟夫婦とその子ども3人の計9人で暮らしていた。しかし、自身のリウマチなどの持病や、実家で弟一家らと暮らし続けるのも肩身が狭いと、1月前頃から無理心中の機会をうかがっていたという。懲役10年の判決を受ける。
実父(45)・実母(37)・長男(8)・長女(6)・次女(3)の5人が死亡しているのを、訪ねてきた母方祖父(65)が発見。一家は5人暮らしだった。いずれも刺し傷があり、実父には自分で刺したとみられる複数の傷があった。死因は妻が窒息死、長男と次女が失血死、長女が血気胸、実父は焼死だった。実母が親族に「夫が仕事で悩み、(家に)火をつけると言っている」と相談していたことや、現場の状況から、警察は実父が実母と子どもらの首を絞めたり刃物で刺したりして殺害した後自殺した無理心中と断定し、被疑者死亡のまま殺人容疑で書類送検した。
実母(32)が寝室のストーブで練炭をたき、寝ていた長女(8)を一酸化炭素中毒で殺害。自身も病院に運ばれ一時重体となっていた。実父(35)に対する謝罪などが書かれた遺書のようなメモが見つかることから、警察は実母が無理心中を図ったとして、回復後に殺人容疑で逮捕した。実母は仕事で実父の帰宅が遅いことなどから不安を覚え、「死にたい」などと話すようになり、昨年夏から精神科へ通院していた。実母は懲役3年保護観察付き執行猶予5年の判決を受ける。
次男(1)の鼻と口を押さえつけて窒息死させたとして、実母(41)を逮捕。実母は次男殺害後、風邪薬を多量に飲んで自殺しようとしたが吐き出して死ねなかった。実母は実父(40)に内緒で百数十万円の借金があり、「自分の生命保険で返済してほしい」と書かれた遺書が残されていた。懲役6年6か月の実刑判決。
実母(38)が長女(6)とともに、火をつけた練炭を積んだ乗用車に乗り、長女を車内で窒息死させた。実母は勤務先を解雇されるなどと将来を悲観し、心中を図った。殺人容疑で逮捕され、心神耗弱だったと認定され、懲役3年執行猶予5年の判決を受ける。

事例No.	事件発覚年	心中の形態	心中の未遂/既遂	加害者			子の殺害手段	死亡した被害児童数	生存した被害児童の有無	
				加害者	自殺手段	自殺の未遂/既遂				
377	2009	父母子	未遂	実父	刃物	未遂	不明	刃物×2	2	無
378	2009	母子	既遂	実母	投身	既遂	—	投身	1	無
379	2009	母子	既遂	実母	縊死	既遂	—	絞首	1	無
380	2009	母子	既遂	実母	その他(自絞死)	既遂	—	絞首×2	2	無
381	2009	父子	既遂	実父	ガス(自宅)	既遂	—	ガス(自宅)×3	3	無
382	2009	母子	既遂	実母	投身	既遂	—	絞首	1	無
383	2009	父母子	既遂	実父	刃物+投身	既遂	—	刃物	1	無
384	2009	父母子	既遂	実父	刃物	既遂	—	刃物	1	無
385	2009	父母子	既遂	実父 実母	縊死 縊死	既遂 既遂	— —	その他(縊死)	1	無
386	2009	母子	未遂	実母	刃物	未遂	懲役3年 執行猶予5年 (心神耗弱)	絞首	1	無
387	2009	母子	未遂	実母	刃物	未遂	懲役13年	絞首×2	2	無
388	2009	母子	既遂	実母	投身	既遂	—	不明	1	無
389	2009	母子	既遂	実母	ガス(車内)	既遂	—	ガス(車内)	1	無
390	2009	その他	既遂	祖母	入水(自宅外)	既遂	—	入水(自宅外)	1	無
391	2009	父母子	既遂	実父	刃物	既遂	—	刃物	1	無
392	2009	母子	既遂	実母	投身	既遂	—	投身	1	無
393	2009	父母子	未遂	実父	刃物	未遂	懲役25年	絞首	1	無
394	2009	母子	既遂	実母	ガス(自宅)	既遂	—	ガス(自宅)×2	2	無
395	2009	母子	既遂	実母	ガス(車内)	既遂	—	ガス(車内)	1	無

事例の概要
<p>実母(46)とみられる女性から「助けてください」「お父さんやめて」と110番通報があり、警察がかけつけると実母・長女(12)・次女(7)が倒れており、死亡が確認された。実父(47)も自分で腹を刺したとみられ、重傷。実父は回復後、3人の胸や背中を包丁で刺すなどして殺害した容疑で逮捕された。実父は「病気のことを言われ、かっとなった」と話しており、昨年5月頃から月1〜2回、心療内科に通院し、会社も長期休職していた。鑑定留置後、責任能力があると判断され、殺人罪で起訴された(その後、記事無し)。</p>
<p>実母(37)が長男(5)とともに、6階建てのマンションの5、6階の間の踊り場から飛び降り、全身を強く打って実母は即死。長男も病院に運ばれたがまもなく死亡。警察は、母子で投身自殺したとみている。遺書などはみつからない。</p>
<p>実父(53)の110番通報で、長男(18)と長女(17)が寝室で死亡しているのが見つかった。実母(48)も、納戸で首を吊って死亡していた。実母は長男が病気で入院を繰り返していたことに悩んでいた様子で、「息子の病気で悩み、疲れた」と書かれたメモが見つかった。長男・長女の死因は、首を圧迫されたことによる窒息死だった。警察は、実母が無理心中を図ったとみて調べている。家族は実父母と長男・長女の4人暮らしだった。</p>
<p>実母(34)・長女(7)・長男(5)が死亡しているのを、父方祖父(63)が発見。3人の首には絞められた跡があり、警察は実母が子どもらの首を絞めた後、自身の首を絞めて無理心中を図ったとみて調べている。実母は通院中で、家族に「薬が合わない」と漏らしていた。実母は、実父(35)と父方祖父と子ども2人の6人暮らしだった。</p>
<p>実父(41)と双子の長男(4)・次男(4)、長女(3)が倒れて死亡しているのを、訪れた父方祖父が見つけた。死後数日経っていた。室内には炭を燃やした跡があり、遺書のようなメモ書きが見つかった。実父は昨年秋、会社を退職し、今年1月実母と別居し、「子ども3人を1人で世話しなければいけなくて困っている」と児童相談所に電話で相談していた。その後、月に1回の電話相談では「育児も楽しい」と慣れてきた様子だったという。2月から生活保護を受給。1か月ほど前に職員が自宅を訪問した際には、室内の掃除も行き届いており、子どもたちも元気に駆け回っていたという。警察は、実父が無理心中を図ったとみて、子ども3人を一酸化炭素中毒で殺害したとして被疑者死亡のまま、実父を殺人容疑で書類送検した。</p>
<p>実母(32)が14階マンション駐車場で、全身を強く打って死亡しているのが見つかった。自宅で、長女(1)が死亡しているのが見つかった。長女の首には絞められた跡があり、警察は実母が無理心中を図って、長女殺害後に投身自殺を図ったとみて調べている。家族は、実父母と長女の3人暮らし。自宅から家族に謝罪する内容の書置きが見つかった。</p>
<p>自宅で死亡している実母(26)と長女(2)が見つかり、近くのマンション駐車場で実父(43)の遺体が見つかった。実母と長女の遺体があった布団の枕元には「家族を愛していた」「向こうの世界で見守っている」と実父が書いたとみられるノートが残っていた。実父は殺人容疑で被疑者死亡のまま書類送検。警察は、実父が自宅で実母と長女の2人の首を切って殺害した後、自分も首を切って自殺を図ったが死に切れず、投身自殺したと判断した。</p>
<p>実父(38)・実母(38)・長男(15)が血を流して倒れているのが見つかる。実母と長男は腹などを刺され、実父は腹に刺し傷があり、室内には血の付いた包丁2本が落ちていた。警察は、実父が2人を刺したとして殺人未遂容疑で現行犯逮捕したものの、3人は病院搬送後に死亡した。実父らは、母方祖父(中国残留孤児で1996年に帰国)を頼って11年前に来日。夫婦ともに日本語が話せなかった。祖父世帯は生活保護や中国残留邦人生活支援給付を受け、中国語を話せる支援相談員が家庭訪問をしていたが、実父らの世帯は別世帯だったので対象外だった。昨年8月、実母が生活保護の相談をしたが、実父は「生活保護を受けたくない」と断ったという。警察は、遺書などはなかったが実父が無理心中を図ったとみて調べている。</p>
<p>実父(29)と実母(33)、長男(5)が山中で首を吊って死亡しているのが発見された。遺体の近くに遺書のような書置きがあり、警察は無理心中の可能性が高いとみている。3人は実母の実家に帰省しており、前日夕方、「夕食を食べてから帰る」と同居している父方祖父にメールで連絡があったが、帰ってこないため、深夜に捜索願を出していた。</p>
<p>実母(41)が長男(6)の首を絞めて殺害。その後、自身もカミソリで首を切り病院に運ばれたが命に別条はなかった。部屋には「子どもと一緒に普通に生きていたかった」と書かれたメモが残っていた。実母は長男と2人暮らしで、「人間関係に悩みがあり、無理心中しようとした」と話しているという。実母は殺人容疑で逮捕され、元夫との婚姻中に受けた暴力による心的外傷後ストレス障害(PTSD)に基づく抑うつ状態で、事件当時は心身耗弱状態だったとし、懲役3年保護観察付き執行猶予5年の判決を受ける。</p>
<p>実母(37)が、長男(5)と次男(2)の首を紐で絞めて殺害。その後、自身の手首を切るが、命に別条はない。実母は半年ほど前に離婚し、子ども2人と3人暮らし。実母は、無理心中を図り子ども2人を殺害したとして逮捕された。「育児や将来に不安があった」と供述。懲役13年の判決を受ける。</p>
<p>実母(36)が長女(7)を殺害。その後、実父(38)に「殺しちゃった」と打ち明け、「死にたい」と取り乱したため、実父とともに病院へ向かう。しかし病院に到着後、実母は行方がわからなくなり、自宅から500メートル離れたマンションの5、6階の踊り場から飛び降りて倒れているところを発見される。病院に運ばれたがまもなく死亡。長女は足が不自由で歩行が不安定だったため、特別支援学校に通っていた。実父は「最近、妻の言動がおかしかった」と話している。警察は無理心中とみている。</p>
<p>実母(33)と長男(10)の遺体が車内から見つかった。燃えた練炭が発見され、警察は無理心中を図った可能性が高いとみている。母子家庭で、車内から遺書は見つからない。</p>
<p>海面に浮いている祖母(62)と孫の男児(生後2か月)の水死体を発見。現場近くに祖母の乗用車が止めてあり、波打ち際に祖母のものらしい靴が並べられていた。祖母は持病を苦にしており、遺書も見つかった。警察は無理心中とみている。</p>
<p>110番があり警察が駆けつけたところ、路上で、実母(31)が背中に入り傷を負い、怪我をした長男(生後6か月)を抱えて地面に座り込んでいた。実母が「主人が子どもを刺した」と話したことから、自宅を調べたところ、実父(33)が胸から血を流して死亡していた。そばには血の付いた刃物が落ちていた。実母は重傷。長男は意識不明の重体だったが、5日後に出血性ショックで死亡した。警察は、実父が無理心中を図ったとみて調べている。</p>
<p>14階建てのマンション敷地内で、長男(生後7か月)を抱いた実母(39)が倒れていた。2人は全身を強く打っており、搬送先の病院で死亡。家族は、実父母と長男の3人暮らし。警察は、実母が最上階から長男を抱いて飛び降り、無理心中を図ったとみている。</p>
<p>実父(49)が、「妻子の首を絞めて心中しようとしたが死に切れなかった」と自首。自宅を調べたところ、実母(40)と長女(6)が死亡しており、警察は実父を殺人容疑で逮捕。実父自身は、両手首を切って軽傷を負っていた。家族は、実父母と長女の3人暮らし。公判では、実父は実母に対しては承諾殺人罪を主張したが認められず、実父は仕事をせず実母に離婚を迫られ、妻子と離れたくないとの思いから2人を殺害したとして、殺人罪で懲役25年の判決を受けた。</p>
<p>実母(36)と長男(2)・長女(生後8か月)が倒れているのを、実父(34)が発見して110番通報。壁には「硫化水素発生中」という貼り紙があり、室内に張られた小さなテントの中で3人は死亡していた。家族は、実父母と子ども2人の4人暮らしだった。警察は、硫化水素ガスによる無理心中とみて調べている。</p>
<p>車内で、実母(26)と長男(3)が死んでいるのを、母方祖父が発見。車内には練炭の入った火鉢があったことから、警察は無理心中の可能性が高いとみて調べている。家族は実母と長男、母方祖父の4人暮らしで、前日夕方に外出したまま帰宅しなかったため、祖父が探していた。</p>

## 資料 2

### 海外における「親子心中」事例の一覧

作成：山邊 沙欧里（子どもの虹情報研修センター）

<事件の検索方法>

Googleにて、「Filicide suicide」や「Murder suicide child」など親子心中と関連する単語で検索し、検出された事件をランダムにピックアップしたものである。また、事件集などのサイトから事件の加害・被害者の名前で検索したものもある。検索結果の中でも上位に検索されたものを取り上げており、大きく報道された事件が多いだろうと推測される。

ID	発生日	場所	被害児	加害者	事例概要	家族状況など ※「○」生存、「×」死亡 ※ライン下は別居
1	2007.06.09	ウィスコンシン州 アメリカ	1歳8か月女児 7か月男児 7か月男児	父親	父親が、娘と7か月の双子の息子たちを母親のもとへ送り、3人の子どもを含め、その場に居た母親、同居している母親の姉夫婦、遊びに来ていた姉の友人女性の計7人を銃撃し、自殺した。母親の姉の夫は屋根から飛び降りて無傷、1歳8か月の娘は胸を撃たれたものの回復したが、母親、双子の息子たち、母親の姉、姉の友人、本人の6人が死亡した。周囲によると、父親は家族をととても愛していたという。母親の浮気を疑っての犯行と思われる。裁判所の記録によると、父親は、3人の子どもの養育費として月422ドルを支払うことになっており、加えて娘の出産費用4165ドルの負債があり月25ドルの返済があった。	×母親 (19)：父親との婚姻関係はない。 ○実娘 (1) ×実息子 (7m) ×実息子 (7m) ×母親の姉 (21)：2階建ての複合住宅に同居していた。 ○母親の姉の夫 (27)  ×父親 (23)：メキシコ生まれ、母親との婚姻関係はない。 ×母親の姉の友人 (19)
2	2007.06.18	カリフォルニア州 アメリカ	8歳女児 6歳女児	父親	父親が、車内で8歳と6歳の娘を射殺し、車の側で妻を射殺し自身も拳銃自殺。現場には遺書が遺されており、その理由として経済苦をあげていたという。友人によると、経済苦はあり得ないという。また、父親は、以前CIAに勤めていたと言い、その不満などを話していたという。	×父親 (51)：オフィスマネージャー、ブックキーパー ×母親 (40)：日本人。元家庭医、皮膚科医 ×娘 (8) ×娘 (6)
3	2007.06.20	ニュージャージー州 アメリカ	6歳女児 5歳女児	父親	父親が、自宅で5歳と6歳の娘を1階の風呂に沈めて殺害し、自分は3階の部屋で自殺。父親は母親と別れ、面会についての裁判が終了したばかりだった。面会中の出来事で、母親が娘達を迎えに行こうと電話をかけたところ、応答がなかったため、警察に通報して発覚した。	○母親：別れており、事件の日は父親と子どもたちの面会日であった。 ×娘 (6) ×娘 (5)  ×父親：建築業で成功しており、人望があった。父方祖母と父方伯母がアメリカに、父方の伯父（もしくは叔父）がアイルランドに在住。(故)父方祖父は郵便局員だった。故郷のアイルランドの教会の集会には、このところ帰っていないかったという。
4	2007.06.22-24	ジョージア州 アメリカ	7歳男児	父親	プロレスラーの父親が、妻の手足を拘束して窒息死させ、処方薬を飲ませて意識のない7歳の息子を絞殺し、トレーニングマシンで自殺したと思われる。原因として様々な仮説が報道された。父親はステロイドを服用しており、脳は85歳のアルツハイマー患者のものに似ているとの報告がある一方、家庭不和があったとも言われている。	×父親 (40)：プロレスラー ×母親 (43) ×息子 (7)
5	2007.08.02	ユタ州 アメリカ	4歳男児 3歳女児	父親	父親が、4歳の息子と3歳の娘とともに乗車していた車に火を付け自殺した。3人は後部座席にあり、父親は子どもたちの肩を抱いていた。両親は最近離婚していた。コンピューター・オペレーター父親はその日、体調の悪かった母親の代理で学校に子どもたちを迎えに行った。弟の家で夕飯を食べた時には特に変わった様子はなかったという。	○母親：離婚。子どもたちは普段は母親と暮らしている。 ×息子 (4) ×娘 (3)  ×父親 (30)：コンピューター・オペレーター。
6	2009.11.27	アルバータ州 カナダ	13歳男児 9歳女児	父親	父親が13歳の息子をロープで絞殺し、9歳の娘を枕で窒息死させ、子どもたちの様子を見に来た別居中の妻もロープで絞殺しようとしたところを逮捕された。その日は、子どもたちが母親の元へ転居する日であった。母親が電話して、子どもはどこに居るか尋ねると「僕の心の中にいる」と言ったという。母親が到着すると、息子に火を付けようとしており、「僕はお前に良くしてやってるのに、どうしてこんなことをするんだ」と言って襲った。父親は犯行後に睡眠薬を飲んで自殺しようとしたのではないかとみられており、その影響で犯行時の記憶がないと証言している。	○父親 (45) ×長男 (13) ×長女 (9)  ○母親：別居中。子どもたちは当日、母親のところへ転居する予定だった。
7	2010.02.05	ニューヨーク州 アメリカ	8歳男児	母親	母親が、ホテルの1室で、自閉症の息子に過量服薬させ、死亡に至らした。母親も大量の薬を飲み、「息子を虐待的な父親から守るにはこの方法しかなく、自分は息子なしでは生きていけない」と遺書を残したが、自殺は未遂に終わった。裕福な家庭で、事件を起こしたのは五つ星ホテルの1泊 \$2300のスイート。部屋には誰も入れず、母子はルームサービスを頼むなどして2日間部屋にこもりきりだったという。おばに「これから息子を殺して自分も死ぬ」とメールし、おばはそれを警察署にファックスした。裁判で弁護側は『利他的殺人』ゆえの無罪を主張している。本人は、報道記者のインタビューにて「最初の夫の暴力団との癒着疑惑と、2番目の夫の息子への性的虐待の疑惑が心中に駆り立てた」「息子は自閉症と誤診された。話すことが出来るようになったころ、赤ちゃんの頃から性的虐待を受けていたことを話してくれ、情緒の問題があった」「最初の夫が、2番目の夫を雇い、私の精神を崩壊させようとした」などと話している。	○母親 (49)：1998年にビジネスパートナーとして出会った男性と最初の結婚。2001年長男出生後、離婚。その6日後にヨガインストラクターの男性と結婚し、2006年に離婚。 ×長男 (8)：自閉症。  ○元継父：ヨガインストラクター。その後2006年に離婚し、1年以上母子に会っていないかったという。

ID	発生日	場所	被害児	加害者	事例概要	家族状況など ※「○」生存、「×」死亡 ※ライン下は別居
8	2010.10.31	ペンシルベニア州 アメリカ	8か月女児 5歳女児	父親	父親と8か月と5歳の娘が、車内で一酸化炭素中毒により死亡。心中とみられている。	×父親 (24) ×娘 (5) ×娘 (8m)  母親については不明
9	2010.12.14	ミズーリ州 アメリカ	6歳男児	父親	父親が自宅で、6歳の息子を撃ち殺し、自分も銃で自殺した疑い。2009年に父親は母親へのDVで有罪判決を受け、父母は別居中、親権は父親にあった。その半年後に父親は、銃所持の許可の再発行を求める裁判を起こし、勝利していた。母親は、父親が復讐のために自分を銃で狙うのではないかと思い、一時的な親権の移行を求めたこともあった。	×父親 (35) : DVの前科あり。銃所持の許可を一度剥奪されるも、半年後に取り戻す。親権は父親にあった。 ×息子 (6)  ○母親 : 別居中。父親の銃に怯えていた。親権を取り戻そうと試みたことがあるという。
10	2011.01.18	ニュージャージー州 アメリカ	16歳女児 10歳女児 8歳女児 6歳男児	実(継)父	父親が、妻とその連れ子の女児3人(16・10・8歳)と、父母の実子である6歳の男児を刺すなど暴行した。20分後に警察が駆けつけると、父親は車で逃走しようとしたが、捕まった。父親は「橋に行って投身自殺をしようとした」と警察に話している。調べによると、その夜夫婦はお互いに不貞をしているのではないかという話になった。夫は「別れて友達としてやっていく」と言い、シャワーを浴びに行った。シャワーから戻ると、夫は妻に覆い被さり、妻はさよならのキスをするのだと思ったという。しかし夫は狩猟ナイフで妻を十数回刺した。その後4人の子どもたちを刺し、橋から飛び降りようと車に向かったのだという。近所の住民によると、夫婦は1か月以上前からケンカが絶えなかったという。母親と16歳の娘は重傷だったが命を取り留めた。下の3人の子どもは比較的軽傷だったという。父親は10日間の精神鑑定が行われた。	○父親 (41) : バスドライバー ○母親 (35) : 3人の娘の父親は不明。再婚して現夫との間に男児をもうけた。 ○娘 (16) : 母親の連れ子 ○娘 (10) : 母親の連れ子 ○娘 (8) : 母親の連れ子 ○父母の実の息子 (6)
11	2011.01.25	カリフォルニア州 アメリカ	5歳女児	母親	母親が自宅で5歳の娘の首をナイフで切って殺害し、数キロ離れた橋の上から投身自殺した。母親は、2008年に元交際相手と親権を争ったことがあり、その他にも薬物乱用や幼少期の被虐待歴などがある。高校を中退しており、近所の住民によると静かであり人と関わらなかったという。知人は「いつも何かしらの問題を抱えていた」といい、2週間前に仕事を探して面接に来たが断ったという人もいた。	×母親 (23) : 未婚 ×娘 (5)
12	2011.05.19	アイダホ州 アメリカ	3歳女児	父親	父親が、車の後部座席に座る3歳の娘の頭を撃ち殺し、自分の頭を撃って自殺した。両親は結婚しておらず、2009年に親権争いをするも、2013年までは母親が主に養育することとなった。父親は面会権を得たが、母親は娘に会わせてくれなかったという。弁護士を介してようやく娘に面会出来るようになり、この日は朝から娘と会っていたという。母親への危害や脅迫はなかったという。	○母親 : 未婚。普段の養育は主に母親がしている ×娘 (3)  ×父親 (38)
13	2011.05.24	サンディエゴ州 アメリカ	17歳女児 7歳女児	両親	実際の犯行は父親が行ったとみられている。母親は睡眠薬を飲んだ形跡があり、かつ顔、頭部、背中、手首、腕、足に痣があったことから、水の張った浴槽に押しつけられた可能性が高い。長女は手首に痣があり、手錠をかけて裏庭のプールで溺死させられたと見られる。次女は、大量の鎮静剤、アレルギー薬、抗うつ剤を飲まされ、同じくプールで溺死させられたとみられる。父親はその後、一方を柱に縛った縄で自分の足を縛り、牽引道具を付けたワイヤーを首にくくり付け、背面で手錠をかけ、プールに入水した。両親はそれぞれ犯行の詳細なメモを遺しており、事後の処理や娘の葬儀服などについて書かれていた。父親はレッカー車の運転手で、動機は経済苦とみられているが、詳細は伏せられている。隣人によると、事件当日の朝5時頃に何か揉めているようだったという。母親の継父は「特に問題はなさそうだった。娘は働き者で良い母親だった」という。長女のクラスメイトも「何も異変は感じなかった」という。近所の住人も「仲の良い家族だった。全く異変は感じなかった」という。	×父親 (44) : レッカー車の運転手 ×母親 (38) ×長女 (17) ×次女 (9)
14	2011.06.21	サンディエゴ州 アメリカ	15歳男児 13歳男児	父親	父親が、それぞれの部屋で13歳と15歳の息子の頭を撃ち、家に火を付け、自分の頭を撃って自殺した。父親は元検察官だが退職し、フリーでライフコーチやセラピストをしていたという。4月以降、\$2,800の財産税を滞納していたといわれており、経済的に厳しかった模様。近所の住民によると、普通の仲の良い父子家庭だったという。	×父親 (49) ×息子 (15) ×息子 (13)  ○母親 : 離婚。
15	2011.06	サンディエゴ州 アメリカ	12歳女児 11歳男児	母親の 交際相手	身元不明の男性がフリーウェイから車ごと落ちて死亡しているのが見つかり、車の持ち主を調べたところ、そのアパートで41歳の女性、12歳の女児、11歳の男児が死亡しているのが見つかった。4人は1か月前に引っ越したばかりで、低収入だったという。	×母親の交際相手 ×母親 (41) : 高校の特別支援職員 ×娘 (12) ×息子 (11)
16	2012.02.05	ユタ州 アメリカ	7歳男児 5歳男児	父親	父親が7歳と5歳の息子と監視付きの面会中に、ワーカーを自宅から追い出し、子どもたちをなたで襲い、放火した。3人とも死亡。母親は2009年に行方不明になっており、父方の祖父が重要参考人とされた経緯があった。この祖父が盗撮と児童ポルノ所持の容疑により2012年3月14日に逮捕されたことから、父親は子どもたちの親権を失い、子どもたちの親権は母方の祖父にあった。父親は、子どもたちの親権を得るために、性的嗜好の偏りの評価を受けるように裁判所命令が出ていた。	○母方祖父母と同居していたと思われる ×息子 (7) ×息子 (5)  ×父親 : 当日は、子どもたちと面会中だった △母親 : 行方不明

ID	発生日	場所	被害児	加害者	事例概要	家族状況など ※「○」生存、「×」死亡 ※ライン下は別居
17	2012.06.09	カリフォルニア州 アメリカ	17歳男児 15歳男児 3歳児童	父親	インド元兵士の父親が、妻と3人の子ども(17・15・3歳)を撃ち、警察に自分で通報。警察の到着時には本人も自殺。妻と2人の子どもは死亡、17歳の息子は重体。父親は、1996年にインドで殺人を犯して、インドでは指名手配されていた。事件の1年前には妻の首を絞めようとしたとして通報されたが、その際なぜかインドへの引き渡しはされなかった。	×父親：小さなトラック業を営んでいた ×母親 ○息子(17)：高校生 ×息子(15)：高校生 ×子ども(3)：性別不明
18	2012.06.26	サンディエゴ州 アメリカ	16歳男児 11歳女児	父親	父親が、モーテルの一室で11歳の娘と16歳の息子の頭を銃で撃ち、自分の頭を撃って自殺した。知人によると、両親は離婚の過程にあったという。母親は事件直前に、父親から「自殺する」という電話を受け、モーテルに駆けつけたが、ノックしても返事がなく、警察に通報した。	○母親：(同居か否か不明) ×息子(16) ×娘(11)  ×父親(38)：(同居か否か不明)
19	2012.07.04	オレゴン州 アメリカ	11歳男児 13歳女児	父親	父親が、母親と13歳の娘と11歳の息子を射殺し、拳銃自殺。母親と2人の子どもは、4月23日より母親の実家に転居していた。5月に母親から離婚を切り出されて以来、父親は支配的な態度だったという。同僚に護身のために拳銃が欲しいと言い、使い方を教えてくれと頼み、「プライアン」という偽名で母親とネット上で親しくなり、夫と別れるのをとどまるように説得していた。事件前日、母親は、夫の元に戻るつもりはないことを「プライアン」に伝えている。また、この日の昼、母親は父親に、離婚調停を正式に申し込むことを伝えた。事件当日、父親はネットに「彼女が居なくなったらやっつけていけない」と書き込み、母親の遺体の写真を掲載した。サイトを見た友人が警察に通報し、4人の遺体が発見された。	×母親 ×娘(13) ×息子(11)  ×父親
20	2012.07.05	ニューヨーク州 アメリカ	5歳男児 4か月女児	母親	有名小学校の教員である母親が5歳の息子と4か月の娘に除水剤と車のガラス用洗剤を飲ませ、アパートの窓を閉め、ガス栓を開き、自分の手首を切った。2人の子どもは死亡。「子どもたちを"better place"に連れて行く」という内容の遺書が発見されている。	○母親(29)：有名小学校教員 ×息子(5) ×娘(4m)  ○父親：警察官、詳細不明
21	2012.07.06	ニューヨーク州 アメリカ	7歳男児	母親	母親が7歳の息子の頭をハンマーで殴り、冷めた口調で「子どもを殺し、自分も死ぬために薬を飲んだ」と通報。警察が到着したときには男児は死亡しており、母親は無事だった。母親には売春を含んだ33以上の前科があり、これまでに強盗未遂と窃盗未遂で服役している。近所の人によると、子ども思いの母親で、いつも一緒だったという。また、「自分は癌を患っており、一瞬で気分が落ち込むことがある」と話していたという。事件当日の朝は調子が良さそうだったという。交際相手によると、2011年に病状を考慮して墮胎した頃から状態が悪くなったといい、コカインを使用していたかもしれないという。	○母親(40)：売春を含んだ33以上の前科と、服役経験あり ×息子(7)  ○母親の交際相手：新聞配達員。男児が乳児の頃から母親と交際し、男児を育てたという。(同居か否かは不明) ○父親：別居。死亡した男児は、週末を父親のところで過ごす予定だった。
22	2012.07.28	マサチューセッツ州 アメリカ	9歳男児 7歳女児	父親	父親が、9歳の息子と7歳の娘を撃ち、拳銃自殺。9歳の男児は頭を撃たれたものの、生き延びた。何も知らない母親が帰宅すると、家はバトカーに囲まれており、混乱した現場で、母親は一時身柄を拘束された。父親は3-4週間前に母親と別れ、離婚の手続きはまだされていない。また、報道によると、失業したばかりだったとも言われている。	○母親：再婚し、父親との間に2子をもうける。元夫との間に25歳の娘がいる。 ○父母の実の息子(9) ×父母の実の娘(7)  ×父親(41)：IT関係の職業。3-4週間前に母親と別れた。失業していたとの話もある。(同居か否かは不明)
23	2012.07.30	ミズーリ州 アメリカ	11歳男児 9歳女児	母親	母親が、9歳の娘に1発と11歳の息子に数発発砲して殺害し、拳銃自殺。自宅で読書をしていた父親が銃声を聞き、駆けつけたところ3人が死亡しており911通報。母親は2日前に拳銃を購入しており、インターネットで自殺について調べた形跡があったという。動機としては、精神疾患と経済苦が疑われている。	×母親(42) ×息子(11) ×娘(9) ○父親：事件発生時、別の部屋に居た。
24	2012.08.22	ニュージャージー州 アメリカ	2歳男児	母親	母親が2歳の男児を刺殺し、切断した頭部を冷凍庫に入れ、911通報した後自殺。母親には薬物乱用と精神疾患があった。過去にも息子を車に残したまま、薬物により意識がなくなったと自ら通し、一時親戚が養育していたが、最近親権を取り戻したところだった。	×母親(33) ×息子(2)

## 我が国における自殺の現状と課題

国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所 松本 俊彦

## はじめに

今日、「自殺の現状と課題」というテーマをご提示いただいたので、親子心中には必ずしも関係しない、きわめて総論的な話を用意しました。

はじめに、親子心中のことについて、少しだけ話をさせていただきます。先程も川崎先生がおっしゃったように、親子心中に関するきちんとしたデータはありません。自殺に関連するデータで、全数統計として情報が比較的詳しいものと警察庁の統計がありますが、その統計にも「心中」のデータは上がってきません。心中事件では、重大な暴力事件の加害者という側面が出てきてしまうので、自殺統計に含まれているかどうか分かりません。この辺については、私も警察の方と話したことがないので、いずれ確認しておく必要があるのかなと思っています。

私自身も以前はよく精神鑑定をしていました。司法精神医学の文脈では、どうしても加害行為の側面は無視できないので、親子心中は「suicide-murder」という言い方をしますが、自殺予防の側面を重視した言い方としては、「拡大自殺」という表現が使われることもあります。同じような意味で、大阪教育大学附属池田小学校の宅間守のように「自分で死ねないから死刑になりたくて大きな事件を起こす」というケースもあります。これは「間接自殺」と呼ばれているものです。このように「拡大自殺」と「間接自殺」という概念を出してきますと、自殺というのは、単に自分に対する暴力だけでなく、かなり広範な、いわゆる暴力事件の連続的なスペクトラムを持つと言えるのかもしれない。

心神喪失者等医療観察法（以下、医療観察法）という制度のなかで専門医療機関に送られてくる、いわゆる「子殺し」事例は、未遂の場合も、既遂の場合もありますけれども、女性の患者さんの中ではかなりの割合を占める一群です。この人達の治療は、実はすごく難しいんです。医療観察法という法律自体についてもいろいろと議論がありまして、法律家の一部の人達は、根強く反対されています。その中で、最近よく言われているのは、「自殺者が多いこと」です。意外に、この制度の対象になった人は自殺者が多いということが言われます。

実は、このことについて法務省から相談され、いろんな分析をしたことがあります。その分析によると、この制度の対象者で自殺した人の中で特に多かったのは、入院になった人ではなくて、直接通院になった人だったんです。挙げられる要因として、まず一つに、きちんとした心理社会的背景のアセスメントをせず、十分な援助関係を作らないままに退院してしまったということがあります。それから、もう一つ無視できない要因は、対象行為が「子殺し」であるということです。

「子殺し」は、確かに暴力事件を起こしたという側面もありますが、その一方で、そもそものきっかけとして、本人が「死にたい」「自殺したい」という動機があったわけです。でも、自分は自殺に失敗して、生き残ってしまったんです。これが、非常に大変なんです。入院して、内省や様々なコミュニケーションを深める中で、うまくいったケースは自殺リスクを多少とも軽減できるわけですが、いきなり通院になった場合には、どれだけ手厚いアウトリーチ・チームをつけても、本人の心の壁の中にはなかなか入っていきません。その結果として、通院治療中に自殺してしまうという事例があります。

これは、なかなか悩ましいことですし、きちんと研究して報告をしたいという気持ちは常々思っているんですが、この医療観察法という制度における情報の取り扱いに関して慎重にすることが求められており、調査も容易ではありません。結果的に、子殺しに関する研究を進めるには、クリアすべき壁があるわけです。

ただ逆に言うと、医療観察法の対象ではなく一般刑法の中で裁かれた人のなかで、刑事責任能力に関する精神鑑定が行われた事例であれば、調査が可能です。松沢病院にいらっしゃる田口寿子先生が行った研究は、まさに検察庁に保管されているそのようなデータを用いたものといえます。

私自身も、鑑定書を匿名にして事例として提供することはできるのかなと思っています。私自身が経験した事例は、精神障害を抱えた方達の事件なので、必ずしも親子心中全体を代表するものではないとは思いますが、ただ、親子心中の背景にある女性が抱える生き辛さみたいなものを、少しは明らかにすることができるとも思いません。

精神障害がある場合、自殺かどうかよく分かりません。例えば、「子どもの首を切らないと世界が宇宙人に乗っ取られる」と思って子どもの首を切った後に、「自分も喉を切らないと日本が危ない」と思って自分の喉を切ったという事例があります。それを「自殺」と言っているのかどうか。悩ましいですね。

だから、自殺もそうですし、親子心中もそうなんですけれど、「何をもって心中というか」「何を持って自殺というか」、これを考え始めると研究のスタートのところからつまづいてしまうことがあります。これは実に悩ましい問題です。

冒頭に、こういった前提があるという話をさせて頂いて、親子心中という研究テーマに関する現時点における私の見解を述べさせていただきます。これから先は、自殺について総論的な話をさせて頂きたいと思えます。もちろん、子どもの支援ということで、できる限り、関係のあるトピックがあれば、そういったものも挙げさせていただくつもりです。

## 1950年以降のわが国の自殺

これは、わが国の1950年以降の自殺死亡率のデータです（図1）。

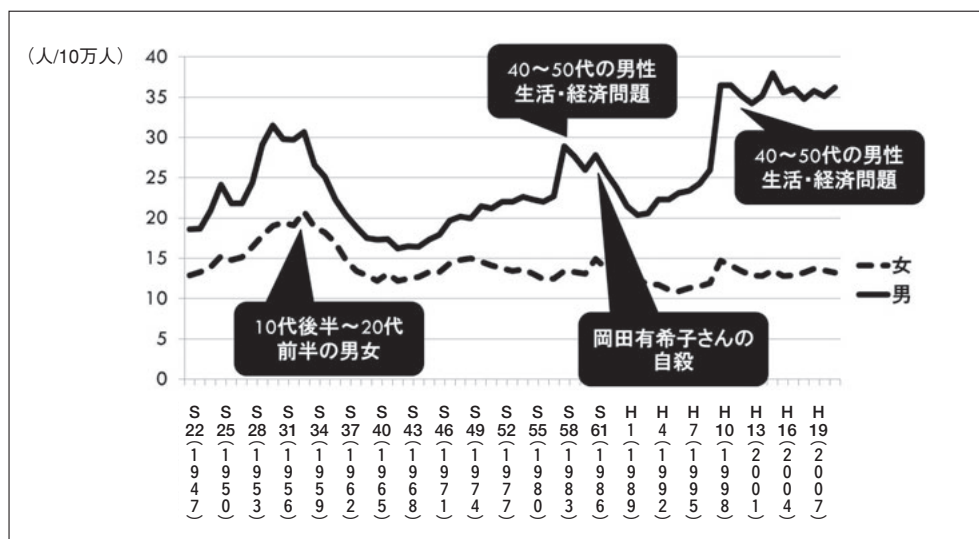


図1 わが国の自殺死亡率と自殺急増期の特徴

私達の研究所には、明治11年からの自殺死亡率のデータがありますが、どこまで信頼しているのかがなかなか分かりません。ただはっきり言えるのは、日本は自殺が多いと言われており、多い原因について「日本は腹切りと神風の国だからなんだ」という説明をする方がいらっしゃいますが、明治11年、武士の世の中からはそれほど時間が経ってない時代では、もっと自殺が少なかったんです。だから、腹切り・神風で説明するのはどうなのかな、と思います。

それから、「世の中が不幸だから、生きるのが辛い社会だから自殺が多いんだ」と言う人もいますが、日本の歴史上最も自殺が少なかったのは第二次世界大戦中です。実は、不思議なことに、皆が苦しいと逆に



自殺は減るんです。

## 震災と自殺

今危惧しているのは、震災後、自殺関係の講演会をするのがすごく厳しくなったことです。震災でもっと辛い人がいるじゃないか、勝手に死にたい奴は死ねばいいじゃないか、という議論は必ずあるんです。でも実は、この震災の後、次の一年間で自殺は多分減るのではないかと考えています。

中越地震の被災地の自殺を調べたところ、震災後の2年間は減っていました。妙な連帯感が生まれてきて、踏ん張ろうという気になる。人は、単に辛いから死ぬのではなくて、前と比べて辛くなったり、人と比べて辛くなったりすると、死にたくなるんです。だから、みんなが辛いときには、意外に支えられるという奇妙さがあります。中越震災の場合は、3年後に自殺が増え始めました。元々自殺のリスクが高かった人達のように。それから、家族を失ったのに災害活動を頑張っていたおじさんとかが、危ないです。あと、農業をしていたけれども震災で田畑が使えなくなり、長年親しんだ土地を離れ、屈折を経て、新居へ移った老人の方々です。この人達の喪失は、非常に大きいです。だから、これからなんだと思います。震災後、自殺が減って、3万人を切る可能性が高いと思います。それによって、「民主党政権が良かったから自殺が減った」という議論に展開することが、私は一番怖いと思っています。

## 福島県相馬市の場合

もっと怖いことがあります。実は私、先週、福島県相馬市の支援に行ってきたんですが、福島県相馬市、特に飯館村は、昔からすごく自殺が多いんです。色んな要因があると思いますが、その一つに、相馬地区の人達が、メンタルヘルスの問題について非常にネガティブな感情を持っていることがあります。そのきっかけは、明治時代の相馬事件<sup>\*1</sup>です。相馬藩の御殿様が統合失調症になり、そのことでいろいろ揉めました。これは、精神病患者監護法を作るきっかけになった事件です。住民達はそれをすごく恥に感じていると聞きます。そのせいか、みんなそういうところに助けを求めたくないという気持ちがあるようです。

3年前になりますが、私は南相馬市で自殺対策の講演会をしたことがあります。福島県庁の肝いりで開催されました。南相馬市の人達の自殺は特に多いから、福島県の力になりたかったんです。400人も入るホールを借りてくれたんですが、事前申し込みが100人くらいしかなくて、私が到着するなり、福島県の人達が「申し訳ありません、広報が足りなくて」と謝る始末だったんです。でも、いざ会場開いてみると、400人近い人が来ていました。これがどういう意味かという、県がやっている事業では事前に名前を書いて登録しなければいけない、それが嫌だったんです。ただ、周りで自殺が起きているのは気になってしょうがないので、当日いきなり来る人達が相当いたということです。

このような地区が、今回、すごく被災しています。本来自殺で死ぬ人が津波で死んでしまったかも分かりません。その影響で、見かけの自殺者数は減るかもしれない。あるいは、生き延びたけれども、依然として自殺のリスクが高くて、今後どうなるか分からない。

そういう意味で、自殺対策を息長くみていかなければと思っています。話が脱線してしまいました。

## 第一期の自殺ピーク

このグラフでは、戦後のわが国で、3つの自殺向上のピークがあったことを示しています（図1）。

---

\*1 旧相馬藩主・相馬誠胤を巡って1883年から10年以上も世間を騒がせた事件。誠胤の統合失調症（推定）の症状が悪化したため、1879年に家族が宮内省に自宅監禁を申し入れ、以後自宅で監禁後に、これを、癲狂院（現在の精神科病院に相当）へ入院させた。1883年、旧藩士の錦織剛清が主君の病状に疑いをもち、家族による不当監禁であるとして相馬家の関係者らを告発し、事件が表面化した。この事件が契機となり、精神衛生法の前身にあたる精神病患者監護法（1900年）が制定された。

一つ目は、昭和30年くらいです。この時、10代後半の方、20代前半の若者たちが多く命を絶ちました。これが何なのかは、よく分かっていません。戦争中に自殺はすごく減って、戦後数年経って経済が復興して安定してくると若者達の自殺が増えるというのは、第一次世界大戦後のドイツでもみられた現象です。ひょっとすると、子どもの時に人があっけなく死ぬのを見聞きするという体験が、ある種、価値観に影響を与えたんじゃないかという話もあります。あるいは、昭和20年ぐらいに、太宰治を始めとする無頼派の文学が若者に人気を博したのも原因になるのではないかと言う人もいます。いろんな説がありますが、結局のところ、分かりません。

その後、昭和33年には急激に終息していきます。この終息のきっかけについて、ある社会学者は「きっと皇太子さんが結婚したからだろう」と、変なことを言っています。ある社会学者は、自殺の時に若者達が残した遺書を、自殺の理由を知るために、分析して調べたんです。そうしたら、「好きな人との結婚を反対された。だから私は死ぬんだ」という内容の遺書が多かったそうです。戦前の結婚は見合いがメインでしたが、戦後、民主的な教育が入ってくる中で、若者達は恋愛結婚に憧れる世代になってきました。それで、価値観の異なる親子間で対立するんです。その中には、結婚を親に反対されて世をはかなむ若者もいた、ということです。一方、皇太子さんが結婚すると、「皇室だって恋愛結婚をするんだから庶民も仕方ないだろう」といった価値観の変化の影響で、自殺が減った、という説明も聞いたことがあります。でも、これにはわかには信じがたいですね。しかし、こうした話が出てくるくらい、自殺は、きわめて複雑な社会現象だということなんですよ。

## 第二期の自殺ピーク

その後、日本は高度経済成長期を迎えて、所得がどんどん増え、豊かになっていきます。しかし、1970年代には世界的な石油危機が2回あり、その影響で企業はかなりのダメージを受けました。それでも日本は、リストラを出さずに、終身雇用制、年功序列を守ってきました。

しかし、昭和50年代に入ってから、企業がリストラを始めました。それが、1980年代後半の、自殺の第2回目の急増に関係していると言われていています。このとき多く命を失ったのは、40代50代の働き盛りの中高年です。警察庁の調べによれば、背景には、生活苦・経済苦があったと言われていています。「やはり不況だと自殺が増える」「景気がよくなると自殺は減らない」といった意見もあります。

しかし実は、このとき命を絶った40代50代のおじさん達は、30年前、つまり第一次の自殺ピーク時に、自分の兄弟や友達や同級生を自殺で失っている人達なんです。これは、残された人達へのケアの大事さを示しています。コホート効果、つまり、自殺のリスクが強い世代は何年経っても自殺のリスクが高いという現象だろうと思います。

経済的な原因も大事だけれど、残された子ども達のケアという問題が出てくるんです。昭和30年の時には生き延びたけれど、その後、現実的な生きる困難におち当たった時に、やっぱりそういう選択をしているということです。

それからもう一つ、この第二期の自殺ピークに起こった有名な事件としては、1986年4月、当時のトップアイドル・岡田有希子さんの投身自殺があります。これはメディアによって非常にセンセーショナルに取り上げられ、テレビや写真週刊誌でかなりえぐい写真なんかも連日報道されました。そのような中で、岡田有希子さんの死後2週間以内に、全国で38人の若者が、皆同じ飛び降りという方法で命を絶ちました。自殺は伝染するということが分かったんですね。

これは、余談ですが、私は岡田有希子さんと同じ年なんです。知り合いでも何でもありませんが、同じ年なんです。そのとき私が何をしていたかという、私は神奈川県の小田原の生まれで、小田原の高校を卒業した後、浪人していました。浪人すると、多少不幸は不幸なんですけれども、私の場合は6～7割弱ぐら

いが浪人するひどい高校だったので、浪人仲間がいっぱいいて、4月に皆で集まって「勉強やる気しねえな」などとたむろして話していたんです。そうしたら、この計報が入ってきたんです。すごいショック受けましたね。まるで、自分の体の一部がちぎられて、その肉塊が思いっきり路上に叩きつけられたような錯覚にとらわれたんです。どっちかという、私は岡田有希子さんのファンじゃなかったんですけどね。それなのに、同年というだけで、確かに影響を受けました。

そういう意味では、同じように辛い境遇にある人達の場合には、やっぱり伝染はするんだろうと思います。特に、子ども達には伝染しやすいということは言われています。

### 第三期の自殺ピーク

その後、翌年からバブル経済に入っていきます。それで、日本はどんどん豊かになっていきます。暦上だと1991年に一応バブルが崩壊したことになります。でも、ただちには、貧しくなった感じはしなかったと思うんです。

たとえば私は、1993年に医者になって、横浜の大学病院で研修医を始めました。その頃、週末になると友達と飲みに行くわけですが、当時は、お金がなかったんで吉野家で牛丼を食べてつまみ代を浮かしてから飲みに行くという、何とせこいことをしていた記憶があります。その時、横浜の盛り場では、大企業のサラリーマン達がすごく賑やかで豪勢な合コンをよくやっていました。当時は企業の景気はずいぶんとよかったのだと思います。「ああ、医者なんかになるんじゃないかった…」と真剣に思った記憶があります（笑）。

でも、1995年くらいになるとさすがに景気が悪くなっていく感じがしました。1995～97年のことですが、当時精神科の臨床医をやっていた私が気付いたのは、精神科の待合室からおじさんがいなくなってしまった、ということでした。来ているのは、リストカットや摂食障害の若い女の子とか、いつも同じことを愚痴々々言うてくるおばちゃんとかおばあちゃんでした。まるで保険のきくホストクラブみたいな感じで、朝から晩まで女性患者ばかりを相手にしていて、男達は一体どこに行ったんだと思っていました。おそらく、企業でリストラが始まってくると、精神科受診のために平日休むことが厳しくなってきたんじゃないでしょうか。あるいは、健康管理センターに行くのすら厳しくなってきたのかもしれない。何故かという、健康管理センターの隣が人事課だったりすると、センターに出入りしていることがバレたら、それこそリストラの対象となる危険があったのかもしれない。

その中で、悪夢のような平成10年の自殺の急増が起きてきた……のかもしれない。もちろん、大量のリストラがなされ、その結果、職を失った人たちが辛いのは言うまでもないですが、リストラされずに会社に残った人達も、今度は1人当たりの労働が荷重になる、というかたちで追い詰められていきました。また、バブルの時に儲けた不動産屋の人達は、一夜にして多重債務者に陥るといった事態も起こりました。銀行にしても、金を貸す際の担保として取った土地の価格が急落することで、一気に債務を背負い込むことになって、実際に倒産する銀行も出てきました。当然ながら、銀行が企業に貸し付けできなくなれば、企業はますますリストラを敢行せざるを得ない。悪循環というわけです。

平成10年の自殺者急増に際して、最も増加が著しかったのは、40代50代の働き盛りの男性でした。図1を見て頂くと分かるように、男性の上昇の仕方が半端じゃない。以来、10年間ずっと40代50代の男達の自殺がやばいと言われてきました。ただ、実は2005～07年くらいを境に、中高年の自殺は減少へと向かいはじめ、自殺者の年齢は徐々に若年化していることが指摘されています。つまり、最も自殺死亡率の高い層が30代40代の男性へと変わってきているんです。こうした、中高年層の自殺が急増した後に若年化していくという、自殺中心年代の移行は、10年前に英国でもみられた現象です。英国の場合には、最終的には10代後半あたりにまで若年化したと言われてしています。そういう意味では、わが国の将来を担う若者の自殺が問題になるという意味では、危惧すべき状況は依然として続いているというべきでしょう。

## 自殺の要因は何か？

自殺には、地域差があります。都道府県ごと、あるいは市町村ごとに見てみると、いろいろなことが関係しています。図2を見てください。北東北の3県は非常に高いです。それから、鳥取とか島根も高いです。高知とか鹿児島、宮崎も自殺が多いですね。一方、東京や神奈川は自殺が少ないです。神奈川県の中だけを見ても、例えば、山北とか足柄、小田原の辺で自殺が多いですが、川崎や横浜では比較的少ないといった地域差があります。

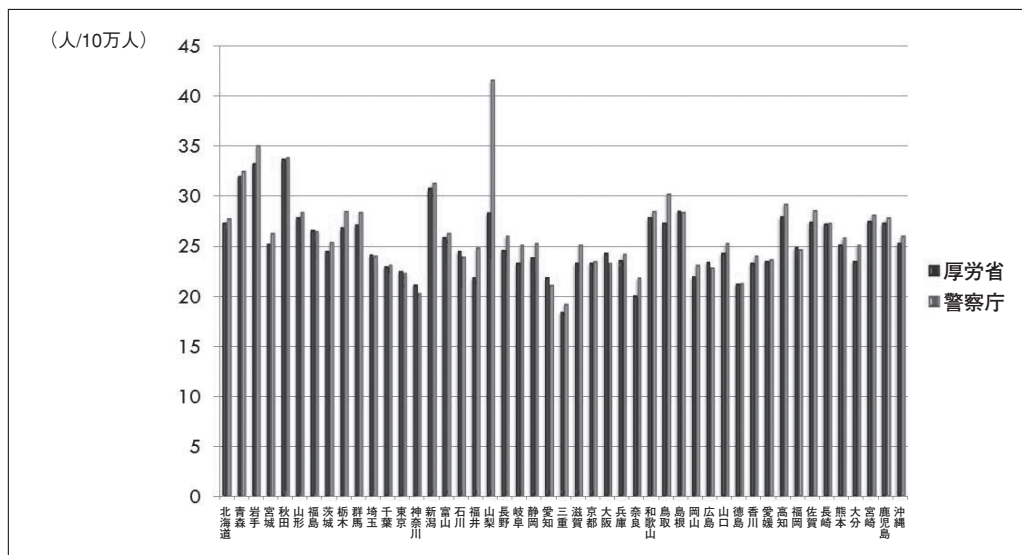


図2 都道府県別の自殺死亡率

何故、このような地域差があるのでしょうか。

自殺率の地域差を考える上で最も重要な要因は、その地域の高齢者の割合です。子どもが自殺すると周りが騒ぎ立てるので、若者が自殺しているイメージがありますが、昔から、世界中どこでも、自殺が多いのは高齢者です。さっき言った自殺が多い都道府県も、その多くが地域に産業がなくて、若者達がみんな仕事を求めて大都市に行ってしまう、住民の平均年齢が高い地域です。それが、まず一つ関係があります。

大切なのは、年代別、男女別に比較することです。例えば、自殺が少ないと言われる神奈川・東京の20代30代の自殺死亡率と、地方の20代30代の自殺死亡率を比較してみると、神奈川・東京の方が高くなります。だから、自殺死亡率のランキングだけで、何か言おうとするのはおかしいということです。

それからもう一つ、地域内におけるアルコール消費量が関係しています。都道府県ごとのアルコール消費量を見てみると、ダントツに多いのは東京と大阪です。しかし、東京と大阪でアルコールを消費している人のほとんどは、東京や大阪に住んでないという事実があります。つまり、東京の会社に勤めている方が、会社の帰りに新橋のガード下で飲んで、千葉や神奈川や埼玉の自宅に帰るといった現実があり、地域内のアルコール消費量は必ずしも住民のアルコール消費量を反映していません。したがって、アルコール消費量と自殺死亡率との関係を検討する際には、東京と大阪を除かなくてはなりません。そのようにして分析すると、県内のアルコール消費量と自殺死亡率を比較してみると、相関係数が0.58~0.60になります。これは中等度の有意な相関があると結論できる数値です。

もちろん、経済的な要因も重要です。例えば、一世帯の平均収入が低い地域では、自殺が多い傾向があります。それから、世帯主の給料が低い地域でも、自殺が多い。そして、これは男性陣が悪用しないことを祈るばかりなんですけど、世帯主のおこずかいが少ない地域でも自殺が多いです。まあ、これをそのまま受け取ると、「おこずかいを増やさないと自殺をしちゃうぞ」なんて脅迫が成り立ってしまいそうですが(笑)、これはおそらく収入を反映していると思います。

## 神奈川県の場合

昨年度、神奈川県における自殺について、神奈川県精神保健福祉センターと一緒に分析を行いました。

多くの先行研究と同様に、やはり市町村ごとの住民の収入と関係していました。興味深かったのは、住民あたりのコンビニエンスストアやファミリーレストランの店舗数が少ない地域は、なぜか自殺が多かったことです。この結果にもとづいて、自殺対策で「コンビニやファミレスを増やせ」という対策が提唱できてしまいましたが、これは多分、その地域住民の購買力を反映しているのだと思います。その意味では、これも経済的な要因が間接的に表現された結果であると考えられるでしょう。

ちなみに、川崎市の場合、住民一人当たりの収入は低いけれども、自殺率はそれほど高くないのです。例えば、住民の経済状況が同程度である県西地区の市町村の場合は、自殺率ははるかに高い。その違いはどこにあるのかというと、川崎市の場合、生活保護の受給者の割合が多いという点が挙げられます。他方、県西地区は収入も低いだけでなく、生活保護の受給者の割合も低い。もしかしたら、家持ちの農家が元々多くて、生活保護を受けようにも、持ち家があるから受けられないといった事情もあるのではないかと思います。しかし、それだけではなく、もう一つの要因も推測されます。つまり、行政からの福祉的支援を受けることに対する地域住民の偏見がないのか、という問題です。その結果、近隣の目が気になって、生活保護の受給に踏み切れない、福祉的支援を受けることができない可能性はないのかという点です。さらにいえば、そのような偏見が強い地域では、メンタルヘルスの支援を受けることに対する住民の抵抗感が強い可能性もないでしょうか。保健福祉サービスを提供するための窓口があっても、利用しない住民が多い、という可能性はないでしょうか。その意味では、単に貧しいだけではなくて、支援を受けにくい環境ということも関係しているように思います。

また、神奈川県では、住民の中で国民健康保険の加入者の割合が多い地域では、自殺者も多いです。公務員やサラリーマンでも自殺している人はいっぱいいますが、もっと問題になるのは、無職の人、自営業の人、零細企業の人、農業など第一次産業の人、こういった人達にやっぱり自殺は多いように推測されます。産業医がおかれていて、健康管理室のある、比較的規模の大きい企業に比べると、明らかに保健医療的なサポートが乏しいように思います。そうすると、こうした自営業などの方たちの健康管理をするのは、地域保健の援助者（市町村の保健センター）ということになります。近年、通称メタボ検診、すなわち特定検診の機会を活用し、うつや自殺、アルコールの問題もきちんと組みこんでいく必要があるのではないかと考えています。

## 精神科医師と自殺対策

これまで私が述べていたことをまとめると、要するに、自殺には本当に色んなことが関係しているということです。自殺対策の中で、「自殺で亡くなる方の9割以上が最後の段階では何らかの精神障害の罹患した状態にある」「だからメンタルヘルス対策が大事だ」ということがよく言われます。それは、私も否定はしません。その通りでしょう。しかし、それだけが問題ではないのです。例えば、借金が原因でうつになった人にただ一生懸命に抗うつ剤を飲めと言っても、抗うつ剤には抗多重債務効果はありません、残念ながら（笑）。そこは、「薬はいいから、金をくれ」というのが正直なところでしょう。つまり、うつになった、その上流の問題も、同時にサポートしていかなければならないということです。ともすれば、医者は1対1の精神的な一騎打ちで対応してしまっていますが、そこから上流の、例えば司法の専門家とか、地域の福祉の専門家とかに繋げていかなければいけない。

そういう意味で、誤解を招くのが怖いと思っています。なんでもかんでも原因がメンタルヘルスになってしまうことが。「うちの旦那は明るくてネアカで馬鹿だから絶対死なないわ」というような議論ではないと思います。

## 被虐待歴と自殺・自殺対策

もちろん、精神障害になりやすい素質みたいなものもあります。しかし、仮にそういう遺伝的な負因がなくとも、生育環境が劣悪だと自殺の率は上がります。まさに子どもの虹情報研修センターの先生方はよくご承知だと思いますが、若年者の自殺が多い危険子として非常に有力なのが、子ども時代の虐待の被害です。虐待やネグレクトを受けた人達は、自殺のリスクが非常に高い。

われわれの調査では、成人の自殺と子ども時代の被虐待歴も関係していました。結構オッズ比<sup>\*2</sup>が高い要因なんです。つまり、子ども時代の虐待は、大人の自殺にも関係してくるということです。最近、米国の有名な精神医学専門誌に掲載された論文では、アメリカで、虐待を受けた人の子孫も自殺のリスクが高いという結果が出ていました。同様の報告は枚挙にいとまがありません。

このことは、児童福祉や母子保健、子育て支援という活動が、それ自体、重要な自殺予防対策になってきた可能性を示唆しています。自殺対策がらみでいろんな事業をやるように、行政からプレッシャーがかけられていますが、実は、従来やっていたことが十分に自殺対策になっていて、それを一層頑張ればいいんです。たとえば、保健所は自殺対策のために新規の事業を興すよりも、従来の地域保健活動や母子保健活動をこれまで以上に力を入れるという考え方も十分に成り立つわけです。

とはいえ、ここが行政の難しいところですが、従来の事業を拡大するという理屈だと予算がつかないわけです。実は、保健行政の中では、最近おかしなことが起きています。例えば、自殺対策事業をやるために、既存の事業、例えば、母子保健の訪問回数を減らすとか、あるいは酒害相談（後で申し上げますが、アルコールも自殺の重要な危険子です）を閉じている市町村もあります。それで、新規の自殺対策事業をやったり、パンフレットやティッシュ配りを一生懸命やったりしています。「それが本当に自殺対策なのか」という、悩ましい問題があるように思います。

## 自殺の手段へのアクセスを減らす自殺対策

もちろん他にも、支援がなかったり、経済的な問題だったり、先ほど申し上げたようにメディアの情報というのも、とても大切です。有名な芸能人や政治家の自殺があると、必ず自殺が増えます。いじめ自殺の報道後も、必ず仲間の自殺が増えます。

それから、自殺の手段へのアクセスを減らすことも、とても大切です。1990年代のイギリスでは、10代後半から20代前半の若者達が、パラセタモール、つまりアセトアミノフェンが入った鎮痛解熱薬（日本で言うバファリン）を過量摂取して、命を絶つということがありました。実は、アセトアミノフェンは向精神薬を大量服薬するよりもはるかに危険です。腎臓障害を来し、一気に多臓器不全になってしまう可能性があります。しかも、海外の鎮痛解熱薬は、有効成分のアセトアミノフェンが、日本の市販品の5倍くらいの量が入っていますから、その危険性はなおさらです。こうした状況の中で、英国政府が行った対策は、製薬会社にお願ひして、アセトアミノフェンの薬品一箱あたりに入っている錠剤の数を減らさせたのです。さらに、1人の人が、1つの薬局で2箱買えないようにしました。実は、これだけの取り組みによって、10代の若者たちの自殺を減少させるのに成功したという、非常に有名な報告があります。

それから英国政府は、精神科病院における自殺を減らすために、精神科病院のカーテンレールを脆くするという対策も講じました。精神科病院内における自殺事例の分析をしたところ、病院のカーテンレールに首

\*2 オッズ比とは、生命科学の分野において、ある疾患などへの罹りやすさを2つの群で比較して示す統計学的な尺度である。オッズ比が1とは、ある疾患への罹りやすさが両群で同じということであり、1より大きいとは、疾患への罹りやすさがある群でより高いことを意味する。逆に、オッズ比が1より小さいとは、ある群において疾患に罹りにくいことを意味する。例えば、ある多型が疾患群100名中の40名で、健常群100名中の20名で認められたとする。このオッズ比は、 $(40/60) / (20/80) = 2.67$ となる。これは、ある多型において疾患群で出現するリスクが健常群に対して2.67倍高いこととなる。（福典之：FYI用語解説（ファルマシアVol.43.No.10）より転載）

をひっかけて自殺していることが明らかになり、そこで、病室のカーテンレールを脆くしたわけです。この対策で、精神病院における自殺は減りました。これはもちろん超水際対策ですが、やらないよりはやった方がいいし、それで未遂に終わった人達に対して集中的な支援をして補うことで、再企図を抑止することが、最終的に自殺死亡者を低減させるわけです。

同じように、「青い光が暴力犯罪を減らす」というところから、「青い光で自殺が減るのではないか」ということがよく言われるようになりました。横浜でもやっていますね。京浜急行のある駅のホームで、青い光の街灯を設置しています。本当に効果があるのかどうかはわかりません。私は、横浜市の人達に、絶対「ブルーライト横浜キャンペーンにしろ」という風に言っているんですけどね（笑）。

このように、自殺手段へのアクセスを減らすには様々な方法があるわけです。今日詳しくはお話しませんが、3年前に私共が極秘で関わったんですが、ベイブリッジからの飛び降り自殺が結構増えていた時期があって、その度に、実はプラス50センチの有刺鉄線の柵を作りました。そうしたら、年間二十数件あった数が激減したという事実もあります。他にも、横浜市営地下鉄や札幌市営地下鉄のホームドアも、同じような理由から有効な対策であったことがわかっています。

## 総合的な自殺対策

### ①メンタルヘルス対策に特化しない総合的な対策

以上述べてきたように、自殺対策というのは非常に広範に渡っています。だから、今行っている自殺対策のひとつのキーワードは「総合的」という言葉だと思います。「総合的な自殺対策」だと思います。今までは、自殺対策というとメンタルヘルスに対する単純な啓発で終わってしまっていました。国で言ったら厚生労働省、県で言ったら保健福祉局とか健康福祉局、市町村で言ったら障害福祉課、そういうところに特化していました。しかし、そうではなくて、全部の省庁が、横を串刺しにしてやってかなきゃいけない、その「総合」という意味があったんです。

### ②予防ばかりに偏らない総合的な対策

それから、もうひとつの「総合」という言葉があります。今までの自殺対策には、「心の健康づくり」とか、綺麗ごとを言っているような予防・啓発がありました。しかし、そんな綺麗ごとを言っている一方で、例えば、精神科医療機関には「死にたい」と言う患者さんが沢山来ていたり、リストカットを繰り返す患者さんがいたりします。救命救急センターには、「自殺したい」と言う患者さんが何度も何度も繰り返し来たりしています。そういった人達に対して、医療者がどのように対応してきたかと言うと、「ガッデム・シンドローム」\*3という言葉があるんですが、つまり医療機関では招かざる客として扱ってきたわけです。しかし、これに対してきちんと危機介入しないと意味がないよね、ということも言われるようになってきました。

### ③自殺の事後対応：遺族へのケア

加えて、事後対応があります。すでに発生してしまった自殺者の、ご親族へのケアについての話です。

実際に親族の方達と会うと分かるんですが、亡くなったご主人に対して、「自分が気付かなかったからいけないんだ」と思って、本当にいつまでも自分を責めています。あるいは、「なぜ亡くなったのか」と自問自答を何十年もされている。そういった遺族の人達もいます。残された遺族自身の自殺のリスクも高いですし、自殺とは関係なくても、非常に生きづらい中で、引っ越しをせざるを得ない状況があることもあります。地域、周りの目が気になってということなんです。

---

\*3 「ガッデム・シンドローム」とは、医療従事者が自殺未遂者に抱く「人の気を惹くためにやっているんだろう」「どうせ死ぬ気はないんだろう」などといった陰性感情のこと。

時には、うつ状態が深刻になって、精神科を受診することもあります。しかし、ここでは、援助者つまりサービスプロバイダーと、彼らとのニーズが食い違うことがあります。我々は「早く元気になって欲しい」「うつを治したい」「うつを治したい」と思っています。でも、彼らのニーズは「もっと話を聞いてほしい」「亡くなった人の話を聞いてほしい」と思っているんです。我々は「もっと元気になって」と思うけれど、彼らは「自分が気付かなくて旦那を死なせてしまった。だから自分は楽になっちゃいけない」と思っています。いつまでも不幸に留まろうとします。そこで、ケアのニーズが食い違ってしまいます。そういう意味では、医療だけではなく、もっと彼らのニーズに合ったグリーフケアも必要だろうと思います。

また、子ども達ももっと大きなダメージを受けています。お父さんが首を吊っているのを最初に発見してしまった子どもなんかは、本当に深刻です。子どもというのは、非常に、何でもかんでも自分に引き寄せて考えます。父親が仕事のことでイライラして怒った顔して部屋に入ってくると、子ども達は「私、何かしたのかな？」と思うわけです。だから、いつも玩具を片づけなかったり、宿題をしなかったりして怒られてきた子どもにとっては、ある日お父さんが首を吊っていたとなると、「自分が悪い子だからお父さんは自殺したんじゃないか」と思うんです。「自分は悪い子だ、悪い子だ」と思っているうちに、本当に悪い子になってしまったかのように見える人もいます。

私は、最近10年間ほど、ある少年鑑別所や少年院で定期的に診療を行っています。驚くのは、そうした施設に収容されている子どもの中には、親が自殺している子どもが結構多いということです。親が自殺すると子どもが非行に走るということを言いたいわけではなくて、子ども達の中には、メンタルヘルスの問題を、一見すると反社会的・社会逸脱的な行動で示すタイプの子もいる、ということです。

このような意味で、やっぱり残された人達のケアをしなければいけません。そういう意味での「総合」という言葉もあるということです。

#### ④自殺の原因は単純ではない

自殺対策を考える上で基礎となる考え方は、「自殺は追い込まれた末の死である」ということです。これは、例えば、奥さんが冷たくて自殺したとか、パワハラ上司に追い詰められたとか、そういう単純な因果関係を指しているものではありません。そのような出来事や状況が、いわゆる「最後のひと押し」になることはあり得たとしても、それだけが原因で人が自殺するということはまずありません。実際に行動を起こす人は、行動を起こすよりもずっと前から「死にたい」と思っていることが多いです。死にたいけれども、まだ可能性があるのではないかと迷っていて、何年も過ごしている。もっと言うと、死にたいと思うはるか前に「辛い」と思っているんです。そんな前から辛いと思っていたのに、「なんで誰も気付かなかったのか」「なんで本人も助けを求めなかったのか」「助けを求めることができる援助機関はあったのか」ということです。いや、あったかもしれません。でも、方法が足りないということだったのかもしれない。方法を知っているかもしれないけれど、周囲の、他の住民の偏見が強くて、とてもそこにたどり着けなかったという人もいるでしょう。

そう考えてみると、一人の自殺には非常に多くの人達が絡んでいます。全然関係ない人だからといって、その自殺に自分が関わっていないとは言えない訳です。そういう意味で、「一人一人の問題としてやりましょう」というのが、今の自殺対策の流れです。内閣府の官僚のような話をして申し訳ないんですけども、一応今の流れを伝えるためにお話ししました。

#### 実態調査の必要性和難しさ

さて、自殺対策を進めるためには、実態把握のための調査が必要です。

先ほど申し上げたように、自殺の実態を知るための全数統計は日本に2つあります。1つは、厚生労働省の人口動態統計です。これは、医師の書いた死亡診断書が保健所を經由して、厚生労働省に蓄積された訳で、



亡くなった方の住民票があった場所に依拠しています。だから、死亡した場所に関係なく、その人が住んでいた場所に反映されます。もう1つは、警察庁の統計（「自殺の概要資料」）です。これは事件地にに基づいています。例えば、富士の樹海で自殺する人のほとんどは他県の人ですが、山梨県に計上されてしまいます。そのため、山梨県の自殺者数は、警察庁の統計では全国1位ですが、厚生労働省の統計では平均並みになっています（図2参照）。

これらの統計は、全数統計という意味では実態を反映する優れたデータではありますが、何しろ変数が少なすぎます。確かに警察庁の統計は、原因・動機、さらには精神科治療歴や精神医学的診断名まで計上し、最近では、自殺者のなかで「うつ病XX人、アルコール依存症YY人」などと報告していますが、これについては警察官が捜査情報に基づいて勝手に判断しているものなので、本当に学術的に正しい情報かと言えば、かなりあやしいと言わざるを得ないところがあります。その意味で、警察庁が頑張っただけに細かく統計を出しすぎると、かえって不正確な情報によって対策の方向性がおかしくなる可能性もないとはいえません。一方、厚生労働省の統計は、非常に信頼性は高いけれども、情報が本当に少なすぎるんです。もう少し細かな情報が欲しいところです。しかし、死んでしまった人には口がないので、困ってしまうんです。

最もエビデンスとして価値の高い調査方法は、コホート調査（大規模な地域住民追跡調査）と言いますが、地域住民を10年間くらい追跡して、そこから自殺の危険因子を抽出する方法です。しかし、それは時間も金もかかる調査です。調査結果が明らかになる5～10年間、何の対策も打たずに、ただ調査結果ができるのを待つ、というわけにもいきません。

次善の策として、重症自殺未遂者を対象として調査をすることで、自殺の実態を明らかにしようとする研究もあります。しかし、重症自殺未遂者と自殺既遂者ではプロフィールが違ってきます。一般に、自殺既遂者は男性に多く、未遂者は女性に多い傾向があることが知られており、未遂者を既遂者の代理変数として用いるには、どうしても限界があります。

### 心理学的剖検による調査

自殺既遂者の実態を把握するために海外で広く行われてきた手法としては、「心理学的剖検」という調査方法があります。これは、既遂者と一番親しかった人や遺族の方に、この人の生き様・死に様について話を聞いていくという調査です。

これにももちろん、限界があります。どの遺族も、率先して協力するということはありません。私共も、3年間やって、結局、全国で76の事例しか集められませんでした。3年間で9万何千人の人が自殺していることと比べると、その中のほんの僅かです。しかし、それほど遺族が語りにくいという状況の中でも、話を聞いてみると、分かることがいろいろありましたので、この調査をやりました。

この調査は非常に手間のかかるものです。1人当たりの面接時間も平均して4～5時間を要します。非常に疲れる調査です。しかも、単に遺族に面接をするだけでなく、面接した遺族のケアも継続的にやっていかなければなりません。そこで、各地域の精神保健センターとタイアップして、調査をする人も精神科医と保健師、あるいは県に属している常勤の臨床心理士や精神保健福祉士で、2年1組での調査、つまり継続的な支援をするということによってやってきました。

さらに、対象群も集めました。同じような偏りの対象群をつけて統計的な比較をするため、集めた自殺既遂事例と年代・性別・住んでいる市町村が一致する生存事例を、住民基本台帳からランダムに抽出して、同意を得られた人の成人の同居人から情報を集めました。対象群にも同じ面接調査法を実施し、分析しましたが、お金も時間もすごくかかりました。こちらが本当に死にたくなるような調査でした（笑）。

その結果として分かったことを、非常にダイジェストな形でお話します。

### ①子ども時代の被虐待体験

表1の左側が、症例対照研究で明らかになった危険因子です。子どもに関係することを挙げると、やっぱり子ども時代の被虐待体験です。対象は成人の既遂自殺事例ですが、成人の場合ですら、幼少時期の被虐待歴は大きな危険因子となっています。それから、学校でのいじめというのも、虐待ほどではないけれども、ありました。

表1 心理学的剖検による自殺既遂事例の検討から見えてきたこと

	症例対照研究 オッズ比(95%信頼区間)	自殺既遂事例内での類型分析
精神医学的問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>●うつ病性障害 6.20(3.54-10.86)</li> <li>●アルコール使用障害 3.13(1.52-6.46)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●アルコール問題を呈した事例の特徴               <ul style="list-style-type: none"> <li>&gt; 中高年男性、有職者</li> <li>&gt; アルコール問題に対する治療・援助なし</li> </ul> </li> <li>●精神科受診事例の特徴               <ul style="list-style-type: none"> <li>&gt; 50%が精神科治療中</li> <li>&gt; 自殺時に向精神薬を過量摂取</li> <li>&gt; 若年者</li> </ul> </li> </ul>
社会・経済的問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>●返済困難な借金 38.43(4.96-297.97)</li> <li>●仕事上の悩み(異動・配置換え) 4.19(1.34-13.04)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●借金を抱えた事例の特徴(非借金事例との比較)               <ul style="list-style-type: none"> <li>&gt; 自営業、離婚経験、睡眠時のアルコール使用、援助希求の乏しさ</li> </ul> </li> <li>●有職者と無職者との比較               <ul style="list-style-type: none"> <li>&gt; 有職者: 中高年男性、アルコール問題、借金</li> <li>&gt; 無職者: 若年女性、未婚</li> </ul> </li> </ul>
生活歴上の問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>●幼少期の被虐待歴 5.34(1.59-17.93)</li> <li>●学校でのいじめ被害 3.59(1.45-8.88)</li> <li>●身近な人の自殺・自殺未遂歴 27.89(6.58-118.17)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●青少年事例の背景要因の分析               <ul style="list-style-type: none"> <li>&gt; 4~6割に不登校、いじめ被害</li> <li>&gt; 親との離別、精神障害の家族歴</li> <li>&gt; 過去の自傷行為などの自殺関連行動</li> <li>&gt; 不登校経験後75%が学校復帰</li> </ul> </li> </ul>

### ②身近な人の自殺・自殺未遂

そして何よりも、一緒に住んでいた身近な人に自殺・自殺未遂があることが、非常に大きなオッズ比を示し、重要な危険因子であることがわかりました。これは、20~50代くらいまでの自殺に、特に絡んでいます。

また、30代くらいの比較的若年者の自殺を見ると、「親が精神障害」「兄弟が精神障害」という人が目立ちました。実際に私が面接を担当した事例では、兄弟が精神障害で、親の関心がそっぴばかりに行ってしまうために、自分が辛くて、でも親が大変なのも分かっている、親をこれ以上苦しめたくないと思って頑張っている中で、やっぱり追い詰められてしまったという人もいました。

また他の事例では、お母さんが精神科にかかっている、過量服薬を繰り返して、いつも沢山服用して寝ていました。「お母さんがいつも寝てばかりいるのは、精神科なるものに行って怪しげな薬を飲まされているからだ」という風に思いこんでいて、でも本当は辛くて、リストカットを繰り返している。ところが、担任の先生がスクールカウンセラーに繋げようとする、泣いて、必死に嫌がるんです。何故嫌がるのかというと、スクールカウンセラーのところに行ったら最後、そこから先は精神科の道へ続いている、自分も精神科に行ってお母さんと同じ薬漬けになってしまう、そういう危惧からアクセス出来なかったんです。

そこで思ったのは、私たち精神科医は診察室で向き合っている患者さんのことだけを考えていけばよいとは限らない、ということです。同時に、そうした患者の背後にいる家族に対する目配りが重要かもしれない、ということです。これは最後に言いますが、自殺のリスクが高い子どもの背後には、自殺のリスクが高い大人がいるということです。家全体みんなが生きること辛い状況にあるということ、認識する必要があるということを思いました。

### ③男性の自殺既遂者

それから、表1の右側は、自殺既遂の事例だけを検討することで得られた知見です。自殺既遂事例の類型化を行う中でわかったことですが、働き盛りの男達、特に平成10年以降の自殺急増の中心層である40代50代の働き盛りの男性の場合には、うつ病対策だけでは不十分であるという可能性が見えて来ました。冷静に考えれば、うつ病というのは女性に対してより親和性があります。病院を受診している人を見ても、病院を

受診していない人を対象に住民調査をしても、女性の方がうつ病罹患率は高い。しかし、自殺が多いのは男性なのです。これは、やっぱり、アルコールの問題を無視できないということだと思います。

#### ④精神科治療の質の問題

また、自殺対策は、ともすれば「精神科へ行こう」キャンペーンになっています。うつ病の早期発見・早期治療ということで。

でも、精神科に行っている人も結構自殺しています。これも後で詳しく話しますが、精神科に行って死んでいる方達の1つの特徴は、亡くなるときにかなり致死性の高い行動、つまり首吊りや飛び降りをするんですけど、その行動をするときに、医者から治療薬として処方された薬をまとめて飲みしているということがあります。死のうと思って飲んでいるのかもしれませんが、それ以外の理由で飲んでいる人もいるかもしれません。いずれにしても、酩酊状態になり、衝動のコントロールが悪くなって、自殺既遂しています。特に、35歳未満の若年者で目立ってありました。

これが、「本当に今までのこの自殺対策でいいの？」というところですよ。私は、この話をあちこちの学会で言いすぎて、精神科診療所協会からすごく大バッシングを受けていますが（笑）、単に精神科治療につなぐだけでは対策として不十分であり、つないだ先の治療の質を向上させる必要があると思います。

#### ⑤若年者の自殺の特徴

私共の調査は一応成人を対象としていますが、一部のご遺族から「10代の自殺だけれど面接させて欲しい」と言われることがありました。親がそういう風に言う場合には、面接をやる場合もありました。

10代あるいは20代前半の比較的若年の若者達の自殺を調べていて思ったことがあります。まず、結構多くの人達が、学校時代に不登校とかいじめ被害を受けていました。家族の精神障害とか、過去にリストカットとか、致死性の低い自殺関連行動をやっていた人も多かったです。だから、それ自体は本気で自殺をするための行動ではなくても、長期的には自殺のリスクに繋がるという認識が、やっぱり必要なんだろうと思いました。

一番ショックだったのは、不登校の経験者が非常に多いんだけど、そのほとんどが学校に復帰していた、という事実でした。不登校の子達は、結構不登校のままだったり、学校をドロップアウトしたり、ずっと学校行けないまま続いたりすることが少なくありませんが、若年の自殺既遂者を見てみると、意外にも学校復帰した人が多かったのです。文部科学省や自治体の教育委員会は、ともすればスクールカウンセラーの効果を不登校児の学校復帰率で推し量ろうとするところがありますが、学校復帰というような表面的な行動をかえるだけでは、彼らの生きづらさの本質は何ら変化していない可能性はないのか、そのことを真剣に検討する必要があります。

#### ⑥アルコールの問題

そして、先ほども少し触れた中高年のアルコールの問題です。

確かに、亡くなる1年前にアルコールの問題があった方は、2割ちょっとしかいませんでした。でも、この2割ちょっとというのは、特異な集団なんです。他の8割弱の人は、10代もいるし、70代もいるし、仕事がある人も、仕事がない人もいました。男もいれば女もいました。でも、アルコールの問題があった2割ちょっとの人は、全員40代50代で、全員が男で、全員が仕事を持っていたんです。だから、働き盛りの男達を本当に防ぎたかったら、やっぱりアルコールの問題を無視できないということです。自殺予防の啓発用のポスターも、男達が誰も見ないような保健所や県庁に貼るのではなくて、新橋のガード下の飲み屋に貼ったほうがいいのかもしれない。

ちなみに、死亡1年以内にアルコール問題が認められた自殺既遂者は、1か月間における平均飲酒日数は28日でした。ほぼ毎日飲んでいて、飲んでいるお酒の量は日本酒に換算すると3.5合です。3.5合というと若干多い気がするんですけど、焼酎とか蒸留酒が好きな方からすると、うっかり濃いのを2杯飲んでいるといっちゃうかな、というくらいの量だということは理解してほしいですね。この中の8割の人達にはアルコール乱用もしくは依存の診断がついたけれども、つかない人もいたということが大事です。

この中には、うつ病を合併している人が多かったです。中には精神科に行っている人もいました。精神科で治療を受けていた人の治療内容を調べてみると、うつ病という診断名で漫然とうつ病の薬が出されているだけで、アルコールに特化した支援や助言は行われていませんでした。これには医者側の問題もあります。見逃しているんですね。日本の平均的な精神科の医者は依存症問題が苦手なので、苦手なものはどうしても無意識のうちに否認がはたらき、看過されやすいことが関係しているように思います。

また、離婚や借金など、現実的な困難を抱えている人もいました。勿論、人によってはアルコールが原因で、離婚や借金に発展した人もいました。でも、それとは逆に、離婚や借金の後に、その辛さに対処するためにお酒を飲んでいるという人もいます。そういう意味では、順番はどうあれ、現実的な困難の問題に酒が加わると、一気に問題の解決力が下がるということです。

それから、「眠れない」と言ってお酒を飲む人も多かったです。これは特に自営業の人達とか、零細企業の人達が多かったです。店の経営が悪くなってきたときに、精神科に行くために1日店を休むくらいなら、お酒を飲んで1日寝て、翌日頑張ってお店を開いた方がいいだろう、と。この中で、首が締まっていた人もいただろうということですね。

現実的に困難な問題を抱えながら踏ん張っていて、まさかそれがメンタルヘルスの問題だと思わずに、酒を飲んで過労して生きてきた人達が、首が締まっちゃうということです。だから、お酒に関する啓発も、とても大事なんだろうという風に思っています。

## 自殺とアルコールの問題

何故、アルコールが自殺の危険因子になるのか。アルコール依存症を抱えていると、離婚などで家族がバラバラになったり、仕事を失ったり、或いは重篤な身体疾患があったりして、自殺率が上がってきます。サポーターがいなくなったり、経済的に困窮したり、体が思うようにならなくなったりするリスク、つまりアルコールによる間接的な影響が出てきます。それから、元々うつ病がある方やパーソナリティ障害がある方は、お酒を飲むことでますます状態が悪くなりますし、連日大量に飲酒していると、二次的にうつ病が誘発されることも知られています。

また、酩酊によって衝動が高まってしまうこともあります。お酒の問題があった方は、最後に自殺行動するとき、お酒を飲んだ状態であることが多いんです。これがとても問題です。

東京大学の川上先生が以前に行った地域住民調査は、非常に興味深い事実を明らかにしています(図3)。例えば、うつ病の診断がつく人に「あなたは過去1年間で真剣に死にたいと思ったことはありますか?」と聞いてみると19.4%が「はい、あります」「死にたいと思ったことがあります」と答えます。じゃあ、「死にたいって思うだけじゃなくて、具体的にいつ決行しようとして計画を立てたことはありますか?」と聞くと、うつ病の8.3%の人が「あります」と答えます。「計画を立てるだけでなく、実際に行動を起こしたことはありますか?」と聞くと、うつ病の8.3%の人が「あります」と答えます。これはとても大事です。

我々精神科の医者が自殺のリスク説明をするとき、具体的な計画や準備をしているかについて聞きます。それがないときは、本人との信頼関係をしっかりと絆を深くすること、太くするということが大事なんですけど、計画を立てている場合は本人の身の安全を確保することが先になります。だから、計画を立てているうつ病の人は、ほぼ確実に行動を起こす訳です。それが未遂で終わっていたとしてもです。

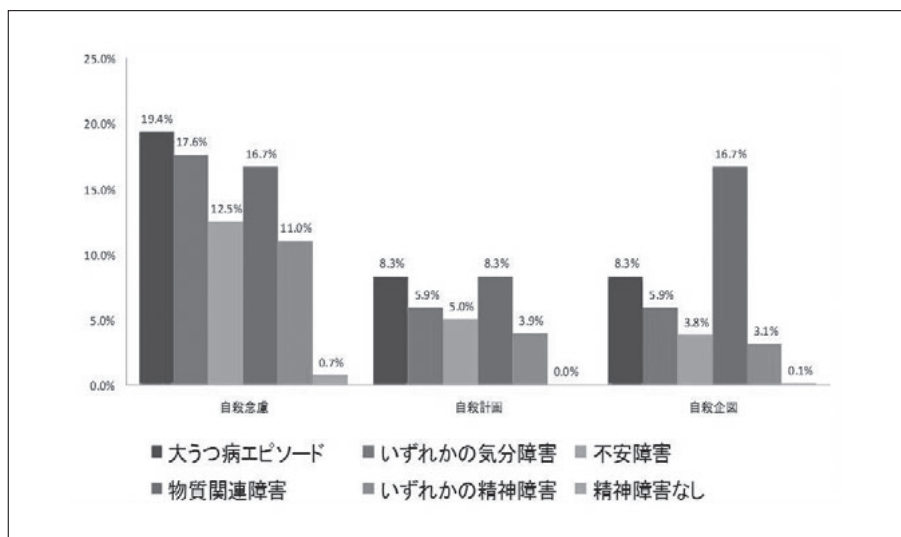


図3 物質使用は自殺への距離を縮める

(川上憲人, 平成14年度厚生労働科学研究報告書, 2003)

一方、依存症の人達に「あなたは過去1年間で真剣に死にたいと思ったことはありますか?」と聞くと、16.7%が「はい、あります」と言います。「死にたい」と思っても、人は実際に行動に走る訳ではありません。すぐに行動に走らず、悩んでいる時間が結構あります。ところが困ったことに、依存症の人は16.7%が行動を起こしているんですよ。もっと言うと「死にたい」と思っている人とほぼ同じ数字なんです。お酒で対処していると、「死にたい」という気持ちから行動までの距離が短くなってしまうということなんです。これも、とても大事なことだと思います。

このことから分かるように、衝動性を高めるといって、アルコールの直接的な薬理作用を考えてみれば、実は、依存症に罹患していなくとも、飲酒すること自体が自殺行動を促す可能性があるわけです。

例えば、ロシアでゴルバチョフ大統領になったときに、反アルコールキャンペーンをやって、ウォッカの販売制限とか、税率をすごく上げたり、飲酒運転をした人には罰をすごく重くしたりしました。これは非常に評判が悪い政策だったんですけども、この数年間はロシアの自殺は減ったという有名なエビデンスが出ています。

それから、アメリカは今、お酒にすごく厳しい国で、21歳にならないとお酒飲めませんし、ビーチや公園など公共の場でお酒を飲むことも禁じられていますが、昔は18歳で飲んで良かったんです。それが21歳まで引き上げられることによって社会にどんな効果があったかと言うと、10代の自殺が減ったという有名な論文があります。特に、19歳の自殺が減ったんです。

デンマークでも、流通上の問題で、食料品の価格は据え置きなのに、アルコール飲料だけは異様に高く、庶民はお酒が飲めなくなりました。この時には、デンマークの自殺も減っています。

フィンランドは自殺対策が非常に有名な国で、日本もフィンランドの政策をいろいろ真似しています。しかし、行政というのはどうも、アルコールのことを口にするのは嫌みたいです。私もアルコールのことを取材や講演で喋ったりして、国税庁から文句を言われたことがあります。インタビューを受けても、週刊誌などですと、スポンサーに関わる酒造メーカーから圧力がかかって、記事の修正を求められることがあります。ノルウェーも同様です。ノルウェーでは、国民一人当たりの年間のアルコールの消費量が純アルコールにして1リットル増えると、その年の男性の自殺死亡率が16%上がるということが明らかにされています。純アルコールが1リットル増えるというのは、1日当たり確か、ビールを50mlくらい余計に飲む感じですよ。それで、その年の男性の自殺が16%増えてしまうということなんです。そういう意味では、アルコールの問題はもっ

ともっと考えた方がいいんじゃないかなという風に思っています。

それで私は、地域住民にこういう啓発をしましょうという話をよくしています。これは一般の人達に知ってほしいんです。或いは、かかりつけのお医者さん達に知ってほしい。別に、「お酒を飲むな」とは言いません。「人生、上手く行って、金も商売も儲かってしょうがない」という人は、いくらお酒を飲んでも、急に死にたくなるという人はいないと思います。せいぜい六本木の真ん中で、裸になって叫んだりすることはあると思います。(笑)

しかし、追い詰められて「さあこれからどうしよう」というときに、飲みながら考えないで欲しいということです。素面<sup>しらふ</sup>で考えても解決できない問題を飲みながら考えるというのは、実はとっても危険で、非常に自己破壊的な結論に至りやすいんです。だから、とにかく飲みながらことを考えないこと。

それから、会社の同僚や部下達に「こいつ悩んでそうだな。よし今日はこいつと話し込んでやるか」というときに、「一緒に晩飯を食おう」という話になるんですけど、これも危険です。人事課の人達の中には、カラオケまで行って笑顔で「さよなら」をしたのに、その朝方に自殺されたと言う方もありました。だいたいそうなんです。皆、飲んでいるときはハイになる、楽になるんですよ。だけど、酔いの後半は、必ず気分がガンと落ちます。でも、一方アルコールは残っているので衝動は高まっているんです。したがって、悩んでいる同僚や部下がいたら、ディナーじゃなくてランチで話を聞け、ということです。それから、眠れないんだしたら、お酒を飲んで寝るんじゃなくて、ちゃんと専門家に相談しよう、と。「でも睡眠薬は依存性があるんでしょ？」と言われます。確かに依存性はあるけれども、お酒よりはるかに少ないことは間違いありません。お酒を飲んで寝ているときは、脳波的には睡眠の脳波になっていません。ただ気を失っているだけで、寝ているのは異なり、心の疲れは取れないということです。

ただ、かかりつけの内科の先生に「眠剤だけ下さい」と言うのは実は危険だと、私は思っています。うつの症状としての不眠であれば、きちんとうつの治療をすべきであって、最初に眠剤を使ったとしても、最終的にはそれを離脱することが目標だということです。専門家(要するに、精神科医)に相談してほしいです。

では、「どれくらいのお酒なら飲んでいいのか」という話です。それは、飲まないに越したことはありません。でも、そう言うと、地域住民向きの講演会では一気に空気が悪くなってしまいます(笑)。アルコール依存症の専門家の中での適正飲酒は、日本酒にするとだいたい1合までです。でも、1合と言うと皆の表情が暗くなるんですね(笑)。最近、嫌われるのは嫌なので、「2合までいいですよ」と言っています。

根拠は一応あります。かつて、国立がんセンターが行った大規模な住民のコホート調査があって、その中で、どのくらいのお酒を飲む人が「自殺をしない率」が高いかを見ると、全く飲まない人が一番高いのではなくて、3日で1合飲む人が「自殺をする率」が1番低かったんです。1日に1/3合を飲む人です。でも、美味しい海の幸を並べられて「1/3合だけ飲め」と言われたら、余計に気持ちが暗くなりそうなんです(笑)、一応統計上はそうになっています。

全くお酒を飲まない人は、意外に自殺の率が高いんです。ただ、よくよく調べてみると、全くお酒を飲まない人は、体の病気があってお酒どころじゃない人や、お金が全然なくて酒どころじゃない人、それから、昔はお酒をむちゃくちゃ飲んだけどここ数年間は飲んでないというような人も含まれていました。意外に、リスクが高かったんです。

では、どのくらいの量を飲んだら自殺の率が上がるのかを見てみると、だいたい日本酒にすると2合半よりも多く飲んだ人が、自殺率が一気に上がります。つまり、2合半を超えないことがとても大事です。ただ、地域住民にプロモートするときに2合半ぎりぎりだと危ないので、少し余裕を持たせて「2合まで」と言っています。少なくとも、一般の地域住民に対して啓発する場合には、この量は比較的受け容れられやすいものではないかと考えています。

## イネイブリング理論<sup>4</sup>の誤解

アディクションの支援をしている人達に私が伝えたいと思っているのは、イネイブリング理論が「突き放しが大事だ」「底つきが大事だ」と言って悪用されて、皆で突き放し過ぎて支えが本当になくなって死んでしまう人もあるということです。特に、憎しみをこめて突き放しをする人もいます。しかし、これはあくまで支援のための作戦です。家族と共依存になってしまっている関係があるのに対して、「家族が手を離して下さい」と言って、その代わりに「我々がアウトリーチかけます」「本人に声かけしに行きますよ」などと言います。これをしないと、死んでしまうんだということです。本当に関係性がなくなったら生きている意味がなくなるわけで、それはまずいということです。

それに、「底つき」については、皆で蹴倒したりとかすることを「底つき」と思っている人もいますが、これは違います。依存症の患者さん達も、一番の「底つき」は家族と別れたことでもないし、仕事を失ったことでもなかった、と言っています。自助グループに入れられて「アル中とか薬中とかの中にいるのやだなー」と思いながら、いやいやグループに出ていた。でも、一番いやいや言っていた自分が最初にスリップしてしまった。そのことをグループメンバーに正直に言えず、ずーっと内緒にして「薬は止まっています」と言っていた。そんなある時、すごい罪悪感に押しつぶされて、勇気を出して正直に「薬ずっとやっています」と言ったら、いきなり仲間がハグしてくれて、「正直に言ってくれたよ！ありがとう！これから一緒に頑張ろう！」と言われた。その時に初めて「底つき」だったと言っていました。「やっぱり俺は仲間がいないとダメだった、やっていけないや」と思ったそうなんです。だから、「底つき」というのは援助の中で体験するものであって、騙し討ちみたいにしてプログラムに繋ぎながら、皆で失敗しながら、徐々に徐々に問題を深めていけばいいということを、もっともっと強調する必要があるんだということです。

## 依存症治療の際の留意点

私は、神奈川県立の依存症専門病院に勤めたことがあるんですが、その当時、調べてみると、アルコール依存症の患者さんの1割、薬物依存症の2割の方が、「チャンスがあれば今すぐにでも死にたい」と考えていました。これは無記名の自記式アンケート結果です。今考えると恐ろしいですね。自分の患者さん達だったから、無記名の調査でも誰がそう答えたか分かるんですよ。その答えた人達がどういう治療をしていたかという、だいたい入院中に看護婦さんのおしりを触って強制退院になっていたり、外泊中にお酒を飲んできたり、要するに、ならず者でした。ならず者な人ほど自殺をする率が高かったんです。何で彼らがならず者だったかという、そもそも生きることに望みがない。生きることに望みがない人が、真面目に酒や薬を止めようとする訳がないじゃないですか。実は、我々は単に「まずお酒をやめよう」「まず薬を止めよう」ではなくて、「まず生きよう！」から始めなければいけなかった。酒や薬を止める止めないの前に、「死なない」ということを中心としたことを聞いていく必要があるんだろうということです。

実際、今あちこちのダルク（DARC）<sup>5</sup>で問題になっているのは、真面目に薬を止めていく人達が自殺してしまうことです。施設の代表者を努めているような方でさえ、自殺してしまった方がいます。特に、小さい時に虐待を受けた人は、生き延びるために薬を使ったりしているので、急に真面目に薬を止めて、あと根性論でやれと言われてしまうと、生きていくことが本当に大変になってしまいます。

あと、これは断酒会の調査ですが、断酒会員の精神的な健康度を調べています。例会に積極的に参加することが自殺のリスクを下げる、精神的な健康度に関係するのかなと思っていたら、そうでもありませんでした。

\*4 イネイブリングとは、依存症者を手助けすることで、かえって依存症の回復を遅らせてしまう周囲の人間の行為のこと。

\*5 ダルク（DARC）とは、ドラッグ（DRUG=薬物）のD、アディクション（ADDICTION=嗜癖、病的依存）のA、リハビリテーション（Rehabilitation=回復）のR、センター（CENTER=施設、建物）のCを組み合わせた造語で、覚醒剤、有機溶剤（シンナーなど）、市販薬、その他の薬物から開放されるためのプログラムを持つ民間の薬物依存症リハビリ施設のこと。

一番オッズ比が高かったのは、親にアルコール問題がないことだったんです。女の子の場合には、断酒期間などは全然関係なかったです。だから、酒を止めても、いわゆるACの人達は生き辛さがずっと続いているなと思いました。そういう意味では、やっぱり本人とだけの一騎打ちの勝負ではなくて、家族全体をサポートするという視点が必要だと思いました。

## 若年者の「自殺」

あと、これも大事なことだと思っています。比較的若年の自殺既遂の人達を見ると、やっぱり10代にこういった経験をした人達が多いんですね。

我々があちこちの中学生や高校生を対象に行う調査では、1割がリストカットの経験がありました。1回以上は、ということです。そのうちの6割が10回以上リストカットをやったことがありました。勿論その中でも一番深刻な人達には虐待のサバイバーなども相当多いんですけども、一部の流行で、余り病理的要素のない子達がリストカットをする場合もあります。

「自傷」と「自殺」は何が違うのか、ということです。「自殺」は、死ぬことを意図して、このくらいやれば死ぬという致死性の予測を持って、客観的に見ても致死的な手段でやることです。「自傷行為」とは、辛い気持ちを楽にしたいとか、誰かに気付いてもらいたい等、自殺以外の意図で「これくらいだったら大丈夫だよ」と非致死性の予測を基に、客観的に見ても致死性の低い手段でやります。少しメタ心理学的な言い方をすると、「自殺」は、永遠に続くかと思われるような困難や苦痛に際して、自殺することが「自分に残された唯一の解決策」と思い込む中で行われる。一方、自傷行為をする人達の多くはこれとは違います。ある研究者によれば、自傷すると脳内麻薬が分泌されて、辛い気持ちが楽になって心の痛みは治まると言います。現実的な苦しみは何も変わらないけれど、苦痛に過剰適応することができる訳です。辛い気持ちになったときにパニックになってどうしようもない、そういう時に自傷行為をすることによって意識がもう一回まとまって、正気に戻ることが出来るということです。

しかし、それでは、自傷は自殺とは異なるわけだから放置しておいてよいのかと言えば、それは違います。英国のある研究者が行ったメタ分析によれば、10代で1回でも自傷行為をしたことのある若者は、10年後に自殺未遂をする確率がオッズ比にすると、だいたい400倍から700倍高くなるということです。行為自体は自殺とは違うけれども、やっぱり自傷と自殺に共通しているのは何かというと、ハッピーな奴はやらないということなんだと思います。やっぱり、何か辛いことがあるとやっているんだということです。援助者はどうにかしてグロテスクなリストカットなどを止めさせようとするけれども、問題はそのような表面的な問題行動にあるのではなく、その背後にある現実的な困難だということを、援助者の中で共通認識として持つ必要があると思います。

これは、学校現場でも相当な問題になっています。どういう風にこれを扱えばいいのか。これもまた英国における調査結果ですが、自傷したことのある子達に「あなたは自傷行為について誰かに告白したことがありますか？ 相談したことがありますか？」と聞くと、友達がいる子達は友達には言っていました。でも、親や学校の先生、カウンセラー、医者などには、ほとんど言っていませんでした。どういう風に友達に言うかということ、「親友の貴方だけに伝えるから、絶対大人には言わないで」と言うんです。言われた友達は「私は親友だから絶対に秘密を守る。その代わりもうリストカットはしないで」とお願いします。でも、繰り返しちゃうんです。それを繰り返すうちに何が起こるかということ、友達の方が裏切られたということでブチ切れて、その友達を失うんです。友達にしか言わなかったために、気付いてみると、その子はクラスで孤立してしまいます。友達がいなくなって、ますます行為がひどくなっていきます。それから、熱心に話を聞く友達の中には、自身が精神的な病理を持っている子がいます。一生懸命に話を聞いても自傷行為が止まらないため、自分を責めるようになって、気付いたら自分も自傷するようになってしまった。そういう風にして、教室の



中で自傷行為が伝染して広がっていくことがあります。友達にしか言わないということが、こういったいろんな困難を招いています。そこを変えないといけないと思います。

そのために、子ども達に対してメンタルヘルス教育をしなければいけないということは、よく言います。では、どんなメンタルヘルス教育をしたらいいのか。文科省の人達はどうしても、爺さんを連れてきて命の尊さについて滔々と話をさせる。道徳教育にいつてしまうんです。性教育で有名な岩室紳也先生も、子ども達に命の尊さなんか伝わらない、「お前が大事だ」と言う方がはるかに生きる気持ちになる、と言っています。

実は、自殺のリスクの高い子達に命の大切さについて講義することは一番害がある、と言われていています。何故かというと、「命が大切なら何で俺は親からこんなにぼこぼこに殴られないといけないんだろう」「ああ、俺の命は大事じゃないんだ」という風になってしまうからです。あるいは、助産師さん達を連れてきて、生命誕生の喜び、「みんな歓迎されてこの世に生まれてきたんだよ」というロールプレイを無理やりやらされたとします。でも、自殺のリスクが高い子達は「あんたなんか産まなきゃ良かった」って言われているんです。そんなロールプレイをやるたびに死にたくなってしまいます。そういう当事者周辺の人達が辛くなるような教育をするのではなくて、「自傷行為は正しいものではないけれども、人間うつになったり、自分を傷つけたくなったりすることがある。マサチューセッツ州では、もしも友達が自傷行為をしていたら、見て見ぬふりをせずに、必ず声をかけてあげよう。力になりたいと言ってあげよう。でも、それは子ども達一人で解決できる問題じゃないから、『誰にも言わないで』と言われても必ず信頼出来る大人につなげよう」という15分くらいのビデオ・DVDを作って、休み時間中に流すということをやっています。関心がある方は、そのDVDに日本語字幕をつけたものと、マニュアルの日本語訳の本を、私が金剛出版で出しているのを見て頂ければと思います。<sup>\*6</sup>

これは、先ほど申し上げたように、自殺傾向のある子どもの背景には自殺傾向のある大人がいるんだ、ということです。一番の問題点は、自殺のリスクの高い子どもは高校一年生くらいでドロップアウトしてしまうということです。学校からドロップアウトした若者がその後辛くなって、福祉事務所や保健所、青年育成センターなどに、自分の足で行ったりはしません。家族の保護的な機能はすでに壊れていますから無理なんです。だからこそ、そういう家庭に地域保健の人達が入りこむことによって、「地域にはこんなに助けてくれる人がいるんだ」ということを伝える、そういう場にすることが大事だと思っています。

また、こういう自傷する子達の特徴として、長く自傷している子達は過量服薬を繰り返すことがあります。医者にかかっている子は医者から出された薬を、医者にかかってない子は市販の薬（風邪薬・痛み止め）を飲みます。これは一つの問題で、精神疾患的なもので亡くなっている人達は、治療薬を過剰摂取した状態で亡くなっています。命を守るために医者が出した薬が、逆に背中を押す状態というのは、一体何なんだろうということです。これは精神科診療の一つの問題だと思っています。

勿論患者さん側の病理もあります。例えば、ある患者さんが来て、「最近夜眠れないんです。胸が急にドキドキしちゃって辛いんです」「そうですか、じゃあいいお薬があります。デパスです」と、デパスを2週間分出します。もしくは、ソラナックスを3錠、毎食後に出す訳です。それで2週間後に来て「先生あの薬飲んだらすごく楽になりました。夜も眠れて。本当にありがとうございます。また出して頂けますか?」「はい、分かりました」と言って、2週間分を出す。そして永遠にデパスとの付き合いが出てくる訳です。勿論デパスを続けて出すことが悪い訳ではありません。調子が悪くてテンパっている時は、本人は自分の生活を振り

---

\*6 松本俊彦（監訳）、今村扶美・勝又陽太郎・木谷雅彦・赤澤正人・廣川聖子・菅原靖子（訳）：ダグラス・ジェイコブズ、バレント・ウォルシュ、モイラ・マックデイト、シャロン・ビジョン（著）「学校における自傷予防～『自傷のサイン』プログラム実施マニュアル」。金剛出版、東京、2010（翻訳書：Jacobs D, Walsh B, MaDade M, Pigeon S: Signs of self-injury: ACT to prevent self-injury high school implementation guide and resources, Screening for Mental Health, Inc. and The Bridge og Central MA, 2007）

返れないので。でも、お薬を飲んで楽になった時に、「そういう症状が出るということは、何か困ったトラブルを抱えているんじゃないですか?」「少し話してみませんか?」というような関わりが大事なんだと思います。やっぱり薬は一時的なものであって、最終的に癒されるのは関係性なんだということです。

私が駆け出しの医者として精神科病院に勤務したときにいつも思ったのは、新しい入院患者さんが入ると、不眠時の薬を1番から3番まで、不穏時の薬を1番から3番まで書かされるんです。それを書かないと看護師さんに文句を言われます。それで、実際に患者さんが「眠れないんです」「辛いんです」と言って来ると、不眠時の薬1番とか不穏時薬1番とかが渡されます。それで効かないと、5分後にまた来るんです。それで不穏時薬2番が渡されたりします。入院中にすっかり薬漬にされるということなんです。この頓服薬は一体誰のために出すんだろうか。絶対いけないと言う訳じゃありませんが、なにも3番までは必要ないんじゃないかということです。これが誰のためかという、夜勤の看護師のためと当直医が夜たたき起こされないためですね。そういう、一種の精神科病院文化を変えていく必要があるんだと思います。

また、医療関係者が、自殺リスクの高い若者たちの挑戦的、挑発的態度に対する忍容度を高めて行く必要もあるでしょう。自傷や過量服薬を繰り返す若者達は、医療者や権威ある大人に対して、ともすれば挑戦的、挑発的な態度をとりやすく、こうした態度が、救急医療スタッフが彼らをメンタルヘルス支援にしっかりとつながない一因となっていることもわかってきました。こうした事態に対する英国救急医学会が始めた職員研修のテーマが実に面白いのです。自殺のリスクが高い子ども達の挑戦的挑発的な態度に耐えるトレーニングをするんです。「くそつたれ!」と言われても深呼吸しながら前を向くとか、キレないようにするとかです。こういう子達というのは小さい時に大人たちにいっぱい裏切られているので、支援者と会っても、短い時間では人をすぐに信用することが出来ません。人よりもまだモノを信頼します。その中で、すぐに薬で問題を解決しようとする、向精神薬の乱用とかが出てきてしまう。やっぱり繋がりを作れる時間がとっても大事だと思います。

### 自殺対策への課題

今は「精神科に行こう」というキャンペーンがイコール自殺対策になっていますが、実際に私が課題として考えていることは、すでに触れたように、行った先の援助の質の保証が大事ではないかということです。それから、総合的な自殺対策がとても大事です。でも怖いのは、メンタルヘルス対策がその総合の中のごく一部になってしまって、メンタルヘルス対策がうつ病対策に全部置き換えられてしまっていることです。あとは、多重債務対策や介護の対策などになってしまっています。

メンタルヘルス対策自体も、これまでのうつ病対策一本槍ではなくて、リストカットや過量服薬、あるいは、アルコール問題のような問題に対する対策も含めたものにならないといけない。いずれの問題も、平均的な精神科医療関係者が苦手意識を持っていて、忌避している領域です。こうした苦手分野の克服こそが求められている、と私は思っています。

少し長くなりましたが、私の話は以上です。

## 資料4

### 「親子心中」事例の検挙状況

警察庁生活安全局少年課が報告している「児童虐待及び福祉犯の検挙状況」では、「保護者が、児童と共に死ぬことを企図し、児童を殺害（未遂を含む）して自殺（未遂を含む）を図った場合（いわゆる無理心中）」を、児童虐待事件の検挙実数の外数として平成15年から計上している。以下、その数値を表にまとめた。

#### 1. 検挙状況

	H15年	H16年	H17年	H18年	H19年	H20年	H21年	H22年	H23年	計
検挙件数	46	47	37	43	38	36	39	29	28	343
検挙人数	49	50	37	45	40	36	39	30	28	354
被害児童数	66	63	45	57	60	49	53	37	35	465

#### 2. 被害児童死亡事件の検挙状況

	H15年	H16年	H17年	H18年	H19年	H20年	H21年	H22年	H23年	計
検挙件数	37	32	24	35	26	28	27	23	20	252
被害児童数	51	41	29	44	43	39	37	29	26	339

#### 3. 加害者と被害児童との関係（被害児童が生存した事件も含む）

	H15年	H16年	H17年	H18年	H19年	H20年	H21年	H22年	H23年	計
実父	10	6	8	8	7	9	6	6	7	67
養・継父	1	1	0	1	1	0	0	0	0	4
その他（男）	0	0	0	0	0	1	1	0	0	2
実母	38	41	29	35	29	25	31	23	20	271
養・継母	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
その他（女）	0	2	0	1	3	1	1	1	0	9
計	49	50	37	45	40	36	39	30	28	354

#### 4. 被害児童の年齢（被害児童が生存した事件も含む）

	H15年	H16年	H17年	H18年	H19年	H20年	H21年	H22年	H23年	計
1歳未満	11	10	9	4	5	6	3	4	6	58
1歳	4	6	4	7	6	3	3	4	2	39
2歳	8	8	3	6	4	1	4	3	4	41
3歳	5	6	3	3	2	4	5	3	2	33
4歳	5	5	2	6	1	3	6	5	2	35
5歳	5	6	2	3	6	6	4	5	2	39
6歳	1	1	2	8	3	2	5	2	1	25
7歳	6	3	2	2	4	7	5	0	2	31
8歳	0	5	3	2	5	3	2	2	4	26
9歳	5	3	4	6	1	2	4	2	2	29
10歳	5	1	0	1	4	5	2	1	0	19
11歳	2	3	4	1	4	0	3	1	2	20
12歳	4	1	3	3	1	2	4	3	1	22
13歳	3	1	1	3	7	1	1	0	1	18
14歳	2	2	0	1	3	2	0	0	0	10
15歳	0	1	2	1	0	0	1	2	1	8
16歳	0	1	0	0	2	2	1	0	2	8
17歳	0	0	1	0	2	0	0	0	1	4
計	66	63	45	57	60	49	53	37	35	465

平成23年度研究報告書

「親子心中」に関する研究(2)

現在の実情—2000年代に新聞報道された事例の分析から

平成25年 3月26日発行

発行 社会福祉法人 横浜博萌会  
子どもの虹情報研修センター  
(日本虐待・思春期問題情報研修センター)

編集 子どもの虹情報研修センター  
〒245-0062 横浜市戸塚区汲沢町983番地  
TEL. 045-871-8011 FAX. 045-871-8091  
mail : info@crc-japan.net  
URL : <http://www.crc-japan.net>

編集 研究代表者 川崎二三彦  
共同研究者 松本 俊彦  
高橋 温  
上野 昌江  
長尾真理子

印刷 (株)ガリバー TEL. 045-510-1341(代)